

中野遺跡 第122地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

埼玉県志木市教育委員会



1. 767号土坑远景



2. 767号土坑出土人骨·炭化材

はじめに

志木市教育委員会
教育長 柚木 博

ここに刊行する『中野遺跡第122地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和4年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

中野遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

今回報告する中野遺跡第122地点では、縄文時代、奈良・平安時代、中・近世の遺構・遺物が発見されました。特に、奈良・平安時代では市内初となる炭焼窯が発見され、志木市の奈良・平安時代を考察するうえで、貴重な資料となりました。また、中世以降の遺構としては、段切状遺構に伴い、土坑、火葬土坑、地下式坑、ピットが発見されました。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例 言

1. 本書は、令和4年度に発掘作業を実施した、埼玉県志木市に所在する中野遺跡122地点の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、分譲住宅建設及び道路新設工事に伴う記録保存のための発掘調査として、文化財保護法第99条に基づき、志木市教育委員会が調査主体者として実施したものである。
3. 本調査に実施にあたり、土木工事主体者（個人）・志木市教育委員会・株式会社中野技術（代表取締役 菅原広志）の三者による協定を締結した上で、株式会社中野技術が発掘調査支援業務を行った。
4. 発掘調査は令和4年8月29日から令和4年12月9日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和5年10月31日まで行った。
5. 本書は大久保聡・尾形則敏・木村結香が監修し、編集は原野真祐・石橋佳奈が行った。執筆は以下の通りである。

第1章 尾形

第2章 第1節 大久保

第2章 第2節～第3・5章 原野・石橋

第4章 第1節 黒沼保子

第4章 第2節 伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadidze

第4章 第3節 辰巳晃司・佐伯史子・奈良貴史

第4章の自然科学分析については1号炭焼窯・767号土坑検出の炭化材分析を株式会社パレオ・ラボ（代表取締役 中村賢太郎）、767号土坑検出の人骨分析を新潟医療福祉大学 奈良貴史に委託した。

6. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。
7. 調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】（令和4・5年度）

調査主体者 志木市教育委員会

教育長 柚木 博

教育政策部長 今野美香

生涯学習課長 土崎健太

生涯学習課副課長 吉成和重

生涯学習課主幹 浅見千穂（～令和4年度）

生涯学習課主査 徳留彰紀

〃 大久保 聡

生涯学習課主任 尾形則敏

〃 石川千尋

生涯学習課主事 塚原会理（令和4年4月～令和5年6月）

〃 木村結香（令和5年度～）

生涯学習課主事補 木村結香（～令和4年度）

生涯学習課主事補	吉田優奈（令和5年8月～）
志木市文化財保護審議会	井上國夫（会長）
”	深瀬 克（委員）
”	上野守嘉（委員）
”	新田泰男（委員）
”	金子博一（委員）（～令和4年度）
”	大木雄平（委員）（令和5年度～）
調査担当者	徳留彰紀・大久保 聡・尾形則敏・木村結香

【株式会社中野技術】

○発掘調査

調査員	原野真祐
現場代理人	石橋佳奈
測量員	小林由典・高橋貴子
調査補助員	石橋佳奈
作業員	石川まゆみ・稲田厚子・白井 孝・神田康一・手塚哲也・星野 歩・ 和田聖子

○整理作業

調査員	原野真祐
調査補助員	石橋佳奈・小林陽子・佐貫 健
作業員	青木利恵・明石千とせ・石川まゆみ・井上麻美子・内田恭子・大原美紀・ 加藤洋子・北根麻由・坂井美樹子・下岡孝明・福泉 藍・山本圭子

8. 発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団・
朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・
富士見市立水子貝塚資料館

9. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和4年8月22日付け 教文資第4-1039号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和5年1月20日付け 教文資第7-127号

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。
 - 第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製
 - 第2図 1：5,000 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行
株式会社ゼンリン
2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。
3. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
4. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
7. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は[]、推定値は()を付した。
高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚
8. 遺構の略記号は、以下のとおりである。
D＝土坑 P＝ピット

目 次

巻頭図版／はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表目次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	8
第2章 発掘調査の概要	10
第1節 調査に至る経緯	10
第2節 調査の経過	11
第3節 基本層序	13
第3章 検出された遺構・遺物	17
第1節 縄文時代の遺構・遺物	17
第2節 奈良・平安時代の遺構・遺物	23
第3節 中世以降の遺構・遺物	24
第4節 遺構外出土遺物	65
第4章 自然科学分析	70
第1節 炭化材の樹種同定	70
第2節 放射性炭素年代測定	73
第3節 埼玉県志木市中野遺跡第122地点から出土した焼人骨の人類学的報告	76
第5章 調査のまとめ	80
第1節 旧石器・縄文時代について	80
第2節 奈良・平安時代について	80
第3節 中世以降について	82
図 版	
報告書抄録	

插图目次

第1図	市域の地形と遺跡分布(1/20,000)	2
第2図	中野遺跡の調査地点(1/3,000)	9
第3図	確認調査時の遺構分布図(1/500)	10
第4図	旧石器試掘坑設定位置図(1/400)	14
第5図	基本層序(1/60)	14
第6図	遺構分布図(1/150)	15・16
第7図	縄文時代の土坑・ピット(1/60)	21
第8図	縄文時代の土坑・ピット出土遺物(1/3)	22
第9図	1号炭焼窯(1/60)	23
第10図	1号段切状遺構1(1/60)	25
第11図	1号段切状遺構2(1/60)	26
第12図	1号段切状遺構出土遺物(1/4・1/3)	27
第13図	2号段切状遺構(1/60)	28
第14図	2号段切状遺構出土遺物(1/3)	29
第15図	3号段切状遺構(1/60)	29
第16図	中世以降の土坑1(1/60)	31
第17図	中世以降の土坑2(1/60)	34
第18図	中世以降の土坑3(1/60)	39
第19図	中世以降の土坑4(1/60)	43
第20図	中世以降の土坑5(1/60)	46
第21図	中世以降の土坑6(1/60)	47
第22図	中世以降の土坑7(1/30)	48
第23図	中世以降の土坑8(1/10)	49
第24図	中世以降の土坑9(1/60)	51
第25図	中世以降の土坑10(1/60)	53
第26図	中世以降の土坑出土遺物(4/5・1/3・1/4)	56
第27図	中世以降のピット1(1/60)	58
第28図	中世以降のピット2(1/60)	59
第29図	中世以降のピット3(1/60・1/30)	60
第30図	中世以降のピット4(1/60)	61
第31図	中世以降のピット5(1/60)	62
第32図	中世以降のピット6(1/60)	63
第33図	中世以降のピット出土遺物(1/3)	64
第34図	遺構外出土遺物(1/1・1/3・1/4)	66
第35図	遺構外出土遺物(4/5・1/3・1/4)	67

第36図	暦年較正結果	75
第37図	大山遺跡周辺の炭焼窯検出遺跡	81
第38図	東台遺跡周辺の炭焼窯検出遺跡	81
第39図	中野遺跡段切造成面範囲分布図	82

目 次

第1表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第2表	発掘調査工程表	12
第3表	縄文時代の土坑・ビット出土土器一覧	22
第4表	1号段切状遺構出土遺物一覧	27
第5表	2号段切状遺構出土遺物一覧	29
第6表	中世以降の土坑一覧(1)	55
	中世以降の土坑一覧(2)	56
第7表	中世以降の土坑出土土瓦一覧	56
第8表	中世以降の土坑出土銭貨一覧	57
第9表	中世以降の土坑出土磁器・土器一覧	57
第10表	中世以降の土坑出土陶磁器一覧(写真図版)	57
第11表	中世以降の土坑出土鉄・石製品一覧	57
第12表	中世以降のビット一覧(1)	63
	中世以降のビット一覧(2)	64
第13表	中世以降のビット出土石製品一覧	65
第14表	中世以降のビット出土土器一覧(写真図版)	65
第15表	遺構外出土旧石器・縄文時代石器・石製品一覧	67
第16表	遺構外出土縄文土器一覧(1)	67
	遺構外出土縄文土器一覧(2)	68
第17表	遺構外出土陶磁器・土器一覧	68
第18表	遺構外出土土瓦一覧	68
第19表	遺構外出土石製品・銅製品一覧	69
第20表	遺構外出土銭貨一覧	69
第21表	遺構別の樹種同定結果	70
第22表	樹種同定結果一覧(1号炭焼窯)	72
第23表	樹種同定結果一覧(767D)	72
第24表	測定試料および処理	73
第25表	放射性炭素年代測定および暦年較正の結果	74
第26表	出土人骨一覧表	79

図版目次

巻頭図版

1. 767号土坑遠景
2. 767号土坑出土人骨・炭化材

図版1

1. 調査区遠景
2. 調査区全景

図版2

1. 調査前現況（北東から）
2. 調査前現況（北西から）
3. 調査区東・中央部表土剥ぎ（北から）
4. 調査区西部表土剥ぎ（東から）
5. 東・中央部プラン確認精査（北から）
6. 西部プラン確認精査（東から）
7. 調査区東・中央部プラン確認（北西から）
8. 調査区西部プラン確認（北東から）

図版3

1. 作業風景（北東から）
2. 旧石器試掘坑T P 1（北から）
3. 旧石器試掘坑T P 2（南から）
4. 旧石器試掘坑T P 3（東から）
5. 旧石器試掘坑T P 4（西から）
6. 旧石器試掘坑T P 5（西から）
7. 旧石器試掘坑T P 6（西から）
8. 旧石器試掘坑T P 7（南から）

図版4

1. 720号土坑遺物出土状況（北から）
2. 720号土坑完掘（北から）
3. 752号土坑遺物出土状況（西から）
4. 753号土坑遺物出土状況（西から）
5. 756号土坑遺物出土状況（西から）
6. 757・758号土坑遺物出土状況（西から）
7. 771号土坑完掘（西から）
8. 779号土坑完掘（東から）

図版5

1. 781号土坑土層断面（南から）

2. 781号土坑完掘（南から）
3. 783号土坑土層断面（東から）
4. 783号土坑土層断面（南から）
5. 783号土坑焼土検出状況（東から）
6. 783号土坑遺物出土状況（南から）
7. 78号ピット土層断面（西から）
8. 78号ピット完掘（北から）

図版6

1. 1号炭焼窯検出状況（西から）
2. 1号炭焼窯検出状況（東から）
3. 1号炭焼窯土層断面D-D'（北から）
4. 1号炭焼窯土層断面B-B'、C-C'（西から）
5. 1号炭焼窯土層断面A-A'（東から）
6. 1号炭焼窯土層断面A-A'（東から）
7. 1号炭焼窯土層断面A-A'（ベルト除去後）（東から）
8. 1号炭焼窯完掘（西から）

図版7

1. 1号段切状遺構土層断面F-F'（北から）
2. 1号段切状遺構土層断面F-F'（北東から）
3. 1号段切状遺構土層断面E-E'（南から）
4. 1号段切状遺構完掘（南から）
5. 2号段切状遺構遺物出土状況（北から）
6. 2号段切状遺構土層断面C-C'（北から）
7. 2号段切状遺構完掘（北東から）
8. 3号段切状遺構完掘（北東から）

図版8

1. 717号土坑完掘（南から）
2. 718号土坑完掘（南から）
3. 719号土坑完掘（東から）
4. 721号土坑土層断面（東から）
5. 721号土坑完掘（東から）
6. 721号土坑完掘（南から）
7. 722号土坑完掘（北から）
8. 723号土坑完掘（北から）

図版9

1. 724号土坑完掘（西から）
2. 725～729号土坑完掘（西から）
3. 730・735号土坑完掘（北から）

4. 731・732号土坑完掘（西から）
5. 733・734号土坑完掘（西から）
6. 736号土坑完掘（南から）
7. 737号土坑完掘（北から）
8. 738号土坑完掘（西から）

図版 10

1. 739号土坑完掘（北から）
2. 741号土坑完掘（北西から）
3. 742号土坑完掘（西から）
4. 743号土坑完掘（北西から）
5. 748号土坑完掘（西から）
6. 749号土坑完掘（東から）
7. 754号土坑完掘（南から）
8. 759・760号土坑完掘（西から）

図版 11

1. 767号土坑土層断面H-H'（北から）
2. 767号土坑土層断面H-H' 近景（北から）
3. 767号土坑炭化物・骨検出状況1（北から）
4. 767号土坑炭化物・骨検出状況2（北から）
5. 767号土坑炭化物・骨検出状況3（東から）
6. 767号土坑炭化物（骨除去後）（北から）
7. 767号土坑完掘1（西から）
8. 767号土坑完掘2（西から）

図版 12

1. 768号土坑完掘（西から）
2. 769号土坑完掘（南から）
3. 770号土坑完掘（南から）
4. 773号土坑完掘（東から）
5. 774号土坑完掘（東から）
6. 775号土坑完掘（北から）
7. 776・777号土坑完掘（東から）
8. 782号土坑完掘（北から）

図版 13

1. 縄文時代の土坑・ピット出土遺物
2. 1号段切状遺構出土遺物

図版 14

1. 2号段切状遺構出土遺物
2. 中世以降の土坑・ピット出土遺物

図版 15

遺構外出土遺物 1

図版 16

遺構外出土遺物 2

図版 17

炭化材の走査型電子顕微鏡写真

図版 18

767号土坑（火葬土坑）出土人骨 1

図版 19

767号土坑（火葬土坑）出土人骨 2

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 市域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりをもち、面積は9.05km²、人口約7万6千人の自然と文化の調和する都市である。

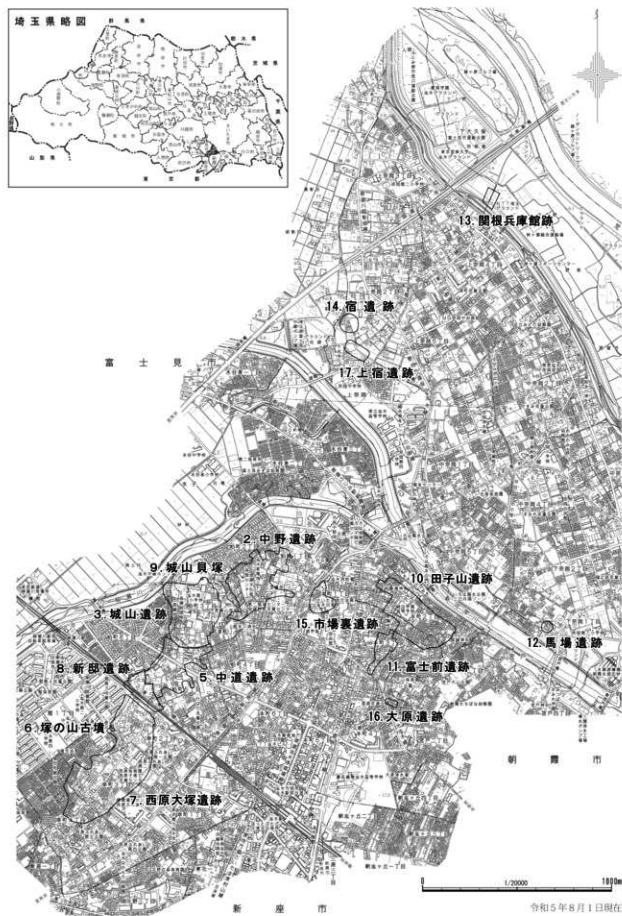
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新 邸 遺 跡（8）、中 道 遺 跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と

№	遺 跡 名	遺跡の規模	地 目	遺跡の種類	遺跡の時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物
2	中 野	71,220 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城 山	82,520 m ²	畑・宅地	貝塚・城館跡・集落跡・墓跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(中・後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柵状跡等、跡造り遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造銅遺物等
5	中 道	54,420 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m ²	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164,960 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、地下式坑、井戸跡、溝跡、段切状遺構等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新 邸	20,080 m ²	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前～後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ヒット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m ²	林	貝 塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム探検遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830 m ²	宅 地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬 場	2,800 m ²	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m ²	グラウンド	館 跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m ²	水 田	館 跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800 m ²	宅 地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大 原	1,700 m ²	宅 地	集落跡	近世以降?	溝跡	なし
17	上 宿	8,600 m ²	水田・宅地	集落跡・墓跡	平安、中・近世	住居跡、土坑、溝跡、井戸跡	土師器、須恵器、陶磁器、灰砂等
合 計		523,260 m ²					

令和5年1月10日 現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1 / 20,000)

名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡(12)、宿遺跡(14)、関根兵庫館跡(13)が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡(17)が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳(6)、城山貝塚(9)を加えた15遺跡である(第1図・第1表)。

(2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2か所、平成7(1995)年度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。令和元(2019)年には第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成28(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91㊦地点からは、礫群1基が検出された。令和元～2(2019～2020)年にかけて発掘調査された中野遺跡第109地点では、立川ローム層第Ⅳ層下部～第Ⅴ層を中心とする石器集中地点が検出されており、石核調整剥片の良好な接合資料が出土している。

また、城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21(2008・2009)調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも1か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅵ層・第Ⅶ層で石器集中地点や礫群が検出されている。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山遺跡第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡としては、令和4(2022)年に田子山遺跡第172地点で市内初となる摺糸文期の住居跡が1軒検出された。また、平成18(2006)年に発掘調査が実施さ

れた中道遺跡第65地点では、早期末葉(条痕文系)の10号住居跡が検出されている。土器としては、田子山遺跡で摺糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から摺糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。令和元(2019)年度に発掘調査が実施された城山遺跡第96地点、令和3～4(2021～2022)年に実施された中野遺跡第116①地点では、前期後葉の諸磯a式期の住居跡が検出されている。そのうち、城山遺跡第96地点では貝層を持つ住居跡が3軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で200軒以上の住居跡が環状に分布していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成28(2016)年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EⅣ式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡2軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1か所、平成25(2013)年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居(敷石住居)1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。その他、平成26(2014)年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28(2015・2016)年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期(称名寺式～堀之内式期)の遺物が比較的多く出土している。最新資料として、平成30(2018)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第216地点で、堀之内1式期の住居跡が1軒検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行3c式・千網式の土器片が少量発見されている。また、令和3(2021)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第234地点で、遺構外出土ではあるが、縄文時代晩期～弥生時代初頭に位置づけられる土器片が1点発見されている。以降、市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元(2019)年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。なお、これらの資料のうち、土器、石器、土製品計44点の城山遺跡10号住居跡出土遺物は、考古資料として、市指定文化財(令和3年7月1日付け)に指定されている。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27・28(2015・2016)年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原

土器を出土する住居跡が発見されている。平成6(1994)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子(イネ・アワ・ダイズなど)、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が650軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24(2012)年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅剣が出土している。

昭和62(1987)年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、平成15(2003)年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18(2006)年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位のなまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、第223地点10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11(1999)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺形土器が出土している。なお、鳥形土製品1点と壺形土器4点の計5点は、考古資料として、市指定文化財(平成25年3月1日付け)に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15(2003)年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7(1995)年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後葉から7世紀後葉にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後葉以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期(7世紀中葉)の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後葉から7世紀後葉にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で265軒、次いで中野遺跡で58軒、中道遺跡で20軒、田子山遺跡で17軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後葉以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で2か所にブリッジをもつ小型の円形周溝溝が1基確認されている。さらに、平成14(2002)年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山・富士前遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8(1996)年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21(2008・2009)年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶よじしんぼが2枚とその近くからは鉄鎌1点と土鍾1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡として100基を越える土坑群が検出されている。平成6(1994)年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

最新では、令和元(2019)年と令和3(2021)年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、平安時代の住居跡・土壘・溝跡などが検出され、宗岡地区における自然堤防上に立地する遺跡の存在が明らかになりつつある。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、市指定文化財(平成25年3月1日付け)に指定されている。

6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『むらさき旧記』(註1)にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『かいてくぞうき然国雑記』(註2)に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「おぼつかじゆうまよら大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう(神山 1988・2002)。

また、平成7(1995)年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子(イネ・オオムギ・コムギなど)も出土し

ており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている（佐々木保・尾形 1997）。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、铸造関連の遺構が検出されている。130号土坑については铸造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の铸造関連の捨て場が明らかになった。この調査では、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧の札である鉄製品1点と鉄鎌1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村日記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある（志木市総務部 1981）。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村日記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

最新資料としては、令和2・3（2020・2021）年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第234地点の地下式坑（912号土坑）から、人骨（女性2体）と完形品の播鉢が共存する良好な資料が発見された。人骨は「通常とは異なる状況」で埋葬されたと考えられ（田中 2022）、播鉢は古瀬戸後期IV古～新段階（藤澤 2008）に比定されることから、時期は中世（15世紀中葉～後葉）のものと考えられる。

また、令和元（2019）年と令和3（2021）年に一般国道254号和光富士見バイパス事業に伴い発掘調査が実施された上宿遺跡により、中・近世の土坑・井戸跡・溝跡などの多くの遺構が検出され、中世における『宗阿宿』の様相や近世における千光寺に関連する墓域群などを知ることができる貴重な成果につながった。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造(明治2～5年)に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鎌などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15(2003)年の新邸遺跡第8地点からは、野火止水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第2節 遺跡の概要

ここでは、今回本書で報告する中野遺跡について概観することにする。

中野遺跡は、志木市柏町1丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2kmに位置している。遺跡は、柳瀬川流域右岸の台地上に立地しており、標高は北端で約9m、南端で約11mを測り、台地縁辺では際立った断崖もみられないまま、ゆるやかに北側の低地に移行する。遺跡の現況は、宅地化が急速に進行している地域で、畑地は減少している。

本遺跡は、これまでに125地点の調査(令和5年8月1日現在)が実施され、旧石器時代、縄文時代早期～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。

【註】

註1 『館村旧記』は、館村(現在の志木市柏町・幸町・館^{きん})の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14(1727～1729)年にかけて執筆したものである。

註2 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18(1486)年6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

【引用文献】

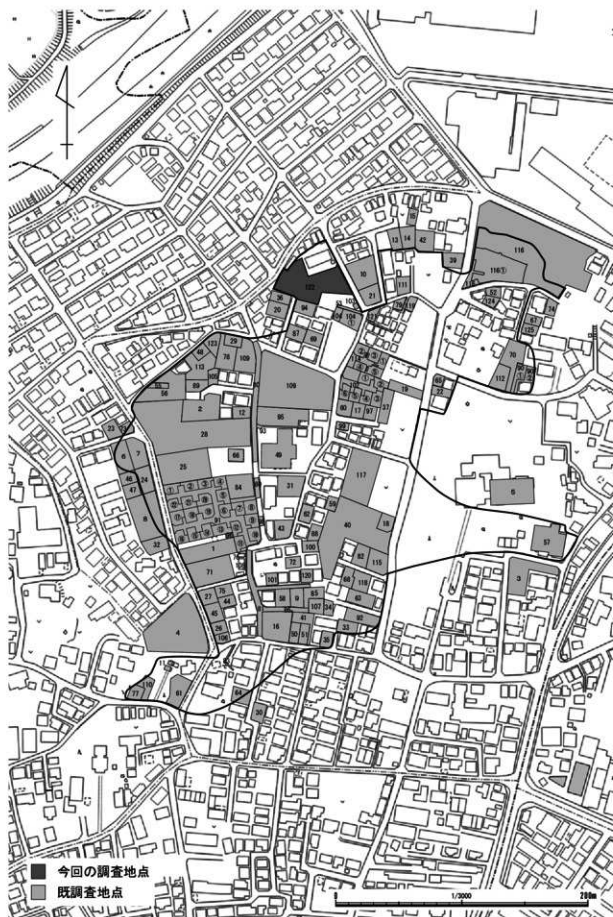
神山健吉 1988『「廻回雑記」に現れる大石信濃守の館と十五坊の所在についての一考察』『郷土志木』第7号
2002『道興をめぐる二つの譯説を糾す』『郷土志木』第31号

佐々木保俊・尾形剛敏 1997『志木市遺跡群Ⅶ』志木市の文化財第25集 志木市教育委員会

志木市総務部市史編纂室 1981『志木市史調査報告書 志木風土記(第二集)』

田中 信 2022『第3章 調査のまとめ 第3節 中世以降について』『西原大塚遺跡第234地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』
志木市の文化財第86集 埼玉県志木市教育委員会

藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院



第2図 中野遺跡の調査地点 (1/3,000)

第2章 発掘調査の概要

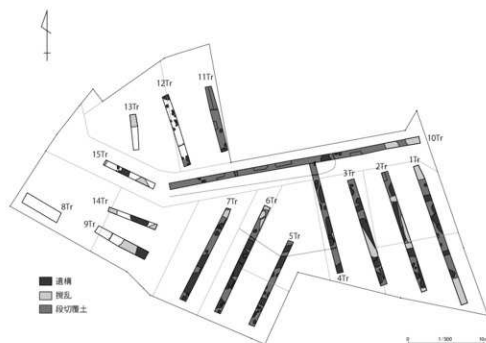
第1節 調査に至る経緯

本地点は、令和3年11月、あさか野農業協同組合（JAあさか野）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町1丁目1483-13（面積1,274.04㎡）地における個人の相続手続きのために土地の売却を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228-09-002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

令和4年3月10日、教育委員会は土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、中野遺跡第122地点として、4月18～22日に確認調査を実施した。土木工事の内容は、分譲住宅建設を実施しようとするものであった。確認調査は、第3図に示すように調査区に15本のトレンチ（1～15 Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中世以降の土坑63基・溝跡1本・柱穴41本・段切状遺構を確認した。教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に



第3図 確認調査時の遺構分布図（1／500）

報告し、保存措置について検討を依頼した。

その後、6月以降、個人の代理人であるJAあさか野から連絡があったため、保存措置についての事前打合せを実施した。その結果、工事内容は分譲住宅建設及び道路新設工事であり、併せて浸透トレンチを設置するものであった。また、宅地建設予定箇所では部分的な深基礎掘削を行う計画であった。よって、全敷地（面積1,274.04㎡）のうち宅地深基礎部分・浸透トレンチ部分・道路部分の709.04㎡については、盛土保存を適用することができないことを確認したため、発掘調査を実施することに決定した。

7月15日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より埋蔵文化財発掘調査依頼書が提出されたため、29日に発掘調査の実施に向けた事前協議を実施した。

8月25日、土木工事主体者・教育委員会・民間調査組織である株式会社中野技術（代表取締役 菅原広志）において三者協議を実施し、令和4年8月29日付けで、中野遺跡第122地点埋蔵文化財保存事業に係る三者による協定を締結した。

教育委員会は、8月22日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上より、教育委員会を調査主体に令和4年8月29日から発掘調査を実施した。

第2節 調査の経過

発掘調査は令和4年8月29日から12月9日まで実施した。調査に際しては排土置き場の制約により、調査区を3部分に分け前半（東部・中央部）、後半（西部）の反転調査で進めた。以下、発掘調査の大まかな経過を説明し、各遺構の精査経過については、第2表の発掘調査工程表に示した。

準備作業として令和4年8月25日から現場事務所設営、器材搬入、基準点測量及び調査区の位置出しを行った後、8月29日から0.25㎡バックホー2台により前半の表土除去を開始した。並行して調査区整備や遺構確認作業、検出状況の写真撮影を行った後、9月5日から精査を開始した。10月27日前半部の調査を終了し、10月31日に前半部の埋め戻しを開始し、11月2日に前半部の埋め戻し終了と同時に後半部（西部）の表土剥ぎを開始した。12月5日に後半部の調査が終了し、12月7日から後半部の埋め戻し及び撤収作業を開始し、12月8日に埋め戻し、12月9日に撤収作業が完了し、発掘作業の終了となった。

- 9月上旬 前半の調査区東・中央部調査開始。調査区試掘坑掘削。1号段切状遺構、土坑（717D）掘削開始。
- 中旬 土坑（718D）掘削開始。
- 下旬 土坑（720～723・725～729D）掘削開始。土坑（717～720D）完掘・写真撮影・平面測量。
- 10月上旬 土坑（724・730～735・783D）掘削開始。土坑（722・723D）完掘・写真撮影・平面測量。
- 中旬 2号段切状遺構・土坑（736～747D）掘削開始。土坑（737・738・744～746・783D）完掘・写真撮影・平面測量。
- 下旬 前半部空掘。1～3号段切状遺構、土坑（721・724・731～734・736・739・740D）完掘・写真撮影・平面測量。旧石器試掘坑（TP1～4）掘削・完掘・写真撮影・断面図

第2章 発掘調査の概要

	8月				9月				10月				11月				12月							
	5日	10日	15日	25日	30日	5日	10日	15日	25日	30日	5日	10日	15日	25日	30日	5日	10日	15日	25日	30日	5日	10日	15日	25日
出土品目	8.27 11.4																							
1号段中央遺構	9.17 10.22																							
2号段中央遺構	10.17 10.24																							
3号段中央遺構	10.21 10.24																							
717D	9.17 9.26																							
718D	9.11 9.26																							
719D	9.21 9.26																							
720D	9.27 9.29																							
721D	9.27 10.21																							
722D	9.27 10.4																							
723D	9.27 10.8																							
724D	10.4 10.21																							
725D	9.29 10.22																							
726D	9.29 10.22																							
727D	9.29 10.22																							
728D	9.29 10.22																							
729D	9.29 10.22																							
730D	10.1 10.24																							
731D	10.1 10.21																							
732D	10.1 10.21																							
733D	10.1 10.24																							
734D	10.1 10.21																							
735D	10.1 10.24																							
736D	10.1 10.21																							
737D	10.1 10.21																							
738D	10.1 10.21																							
739D	10.1 10.21																							
740D	10.1 10.21																							
741D	10.1 10.22																							
742D	10.1 10.24																							
743D	10.1 10.24																							
744D	10.1 10.24																							
745D	10.1 10.24																							
746D	10.1 10.24																							
747D	11.7 11.9																							
748D	11.7 11.9																							
749D	11.7 11.9																							
750D	11.7 11.9																							
751D	11.7 11.9																							
752D	11.7 11.9																							
753D	11.7 11.9																							
754D	11.7 11.9																							
755D	11.7 11.9																							
756D	11.7 11.9																							
757D	11.7 11.9																							
758D	11.7 11.9																							
759D	11.7 11.9																							
760D	11.7 11.9																							
761D	11.7 11.9																							
762D	11.7 11.9																							
763D	11.7 11.9																							
764D	11.7 11.9																							
765D	11.7 11.9																							
766D	11.7 11.9																							
767D	11.7 11.9																							
768D	11.7 11.9																							
769D	11.7 11.9																							
770D	11.7 11.9																							
771D	11.7 11.9																							
772D	11.7 11.9																							
773D	11.7 11.9																							
774D	11.7 11.9																							
775D	11.7 11.9																							
776D	11.7 11.9																							
777D	11.7 11.9																							
778D	11.7 11.9																							
779D	11.7 11.9																							
780D	11.7 11.9																							
781D	11.7 11.9																							
782D	11.7 11.9																							
783D	11.7 11.9																							
1号段西端	10.1 10.10																							
T.P.1	10.24 10.27																							
T.P.2	10.25 10.27																							
T.P.3	10.26 10.27																							
T.P.4	10.26 10.27																							
T.P.5	12.29 12.29																							
T.P.6	12.29 12.29																							
T.P.7	12.29 12.29																							
埋戻し作業	10.31 11.2																							

第2表 発掘調査工程表

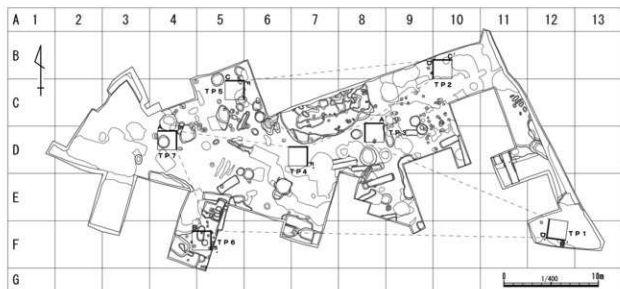
作成。前半部埋め戻し開始。

- 11月上旬 前半部埋め戻し終了。後半部(調査区西部)表土剥ぎ開始・終了。土坑(747～772D)掘削開始。土坑(747～749・752～764・768・771・772D)完掘・写真撮影・平面測量。
- 中旬 1号炭焼窯掘削開始。土坑(769・770・773～780D)掘削開始。土坑(768～770・773・775～780D)完掘・写真撮影・平面測量。
- 下旬 後半部空撮。土坑(781D)掘削開始。
- 12月上旬 土坑(782D)掘削開始。土坑(767・781・782D)完掘・写真撮影・平面測量。旧石器試掘坑(TP5～7)掘削開始・完掘・写真撮影・断面図作成。後半部埋め戻し。撤収作業。発掘作業終了。

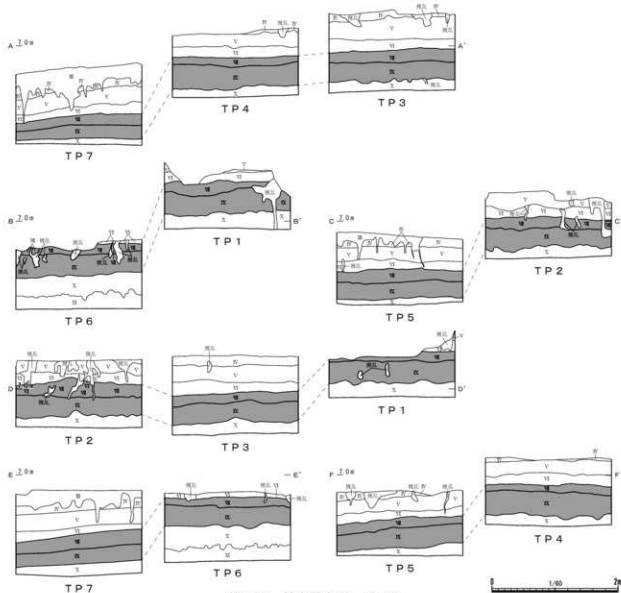
第3節 基本層序

本調査区では7か所の旧石器試掘坑(以下TP)を設定し、基本層序を記録した。基本的に、立川ローム第X層上位相当まで掘り下げを行った。TP1・2はV層上～下部、TP3・4はIV層下部、TP5はIV層下部まで削平を受けており、TP6はVI層下部まで削平を受け、TP7ではIX層下層で湧水が確認され、地下水位が高い状況が伺えた。本調査地点の自然地形を基本層序における第二黒色帯(VII・IX層)でみると、南東から北西方向に緩やかに傾斜する緩斜面地で、北西部に向かうにつれ、勾配が大きくなる地形であったことが推測される。また、その地形に対して、基本層序の削平状況をみると、C～E-4グリッド・TP7より西側は、自然地形を残し、東側は中世以降と考えられる段切状遺構の検出により、大規模な切土造成が行われたものと考えられる(第6図の破線を参照)。

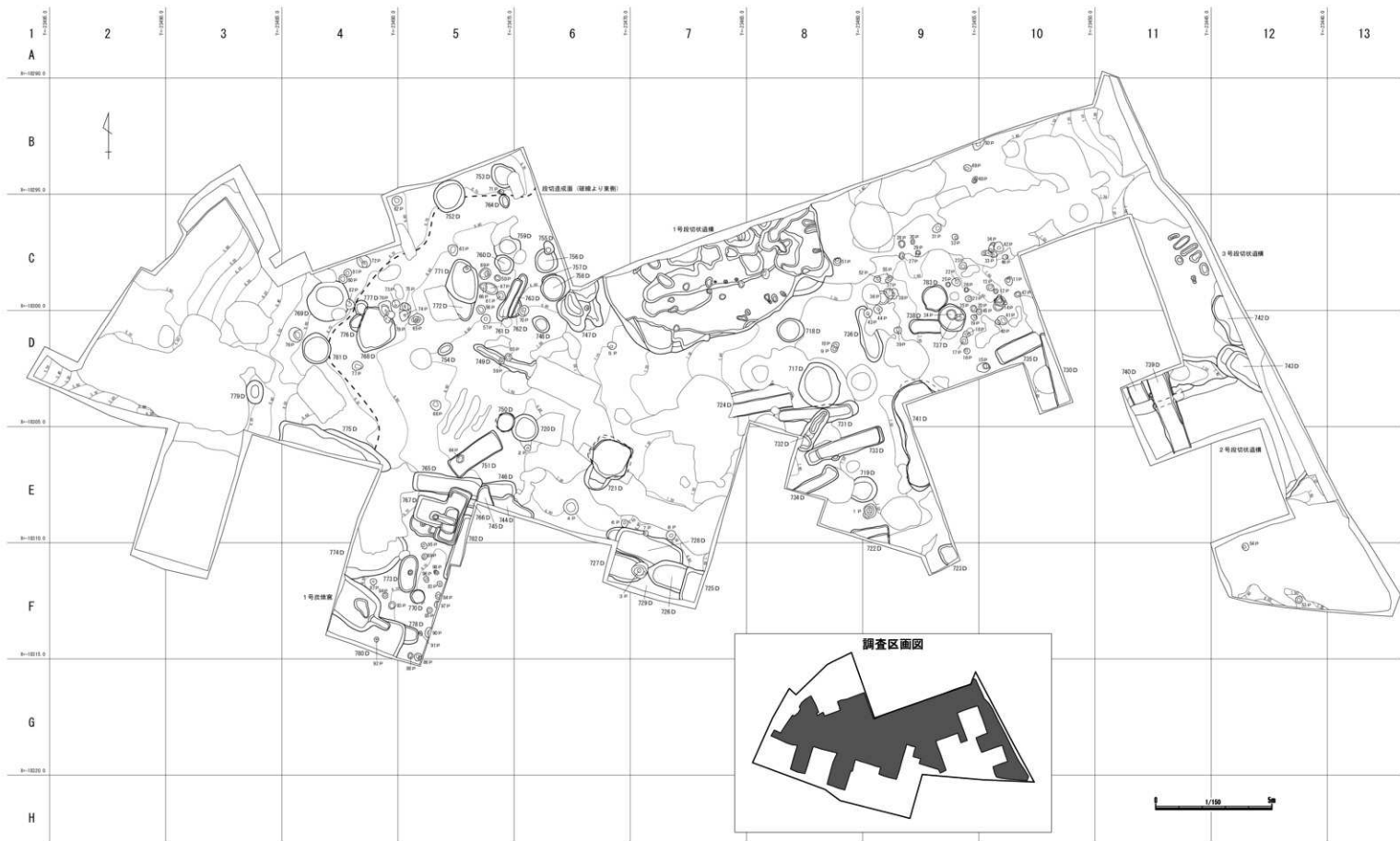
- III層 明黄褐色土 白色粒子(ϕ 0.5mm)・黒色スコリア(ϕ 1mm)・橙色スコリア(ϕ 1.2mm)をごく僅かに含む。粘性あり。しまり強い。
- IV層 にぶい黄橙色土 黒色粒・赤色スコリア(ϕ 1～2mm)を僅かに、白色粒(ϕ 1～2mm)をごく僅かに含む。粘性あり。しまり強い。
- V層 にぶい黄橙色土 黒色粒(ϕ 1～3mm)・赤色スコリア・白色粒(ϕ 1～2mm)を多く含む。粘性あり。しまり強い。第1黒色帯。
- VI層 明黄褐色土 黒色粒・赤色スコリア(ϕ 1～2mm)を多く、白色粒(ϕ 1～2mm)をごく僅かに含む。粘性あり。しまり強い。AT包含層準。
- VII層 にぶい黄橙色土 黒色粒・赤色スコリア(ϕ 1～2mm)を多く、白色粒(ϕ 1～2mm)をごく僅かに含む。粘性あり。しまり強い。第2黒色帯上部。
- IX層 にぶい黄橙色土 黒色粒・赤色スコリア(ϕ 1～2mm)を僅かに含む。粘性あり。しまり強い。第2黒色帯下部。
- X層 明黄褐色土 黒色粒・赤色スコリア(ϕ 1～2mm)を僅かに含む。粘性あり。しまり強い。
- XI層 にぶい黄橙色土 黒色粒・赤色スコリア(ϕ 1～2mm)・白色粒(ϕ 1～2mm)を僅かに含む。粘性あり。しまり強い。



第4図 旧石器試掘坑設定位置図 (1/400)



第5図 基本層序 (1/60)



第6图 遺構分布图 (1 / 150)

第3章 検出された遺構・遺物

第1節 縄文時代の遺構・遺物

(1) 概要

本地点からは縄文時代の土坑10基(720・752・753・756～758・771・779・781・783D)、ピット1本(78P)が検出された。土坑からの出土遺物は、720・756・758Dで中期中葉の五領ヶ台式土器、752・771・781・783Dで前期末葉の十三菩提式土器、752Dで早期後葉の条痕文系土器、753Dで中期中葉の黒浜式土器、783Dで前期後葉の諸磯b・c式土器、ピットでは78Pから前期後葉の諸磯a式土器が出土している。

(2) 土坑

720号土坑

遺 構 (第7図)

〔位 置〕 (D・E-5・6)グリッド

〔検出状況〕 750Dに切られる。

〔構 造〕 平面形：円形。断面形：北壁は60°で緩やかに立ち上がり、南壁は65°で緩やかに立ち上がりながら攪乱に切られる。底面はほぼ平坦である。規模：長軸1.18m/短軸1.14m/深さ28cm。長軸方位：N-10°-W。

〔覆 土〕 3層に分層される。

〔遺 物〕 地点上げ遺物で縄文土器1点、石器3点(剥片3点)、礫1点が出土した。

〔時 期〕 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代中期前葉と思われる。

遺 物 (第8図、図版13-1、第3表)

〔土 器〕 (第8図、図版13-1-1、第3表)

1は中期前葉の五領ヶ台式土器である。

752号土坑

遺 構 (第7図)

〔位 置〕 (B・C-5)グリッド

〔検出状況〕 単独。

〔構 造〕 平面形：円形。断面形：壁は50°で立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.36m/短軸1.28m/深さ22cm。長軸方位：N-40°-E。

〔覆 土〕 3層に分層される。

〔遺 物〕 地点上げ遺物で縄文土器1点、一括遺物で縄文土器1点が出土した。

〔時 期〕 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代前期末葉と思われる。

遺 物 (第8図、図版13-1、第3表)

[土器] (第8図1・2、図版13-1-1・2、第3表)

1は早期後葉の条痕文系土器、2は前期末葉の十三菩提式土器である。

753号土坑

遺構 (第7図)

[位置] (B-5・6)グリッド

[検出状況] 攪乱に切られる。

[構造] 平面形：楕円形。断面形：北壁は35°で緩やかに立ち上がり、南壁は55°で直線的に立ち上がる。底面は平坦で部分的に凹凸。規模：長軸1.20m/短軸1.00m/深さ18cm。長軸方位：N-20°-W。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 地点上げ遺物で縄文土器1点、一括遺物で縄文土器1点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代前期中葉と思われる。

遺物 (第8図、図版13-1、第3表)

[土器] (第8図1、図版13-1-1、第3表)

1は前期中葉の黒浜式土器である。

756号土坑

遺構 (第7図)

[位置] (C-6)グリッド

[検出状況] 755Dに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。断面形：西壁は55°で直線的に立ち上がり、東壁は35°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.05m/短軸0.95m/深さ20cm。長軸方位：N-10°-W。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 地点上げ遺物で縄文土器1点、一括遺物で縄文土器1点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代中期前葉と思われる。

遺物 (第8図、図版13-1、第3表)

[土器] (第8図1、図版13-1-1、第3表)

1は中期前葉の五領ヶ台式土器である。

757号土坑

遺構 (第7図)

[位置] (C-6)グリッド

[検出状況] 大部分を758Dに破壊され、北側立ち上がり付近が一部残るのみである。

[構造] 平面形：不明。断面形：西壁は55°で直線的に立ち上がり、東壁は40°で緩やかに立ち上がる。規模：長軸不明/短軸不明/深さ8cm。長軸方位：不明。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察や重複関係から、縄文時代と思われる。

758号土坑

遺 構 (第7図)

[位 置] (C-6)グリッド

[検出状況] 757Dを切る。

[構 造] 平面形：円形。断面形：西壁は60°、東壁は50°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.10m/短軸1.05m/深さ27cm。長軸方位：N-20°-W。

[覆 土] 4層に分層される。

[遺 物] 地点上げ遺物で縄文土器1点、一括遺物で縄文土器1点が出土した。

[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代中期前葉と思われる。

遺 物 (第8図、図版13-1、第3表)

[土 器] (第8図1、図版13-1-1、第3表)

1は中期前葉の五領ヶ台式土器である。

771号土坑

遺 構 (第7図)

[位 置] (C・D-5)グリッド

[検出状況] 772Dに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：北壁は60°で立ち上がり、南壁は20°で緩やかに立ち上がり、772Dに切られる。底面は平坦。規模：長軸現況2.00m/短軸1.00m/深さ27cm。長軸方位：N-20°-W。

[覆 土] 4層に分層される。

[遺 物] 一括遺物で縄文土器2点が出土した。

[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代前期末葉と思われる。

遺 物 (第8図、図版13-1、第3表)

[土 器] (第8図1、図版13-1-1、第3表)

1は前期末葉の十三菩提式土器である。

779号土坑

遺 構 (第7図)

[位 置] (D-3)グリッド

[検出状況] 単独。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：北壁は30°で直線的に立ち上がり、南壁は20°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸0.99m/短軸0.70m/深さ11cm。長軸方位：N-5°-W。

[覆 土] 単層である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

781号土坑

遺 構 (第7図)

[位 置] (D-4)グリッド

[検出状況] 単独。

[構 造] 平面形：不整の楕円形。断面形：西壁は75°、東壁は55°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.32m/短軸1.20m/深さ28cm。長軸方位：N-20°-W。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 地点上げ遺物で縄文土器1点が出土した。

[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代前期末葉と思われる。

遺 物 (第8図、図版13-1、第3表)

[土 器] (第8図1、図版13-1-1、第3表)

1は前期末葉の十三菩提式土器である。

783号土坑

遺 構 (第7図)

[位 置] (C-9)グリッド

[検出状況] 単独。

[構 造] 平面形：不整楕円形。断面形：壁は75°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.20m/短軸1.08m/深さ24cm。長軸方位：N-30°-W。

[覆 土] 8層に分層される。遺構中央部上層(1・3・4層)に多量の焼土範囲がみとめられた。

[遺 物] 地点上げ遺物で縄文土器4点、礫1点が出土した。

[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代前期末葉と思われる。

遺 物 (第8図、図版13-1、第3表)

[土 器] (第8図1~3、図版13-1-1~3、第3表)

1は前期後葉の諸磯b式土器、2は前期後葉の諸磯c式土器、3は前期末葉の十三菩提式土器である。

(3) ピット

78号ピット

遺 構 (第7図)

[位 置] (D-4)グリッド

[検出状況] 768D、79P、攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸現況84cm/短軸現況62cm/深さ83cm。

[覆 土] 3層に分層される。

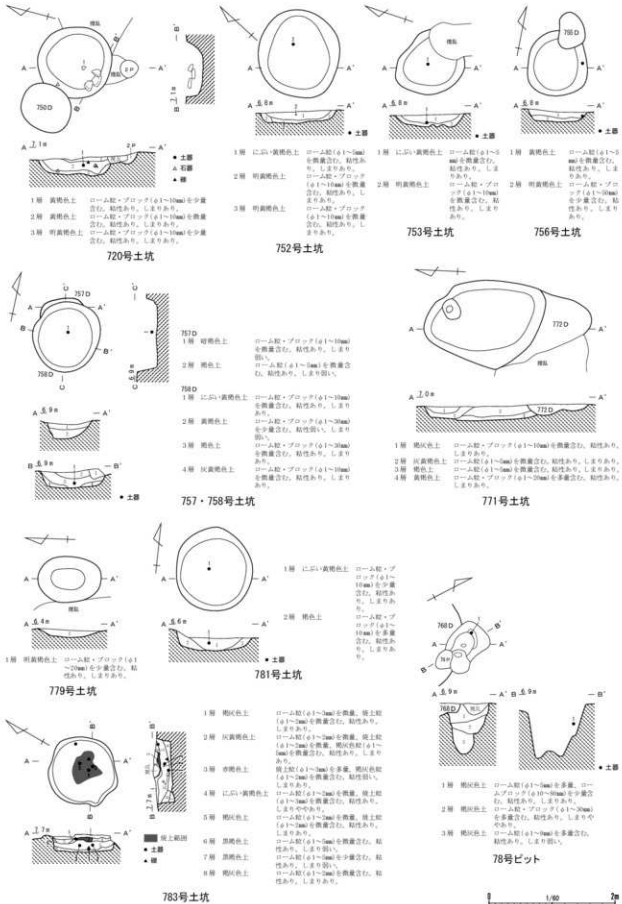
[遺 物] 地点上げ遺物で縄文土器が1点出土した。

[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、縄文時代前期後葉と思われる。

遺 物 (第8図、図版13-1、第3表)

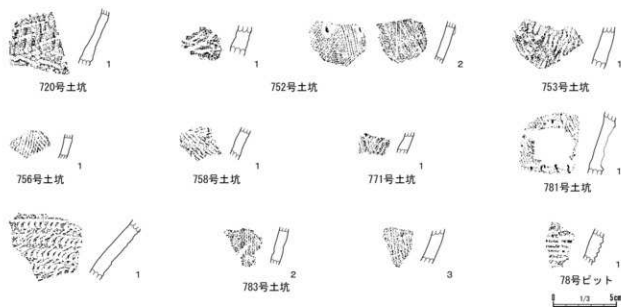
[土 器] (第8図1、図版13-1-1、第3表)

1は前期後葉の諸磯a式土器である。



第7図 縄文時代の土坑・ピット (1/60)

第3章 検出された遺構・遺物



第8図 縄文時代の土坑・ピット出土遺物（1/3）

調査番号 図版番号	出土遺構	種類 図種	部位 遺存状態	法量 (cm)	形状・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第8図1 図版13-1-1	720D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.9	器形は直線的 に外傾	横位結節文/縄文LR	外：黒褐色/内：に い・赤褐色/白色粒 子・黒色粒子・雲母・ チャート	前期後葉 五瀬ヶ台式	覆土中層
第8図1 図版13-1-1	752D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.2	器形は直線的 に外傾	外面は斜位・横位の条痕文	外：明赤褐色/内： にい・黄褐色/白色粒 子・黒色粒子・織 羅	早期後葉 条痕文系	覆土上層
第8図2 図版13-1-2	752D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.7	器形は直線的 に外傾	内外面に扇状の集合沈線/外 面下部に粒状粘付文	褐色/白色粒子・黒 色粒子・石英・チャ ート	前期末葉 十三苜式	覆土下層
第8図1 図版13-1-1	753D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.1	器形は直線的 に外傾	外面に無筋L縄文	外：黒色/内：に い・黄褐色/白色粒 子・黒色粒子・石英・ 雲母・チャート・織 羅	前期中葉 黒沢式	覆土中層
第8図1 図版13-1-1	766D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.6	器形は直線的 に外傾	外面に扇状文	明褐色/白色粒子・ チャート	中期前葉 五瀬ヶ台式	覆土上層
第8図1 図版13-1-1	758D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	器形は直線的 に外傾	外面に首状縄文/無筋L	明赤褐色/白色粒 子・チャート	中期前葉 五瀬ヶ台式	覆土中層
第8図1 図版13-1-1	771D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	器形は直線的 に外傾	外面に扇状比線文	外：灰黄褐色/内： 褐色/白色粒子・ チャート	前期末葉 十三苜式	覆土上層
第8図1 図版13-1-1	781D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.1	器形は直線的 に外傾	外面に粒状粘付文/斜位比線文	外：黒褐色/内：明 褐色/白色粒子・橙 色粒子・黄色粒子・ 黒色粒子・チャ ート	前期末葉 十三苜式	覆土上層
第8図1 図版13-1-1	783D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形は大きく 外傾	手載竹筒による横位平行沈線部 の上部に連続爪形文/下部に斜 位粘付	外：にい・黄褐色/ 内：にい・褐色/白 色粒子・黒色粒子・ チャート	前期後葉 深鉢b式	覆土下層
第8図2 図版13-1-2	783D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.8	器形は直線的 に外傾	外面に縦位比線文	褐色/白色粒子・黒 色粒子・石英・チャ ート	前期後葉 深鉢c式	覆土中層
第8図3 図版13-1-3	783D	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 0.9	器形は緩やか に外傾	外面に縦位比線文	褐色/白色粒子・黒 色粒子	前期末葉 十三苜式	覆土中層
第8図1 図版13-1-1	78P	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 1.0	器形は直線的 に外傾	手載竹筒による平行沈線	外：褐色/内：暗灰 色/白色粒子・黒色 粒子・チャート	前期後葉 深鉢a式	覆土中層

第3表 縄文時代の土坑・ピット出土土器一覧

第2節 奈良・平安時代の遺構・遺物

(1) 概要

本地点からは奈良・平安時代の炭焼窯1基が検出された。炭焼窯からは多量の粘土層と炭化物層が交互に検出され、炭化物の放射性炭素年代測定から、奈良・平安時代(8~9世紀)の結果が得られた。

(2) 炭焼窯

1号炭焼窯

遺 構 (第9図)

[位 置] (F-4) グリッド

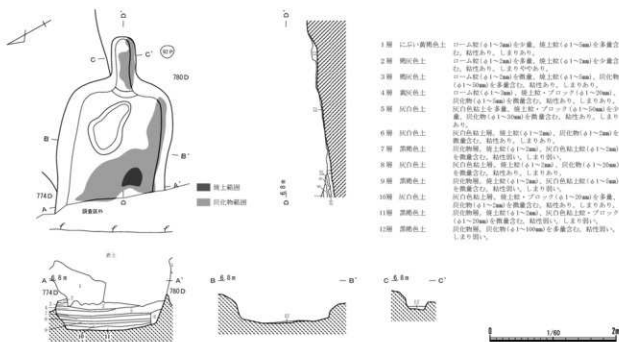
[検出状況] 774・780Dに切られる。

[構 造] 平面形: 羽子板状。焼成室・煙道部からなる。断面形: 西側の焼成室から東側の煙道部にかけて10°で緩やかに立ち上がり、煙道部では一時平坦になり、東側で25°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。規模: 全長現況2.50m、焼成室長軸現況1.60m、煙道部長軸0.90m/焼成室幅1.70~1.75m、煙道部幅0.38m/確認面からの煙道部深さ18cm、焼成室深さ20~40cm。主軸方位: N-60°-W。

[覆 土] 12層に分層される。炭化物を含む黄灰色土層(4層)・黒褐色土層(7・9・11層)と粘土・焼土粒を含む灰白色土層(5・8・10層)が薄く水平に堆積し、互層となっている。その互層が4面検出され、操業が複数回行われていたものと考えられる。

[遺 物] 炭化物以外は出土しなかった。

[時 期] 炭化物の放射性炭素年代測定の結果(73ページを参照)から、奈良・平安時代と思われる。



第9図 1号炭焼窯(1/50)

第3節 中世以降の遺構・遺物

(1) 概要

中世以降の遺構は、段切状遺構3か所、土坑57基、ピット97本が検出された。段切状遺構については、第2章第3節の基本層序で検討したとおり、(C～E-4)グリッドから東側が大規模に段切造成されており、その中で特に深く掘削されている箇所を1～3号段切状遺構として捉えた。また検出された土坑・ピットは、全体的な段切造成面と関連するものと考えられる。

土坑については、大小T字型の掘り込みが入れ子状態で検出された火葬土坑(767D)、1竪坑1主体部の地下式坑(721D)が特筆できる。これら2基の時期は中世に位置づけられる。

上記以外の各遺構の時代決定は、遺物が出土した場合は、陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

(2) 段切状遺構

本地点の(C～E-4)グリッド付近から、調査区東端から中央部にかけて緩やかに傾斜が低くなり、約50mの距離で標高差約1mの平場が形成される。平場範囲の試掘坑基本層序において立川ロームⅢ層からⅥ層下部までが削平されている状況により、(C～E-4)グリッドから東側にかけての全域が、段切造成面の範囲と考えられる(第6図の破線を参照)。また、全体的な段切造成面内で特に段状に面的に深く掘削されている箇所を1～3号段切状遺構として捉えることとした。

1号段切状遺構

遺 構 (第10・11図)

【位 置】 (C・D-6～8)グリッド

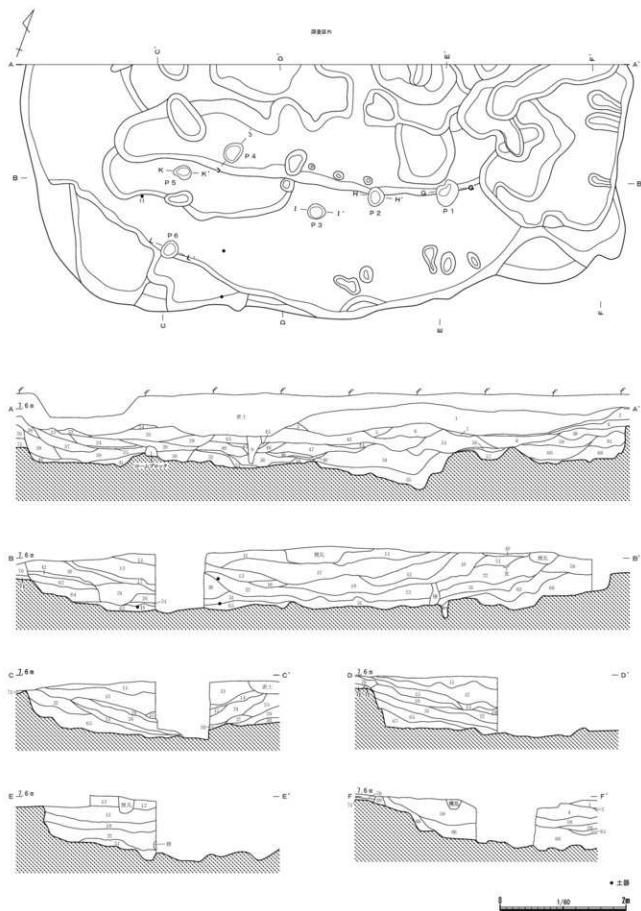
【検出状況】 攪乱に切られる。

【構 造】 平面形：隅丸長方形。断面形：西壁は50°～68°で直線的に立ち上がり、東壁は83°～90°で直線的に立ち上がる。底面は凹凸があり、壁面にかけて窪む。規模：東西方向9.65m/南北方向4.38m/深さ76cm。

【内部構造】 掘り込み：中央部に東西方向軸の隅丸長方形を呈する掘り込みが1基検出された。規模は長軸6.00m、短軸1.20m、深さ20cmを測る。壁面際には直径0.50～2.00mの掘り込みが重複し合いながら多数検出された。ピット：中央部東西軸上に並列した状態で5本(P1～5)、南西部に1本(P6)検出された。形状はP1が不整楕円形、P2～6が楕円形を呈し、規模はP1が長軸45cm/短軸35cm/深さ15cm、P2が長軸32cm/短軸25cm/深さ5cm、P3が長軸25cm/短軸20cm/深さ9cm、P4が長軸35cm/短軸25cm/深さ8cm、P5が長軸28cm/短軸23cm/深さ5cm、P6が長軸30cm/短軸25cm/深さ20cmを測る。また、南東壁際沿いにも直径30～45cmのピット状の掘り込みが並列状態で5本検出されている。

【覆 土】 72層に分層される。

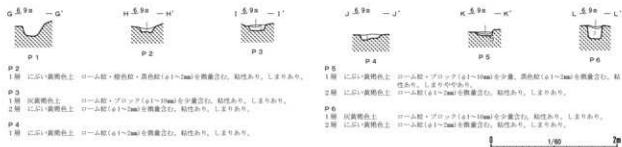
【遺 物】 地点上げ遺物で土器5点、一括遺物で土器5点、陶磁器14点、瓦2点、ガラス製品2点が出土した。



第10図 1号段切状遺構1 (1/60)

第3章 検出された遺構・遺物

1層 黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	37層 明褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
2層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	38層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
3層 黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	39層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
4層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	40層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
5層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	41層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
6層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	42層 明褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
7層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	43層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
8層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	44層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
9層 黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	45層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
10層 黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	46層 明褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
11層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	47層 明褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
12層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	48層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
13層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ10~100mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	49層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
14層 灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	50層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
15層 黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	51層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
16層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	52層 明褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
17層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。	53層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
18層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。	54層 明褐色土	ローム粒・ブロック(φ10~100mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
19層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	55層 紅い黄褐色土	ロームブロック(φ10~200mm)を多数散見し、しまり強い。
20層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	56層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
21層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	57層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
22層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	58層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
23層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまり強い。	59層 明褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
24層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を多数、褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。	60層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
25層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。	61層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
26層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を少量散見し、しまり強い。	62層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
27層 褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を少量散見し、しまり強い。	63層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
28層 灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。	64層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
29層 灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。	65層 褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
30層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまりやわゆる。	66層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
31層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまりやわゆる。	67層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~100mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
32層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。褐色粘(φ1~2mm)を散見する。粘性あり、しまりやわゆる。	68層 灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまりやわゆる。
33層 灰黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を少量散見し、しまり強い。	69層 明褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
34層 灰黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまり強い。	70層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまりやわゆる。
35層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまり強い。	71層 褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量、ロームブロック(φ10~100mm)を散見する。粘性あり、しまり強い。
36層 紅い黄褐色土	ローム粒(φ1~2mm)を少量散見し、しまり強い。	72層 紅い黄褐色土	ローム粒・ブロック(φ1~20mm)を少量散見し、しまり強い。



第11図 1号段切状遺構2 (1/60)

〔時期〕 出土遺物と覆土の観察から、近世(17世紀後葉)以降と思われる。

〔遺物〕 (第12図、図版13-2、第4表)

〔陶磁器〕 (第12図1~10、図版13-2-1~10、第4表)

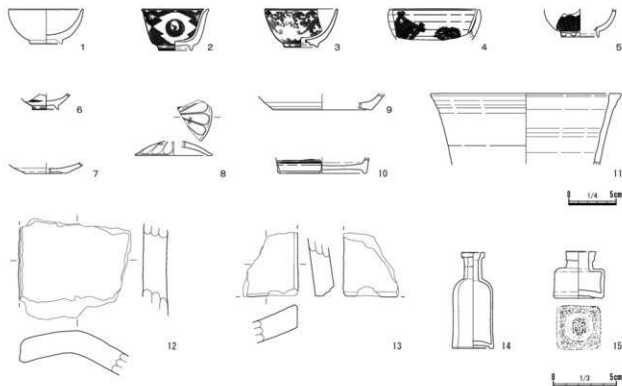
1~6は磁器で、4~6は肥前系の染付碗、1はクロム青磁碗、2・3は銅版絵付による染付碗である。7・9・10は陶器で、7は京・信楽産の灯明皿、9は行平、10は鉢型容器である。8は拓器で、萬古産の須須蓋である。

〔土器・瓦〕 (第12図11~13、図版13-2-11~13、第4表)

11は瓦質土器の植木鉢である。12・13は瓦で、12は椀瓦の破片、13は平・椀瓦の破片である。

〔ガラス製品〕 (第12図14・15、図版13-2-14・15、第4表)

14・15はガラス瓶で、14は液体薬瓶、15は丸善のインク瓶である。



第12図 1号段切状遺構出土遺物(1/4・1/3)

発掘番号 図版番号	種別 種類	部位 遺存状態	法量 (cm)	製作の特徴等	色調・胎土	推定産地	時期	出土位置
第12図1 図版13-2-1	磁器 青磁碗	□縁部～ 高行部	□ 7.8 高 3.7 底 3.15	ロクロ成形／青磁釉薬付文	薄緑色	—	近代以降 (1890年代～)	覆土上層
第12図2 図版13-2-2	磁器 碗	完形	□ 7.0 高 4.4 底 3.4	ロクロ成形／染付松川流に鶴丸文／刷藍絵付	灰白色	—	近代以降 (1890年代～)	覆土中層
第12図3 図版13-2-3	磁器 碗	□縁部～ 高台部	□ 7.5 高 4.1 底 (3.4)	ロクロ成形／染付唐草唐文／刷藍絵付	灰白色	肥前	近代以降 (1890年代～)	覆土中層
第12図4 図版13-2-4	磁器 碗	□縁部～ 体部	□ 9.4 高 [3.3]	ロクロ成形／染付牡丹鶴文／コンニャク印判	灰白色	肥前	近世 [1900～1940年代]	覆土中層
第12図5 図版13-2-5	磁器 碗	体部～ 高台部	高 [2.9] 底 (3.8)	ロクロ成形／染付唐文／鶴丸形か	灰白色	肥前	近世 (1820年代～)	覆土中層
第12図6 図版13-2-6	磁器 碗	体部～ 高台部	高 [1.7] 底 (2.6)	ロクロ成形／染付唐文	灰白色	肥前	近世	覆土中層
第12図7 図版13-2-7	陶器 灯明皿	体部～底面	高 [1.25] 底 (4.3)	ロクロ成形／直径0.3mの白部あり	浅黄褐色	京・信濃	近世 (18c末～)	覆土上層
第12図8 図版13-2-8	拓磨 急須蓋	天井～ □縁部	□ 8.0 高 [1.3]	ロクロ成形／天井部2か所穿孔／十六羅菊文	暗赤灰色	奥古	近世 (1830年代～)	覆土上層
第12図9 図版13-2-9	陶器 行平	体部～底面	高 [1.6] 底 (10.4)	ロクロ成形／内面軸	外面：灰赤色／内面：暗褐色	—	近世	覆土上層
第12図10 図版13-2-10	陶器 鉢型容器	体部～ 高台部	高 [1.7] 底 (9.2)	ロクロ成形／内外面透明釉／外面下部二重線	浅黄褐色	—	近代以降	覆土中層
第12図11 図版13-2-11	瓦質土器 絵木鉢	□縁部～ 体部	□ 20.0 高 [7.6]	ロクロ成形／器縁は直線的に外傾する	灰色	—	近世 (18c末～)	覆土下層
第12図12 図版13-2-12	瓦 椀瓦	破片	長 [7.5] 幅 [8.6] 厚 1.8	凸凹面に酸化キラコ付着／凹面端部破取	暗灰黄色／白色粒子・砂粒	—	近世 (17c後半～)	覆土上層
第12図13 図版13-2-13	瓦 平椀瓦	破片	長 [5.1] 幅 [4.4] 厚 1.7	凸凹面に酸化キラコ付着／凹面端部破取	灰色／白色粒子・砂粒	—	近世	覆土中層
第12図14 図版13-2-14	ガラス製品 高体薬瓶	完形	□ 1.8 高 7.6 底 3.2	氣息あり／型合わせによる合わせ目あり	透明	—	近代以降	覆土上層
第12図15 図版13-2-15	ガラス製品 インク瓶	完形	□ 2.3 高 3.7 底 3.6	氣息多量に含む／背の低い方形型／底面：円の中心に「M」のエンボス／丸首アテナエースインクか	透明	—	近代以降 (1959年～)	覆土上層

第4表 1号段切状遺構出土遺物一覧

2号段切状遺構

遺 構 (第13図)

[位 置] (D・E-11・12) グリッド

[検出状況] 740Dを切り、739・743D、攪乱に切られる。

[構 造] 断面形：南壁は57°で直線的に立ち上がり、北壁は50°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：東西方向5.71m/南北方向4.57m/深さ71cm。

[覆 土] 18層に分層される。

[遺 物] 地点上げ遺物で土器1点、陶器3点、一括遺物で磁器2点が出土した。

[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、近世(17~18世紀)と思われる。

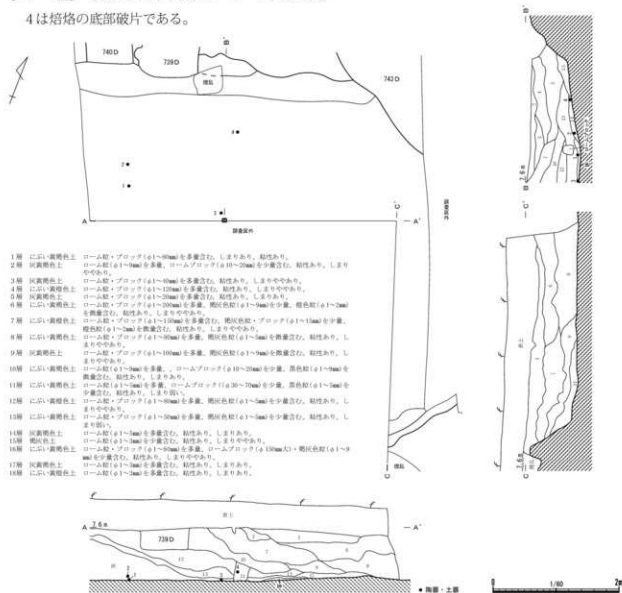
遺 物 (第14図、図版14-1、第5表)

[陶 器] (第14図1~3、図版14-1-1~3、第5表)

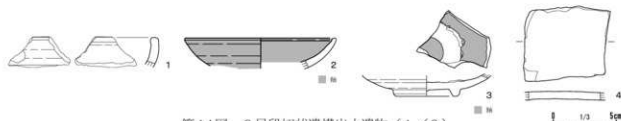
1~3は陶器で、1は肥前産の鉢、2は灰釉皿、3は肥前産の銅緑釉輪壳皿である。

[土 器] (第14図4、図版14-1-4、第5表)

4は焙烙の底部破片である。



第13図 2号段切状遺構(1/60)



第14図 2号段切状遺構出土遺物(1/3)

発掘番号 採取番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (cm)	製作の特徴等	色調・胎土	検定産地	時期	出土位置
第14段1 図版14-1-1	陶器 鉢	口縁部	高 [2.4]	ロケロ成形 / 内面白化粧 / 内面粘埃あり	外: 青色 / 内: 灰白色	肥前	近世 (17c~)	覆土下層
第14段2 図版14-1-2	陶器 皿	口縁部~ 体部	口 [11.6] 底 [2.4]	ロケロ成形 / 内外面丸胎	暗オリーブ色	—	近世 (17c~20世紀)	覆土下層
第14段3 図版14-1-3	陶器 皿	体部~ 高台部	高 [1.8] 底 [4.2]	ロケロ成形 / 脚縁粘埃片	外: 灰オリーブ色 / 内: 明緑灰色	肥前	近世 (16c~17世紀)	覆土下層
第14段4 図版14-1-4	土器 磁器	底面	厚 [0.6]	底面破片	外: 灰黄褐色 / 内: 灰黄色	—	近世	覆土下層

第5表 2号段切状遺構出土遺物一覧

3号段切状遺構

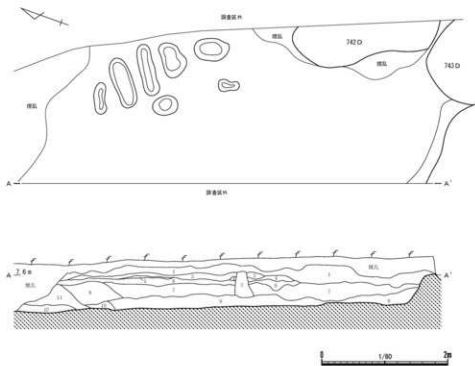
遺 構 (第15図)

[位 置] (C・D-11・12) グリッド

[検出状況] 742・743Dと重複し、攪乱に切られる。

[構 造] 断面形: 南壁は58°で立ち上がる。底面は平坦。規模: 南北方向6.36m / 東西方向2.62m / 深さ59cm。

[内部構造] 掘り込み: 北東部に長軸0.33~0.81mの掘り込みが7基検出された。



第15図 3号段切状遺構(1/60)

- 1層 灰黄褐色土 コーム部・ブロッコ(φ1~20mm)を多数、散在(φ1~3mm)を散在含む。粘性あり。しまり強い。コーム部(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 2層 灰黄褐色土 コーム部(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 3層 黄灰色土 コーム部(φ1~3mm)を多数、散在(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 4層 上記・黄褐色土 コーム部(φ1~3mm)を多数、散在(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 5層 上記・黄褐色土 コーム部(φ1~3mm)を多数、散在(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 6層 黄灰色土 コーム部(φ1~3mm)を少量含む。散在(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 7層 上記・黄褐色土 コーム部・ブロッコ(φ1~20mm)を多数、散在(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 8層 灰黄褐色土 コーム部(φ1~3mm)を多数、コーム部(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり中々強い。
- 9層 黄灰色土 コーム部(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 10層 黄褐色土 コーム部(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 11層 上記・黄褐色土 コーム部(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 12層 灰黄褐色土 コーム部(φ1~3mm)を多数、散在(φ1~3mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。

- [覆 土] 12層に分層される。
[遺 物] 一括遺物で陶磁器3点が出土した。
[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。

(3) 土坑

717号土坑

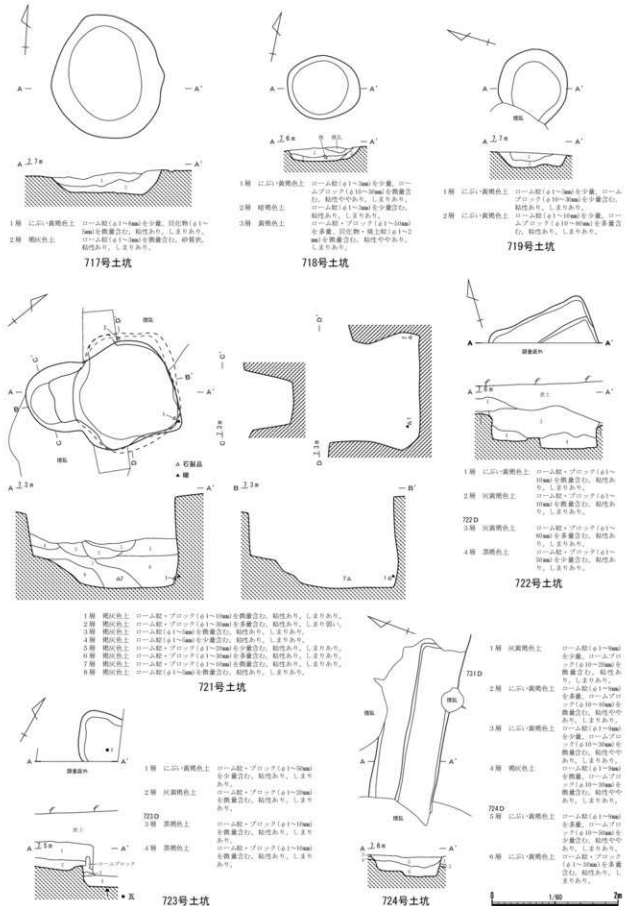
- 遺 構** (第16図、第6表)
[位 置] (D-8)グリッド
[検出状況] 731Dと重複する。
[構 造] 平面形：円形。断面形：西壁は30°で直線的に立ち上がり、東壁は50°で緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。規模：長軸1.94m/短軸1.83m/深さ33cm。長軸方位：N-23°-W。
[覆 土] 2層に分層される。
[遺 物] 出土しなかった。
[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

718号土坑

- 遺 構** (第16図、第6表)
[位 置] (D-8)グリッド
[検出状況] 単独。
[構 造] 平面形：楕円形。断面形：西壁は50°で直線的に、東壁は35°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.18m/短軸1.02m/深さ22cm。長軸方位：N-86°-E。
[覆 土] 3層に分層される。
[遺 物] 出土しなかった。
[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

719号土坑

- 遺 構** (第16図、第6表)
[位 置] (E-8・9)グリッド
[検出状況] 攪乱に切られる。
[構 造] 平面形：楕円形。断面形：南壁は50°、北壁は40°で直線的に立ち上がる。底面は平坦で部分的に凹凸。規模：長軸現況1.13m/短軸1.02m/深さ24cm。長軸方位：N-87°-W。
[覆 土] 2層に分層される。
[遺 物] 一括遺物で瓦5点が出土した。
[時 期] 出土遺物と覆土の観察から、近世と思われる。
遺 物 (第26図、図版14-2、第7表)
[瓦] (第26図1・2、図版14-2-1・2、第7表)
1・2は椀・平瓦片である。



第16図 中世以降の土坑1 (1/60)

721号土坑

遺 構 (第16図、第6表)

[位 置] (E-6・7)グリッド

[検出状況] 攪乱に切られる。

[構 造] 地下式坑の形態をもつ。

[入口竪坑部] 平面形：楕円形。断面形：壁は80°で直線的に立ち上がる。底面は南側平坦で北側主体部に向かって傾斜30°で緩やかに下がり、間に1段の段を呈する。規模：長軸1.20m/短軸0.70m/深さ70cm。長軸方位：N-60°-W。

[主 体 部] 平面形：隅丸正方形。断面形：底面から東壁50°、西壁70°で直線的に開きながら25cm程立ち上がったあと、東壁75°、西壁70°で内傾しながら50cm程立ち上がり、そこからさらに東壁40°、西壁80°で直線的に開きながら立ち上がる。形状は袋状を呈する。底面は平坦。規模：長軸1.60m/短軸1.60m/深さ134cm。長軸方位：N-60°-W。

[覆 土] 8層に分層される。

[遺 物] 地点上げ遺物で砥石1点、石臼1点、礫1点、一括遺物で土器1点が出土した。

[時 期] 構造から、中世と思われる。

遺 物 (第26図、図版14-2、第11表)

[石 製 品] (第26図1・2、図版14-2-1・2、第11表)

1は石臼、2は砥石である。

722号土坑

遺 構 (第16図、第6表)

[位 置] (E-8・9、F-9)グリッド

[検出状況] 一部調査区外。

[構 造] 平面形：長方形。長方形土坑が2基重なった様な形状で、内部で段差を有する。断面形：壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で部分的に凹凸。規模：長軸現況1.65m/短軸現況0.78m/深さ55cm。長軸方位：N-81°-E。

[覆 土] 2層(3・4層)に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

723号土坑

遺 構 (第16図、第6表)

[位 置] (F-9)グリッド

[検出状況] 一部調査区外。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：西壁は70°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況0.89m/短軸現況0.66m/深さ28cm。長軸方位：N-27°-W。

[覆 土] 2層(3・4層)に分層される。

[遺 物] 地点上げ遺物で瓦1点、一括遺物で銭貨1点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

[遺物] (第26図、図版14-2、第7・8表)

[瓦] (第26図1、図版14-2-1、第7表)

1は平棧瓦である。

[銭貨] (第26図2、図版14-2-2、第8表)

2は銭貨である。

724号土坑

[遺構] (第16図、第6表)

[位置] (D-7・8)グリッド

[検出状況] 掘乱に切られる。

[構造] 平面形：長方形。長方形の土坑が2基重なった様な形状で、段差を有する。断面形：北壁・南壁は65°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況2.60m/短軸1.00m/深さ26cm。

長軸方位：N-80°-E。

[覆土] 2層(5・6層)に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

725号土坑

[遺構] (第17図、第6表)

[位置] (F-7)グリッド

[検出状況] 729Dに切られ、726Dと重複する。一部調査区外。

[構造] 平面形：長方形。断面形：北壁は70°、西壁は65°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。

規模：長軸現況1.39m/短軸現況0.73m/深さ41cm。長軸方位N-16°-E。

[覆土] 3層(8~10層)に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

726号土坑

[遺構] (第17図、第6表)

[位置] (F-7)グリッド

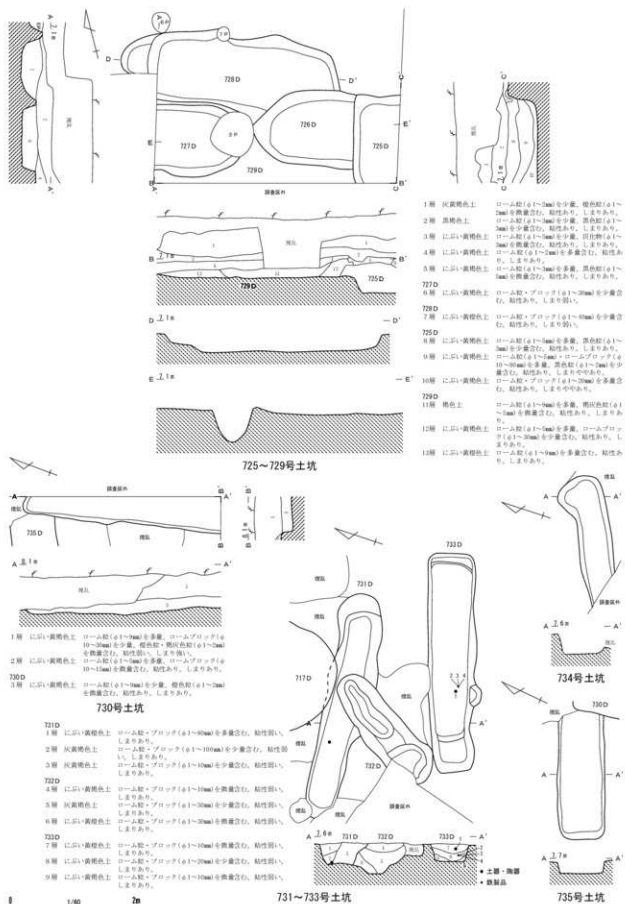
[検出状況] 725・728・729D、3Pと重複する。

[構造] 平面形：隅丸長方形。断面形：西壁は10°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況1.58m/短軸現況1.18m/深さ32cm。長軸方位：N-75°-W。

[覆土] 不明。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 構造から、中世以降と思われる。



第17図 中世以降の土坑2 (1/60)

727号土坑

遺構 (第17図、第6表)

位置 (F-6・7)グリッド

検出状況 729Dを切り、3Pと重複する。

構造 平面形：隅丸長方形。断面形：壁は70°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況1.50m/短軸現況1.20m/深さ14cm。長軸方位：N-75°-W。

覆土 単層(6層)である。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

728号土坑

遺構 (第17図、第6表)

位置 (E・F-6・7)グリッド

検出状況 726D、3・7Pと重複する。

構造 平面形：隅丸長方形。断面形：南壁30°で緩やかに、北壁は75°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況3.48m/短軸現況1.48m/深さ26cm。長軸方位：N-70°-W。

覆土 単層(7層)である。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

729号土坑

遺構 (第17図、第6表)

位置 (F-6・7)グリッド

検出状況 725Dを切り、727Dに切られ、726D・3Pと重複する。

構造 平面形：不明。断面形：不明。底面は平坦。規模：長軸現況3.20m/短軸現況0.83m/深さ24cm。長軸方位：不明。

覆土 3層(11~13層)に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

730号土坑

遺構 (第17図、第6表)

位置 (D-10)グリッド

検出状況 735Dと重複し、攪乱に切られる。

構造 平面形：長方形。断面形：西壁はほぼ垂直に、北壁60°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況3.13m/短軸現況0.60m/深さ29cm。長軸方位：N-18°-W。

覆土 単層(3層)である。

遺物 一括遺物で土器4点、陶磁器4点、瓦1点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

[遺物] (第26図、図版14-2、第9表)

[磁器] (第26図1、図版14-2-1、第9表)

1は人工コバルト染付(1870年代以降)の磁器である。

731号土坑

[遺構] (第17図、第6表)

[位置] (D-8)グリッド

[検出状況] 732Dと重複し、717D、攪乱に切られる。

[構造] 平面形：隅丸長方形。断面形：北壁は70°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸3.65m/短軸0.80m/深さ40cm。長軸方位：N-84°-E。

[覆土] 3層(1~3層)に分層される。

[遺物] 地点上げ遺物で陶器1点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

732号土坑

[遺構] (第17図、第6表)

[位置] (D・E-8)グリッド

[検出状況] 731Dと重複し、攪乱に切られる。

[構造] 平面形：隅丸長方形。断面形：北壁は85°、南壁は60°で直線的に立ち上がる。底面は平坦を基本とし、中央で傾斜60°の落ち込みがある。規模：長軸2.05m/短軸0.68m/深さ44cm。長軸方位：N-32°-E。

[覆土] 3層(4~6層)に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

733号土坑

[遺構] (第17図、第6表)

[位置] (E-8・9)グリッド

[検出状況] 攪乱に切られる。

[構造] 平面形：長方形。断面形：北壁は70°、南壁は75°で直線的に立ち上がる。底面は平坦だが、東西の立ち上がり付近で段差を有する。規模：長軸3.46m/短軸0.77m/深さ36cm。長軸方位：N-70°-E。

[覆土] 3層(7~9層)に分層される。

[遺物] 地点上げ遺物で焙烙1点、鉄製品3点、一括遺物で土器2点、陶器1点、石器1点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。

[遺物] (第26図、図版14-2、第9・11表)

[土 器] (第26図1、図版14-2-1、第9表)

1は焙烙である。

[鉄製品] (第26図2~4、図版14-2-2~4、第11表)

2~4は鉄釘である。

734号土坑

遺 構 (第17図、第6表)

[位 置] (E-8)グリッド

[検出状況] 攪乱に切られる。一部調査区外。

[構 造] 平面形：不整長方形。断面形：北壁70°で直線的に立ち上がり、南壁は86°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況1.85m/短軸0.70m/深さ28cm。長軸方位：N-59°-E。

[覆 土] 不明。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 構造から、中世以降と思われる。

735号土坑

遺 構 (第17図、第6表)

[位 置] (D-10)グリッド

[検出状況] 730Dと重複し、攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：長方形。断面形：北壁65°、南壁80°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況2.02m/短軸0.75m/深さ20cm。長軸方位：N-63°-E。

[覆 土] 不明。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 構造から、中世以降と思われる。

736号土坑

遺 構 (第18図、第6表)

[位 置] (D-8・9)グリッド

[検出状況] 43P、攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：隅丸長方形。断面形：西壁は30°で緩やかに立ち上がり、東壁は60°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸2.46m/短軸0.48m/深さ11cm。長軸方位：N-18°-W。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

737号土坑

遺 構 (第18図、第6表)

[位 置] (C・D-9)グリッド

- [検出状況] 35Pを切り、24Pに切られ、738Dと重複する。
- [構造] 平面形：円形。断面形：壁は20°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.25m/短軸1.13m/深さ24cm。長軸方位：N-34°-W。
- [覆土] 2層に分層される。
- [遺物] 地点上げ遺物で陶器1点、一括遺物で磁器1点が出土した。
- [時期] 出土遺物と覆土の観察から、近世以降と思われる。
- [遺物] (図版14-2、第10表)
- [陶磁器] (図版14-2-1・2、第10表)
- 1は瀬戸・美濃産の陶器皿、2は備前産の磁器丸碗である。

738号土坑

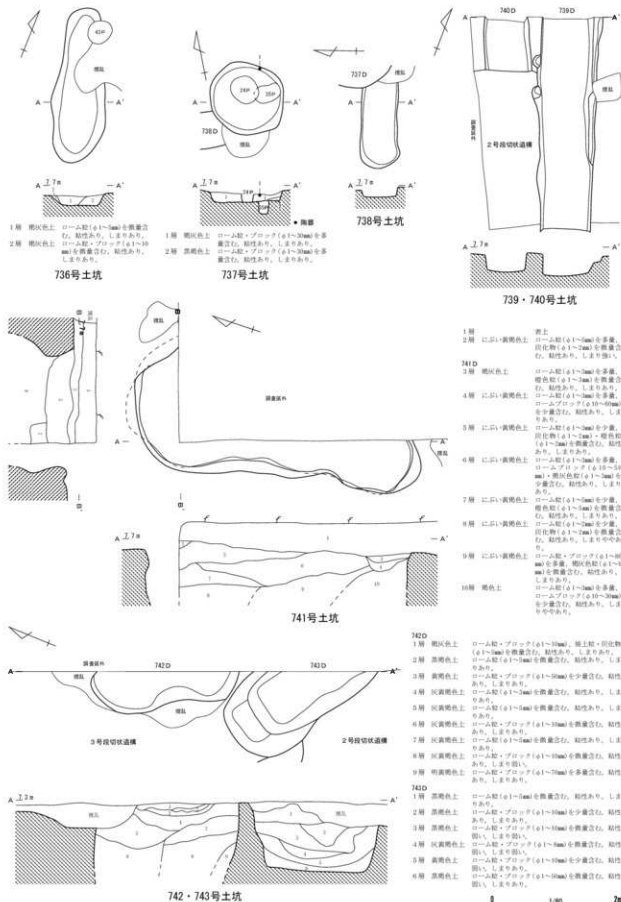
- [遺構] (第18図、第6表)
- [位置] (D-9)グリッド
- [検出状況] 737Dと重複し、攪乱に切られる。
- [構造] 平面形：隅丸長方形。断面形：壁は80°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.04m/短軸0.58m/深さ9cm。長軸方位：N-89°-E。
- [覆土] 不明。
- [遺物] 地点上げ遺物で土器4点、陶器1点が出土した。
- [時期] 出土遺物の観察から、近世以降と思われる。

739号土坑

- [遺構] (第18図、第6表)
- [位置] (D・E-11)グリッド
- [検出状況] 2号段切状遺構を切り、740Dと重複する。一部調査区外。
- [構造] 平面形：長方形。断面形：西壁は85°で直線的に立ち上がり、東壁は50°で緩やかに立ち上がり中端に有段を呈する。底面は平坦。規模：長軸現況3.32m/短軸1.00m/深さ37cm。長軸方位：N-20°-W。
- [覆土] 不明。
- [遺物] 出土しなかった。
- [時期] 構造から、中世以降と思われる。

740号土坑

- [遺構] (第18図、第6表)
- [位置] (D・E-11)グリッド
- [検出状況] 2号段切状遺構に切られ、739Dと重複する。
- [構造] 平面形：長方形。断面形：壁は80°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況4.68m/短軸現況1.68m/深さ16cm。長軸方位：N-23°-W。
- [覆土] 不明。



第18図 中世以降の土坑3 (1/60)

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 構造から、近世以降と思われる。

741号土坑

遺構 (第18図、第6表)

[位置] (D・E-9)グリッド

[検出状況] 一部調査区外。下端は未検出。

[構造] 平面形：隅丸長方形。断面形：南壁はほぼ垂直に立ち上がり、北壁は現状下端から30cm上までの範囲で5cm程外側に膨れ、そこから70°外反して立ち上がる。底面は不明。規模：長軸現況4.30m/短軸現況2.05m/深さ79cm。長軸方位：N-4°-W。

[覆土] 8層(3~10層)に分層される。

[遺物] 一括遺物で陶磁器2点、鉄製品1点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、近世以降(18世紀)と思われる。

遺物 (第26図、図版14-2、第10・11表)

[鉄製品] (第26図1、図版14-2-1、第11表)

1は鉄釘である。

[陶器] (図版14-2-2、第10表)

2は瀬戸・美濃産の播鉢である。

742号土坑

遺構 (第18図、第6表)

[位置] (C・D-12)グリッド

[検出状況] 3号段切状遺構と重複し、攪乱に切られる。一部調査区外。下端は未検出。

[構造] 平面形：楕円形。断面形：北壁は現状下端から上へ56cm外側に若干膨れながら立ち上がる。底面は不明。規模：長軸現況2.93m/短軸現況0.88m/深さ86cm。長軸方位：N-22°-W。

[覆土] 9層に分層される。

[遺物] 一括遺物で陶磁器3点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、近世以降(18世紀後葉)と思われる。

遺物 (図版14-2、第10表)

[陶磁器] (図版14-2-1・2、第10表)

1は瀬戸・美濃産で鉄軸・灰軸掛け分けの陶器、2は肥前・波佐見産でくわわんか手の磁器碗で1770~1780年代の時期である。

743号土坑

遺構 (第18図、第6表)

[位置] (D-12)グリッド

[検出状況] 2・3号段切状遺構と重複する。一部調査区外。

[構造] 平面形：隅丸長方形。断面形：北壁は70°で緩やかな波状に立ち上がり、南壁は70°で直

線的に立ち上がる。長軸方向の西壁は段を有しながら立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況1.92m/短軸1.28m/深さ97cm。長軸方位：N-57°-W。

[覆土] 6層に分層される。

[遺物] 一括遺物で陶磁器3点が出土した。

[時期] 出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。

744号土坑

遺構 (第19図、第6表)

[位置] (E-5・6)グリッド

[検出状況] 745Dに切られ、746Dと重複する。一部調査区外。

[構造] 平面形：不整楕円形。断面形：東壁は20°で直線的に立ち上がる。底面は概ね平坦だが、一部凹凸あり。規模：長軸現況1.82m/短軸現況0.70m/深さ10cm。長軸方位：N-71°-W。

[覆土] 単層(7層)である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

745号土坑

遺構 (第19図、第6表)

[位置] (E-5)グリッド

[検出状況] 744・766Dを切り、765Dと重複する。一部調査区外。

[構造] 平面形：不整楕円形。断面形：西壁は75°で緩やかに、東壁は75°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況0.76m/短軸現況0.73m/深さ18cm。長軸方位：N-1°-W。

[覆土] 3層(4~6層)に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

746号土坑

遺構 (第19図、第6表)

[位置] (E-5・6)グリッド

[検出状況] 744・745・765Dと重複する。

[構造] 平面形：隅丸方形。断面形：北壁は30°、南壁は10°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況1.48m/短軸現況0.70m/深さ17cm。長軸方位：N-89°-W。

[覆土] 不明。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 構造から、中世以降と思われる。

747号土坑

遺構 (第19図、第6表)

[位置] (C・D-6)グリッド

[検出状況] 一部調査区外。

[構造] 平面形：不整形。断面形：西壁・東壁は70°で直線的に立ち上がる。底面は平坦で部分的に凹状である。規模：長軸現況2.37m/短軸現況2.12m/深さ41cm。長軸方位：N-7°-E。

[覆土] 10層に分層される。

[遺物] 一括遺物で土器2点が出土した。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

748号土坑

遺構 (第19図、第6表)

[位置] (D-6)グリッド

[検出状況] 単独。

[構造] 平面形：楕円形。断面形：西壁は60°、東壁は75°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸0.80m/短軸0.60m/深さ12cm。長軸方位：N-60°-W。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

749号土坑

遺構 (第19図、第6表)

[位置] (D-5・6)グリッド

[検出状況] 59・60Pと重複し、攪乱に切られる。

[構造] 平面形：溝状。断面形：南・北壁は60°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況2.80m/短軸現況0.47m/深さ14cm。長軸方位：N-65°-W。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

750号土坑

遺構 (第19図、第6表)

[位置] (D・E-5・6)グリッド

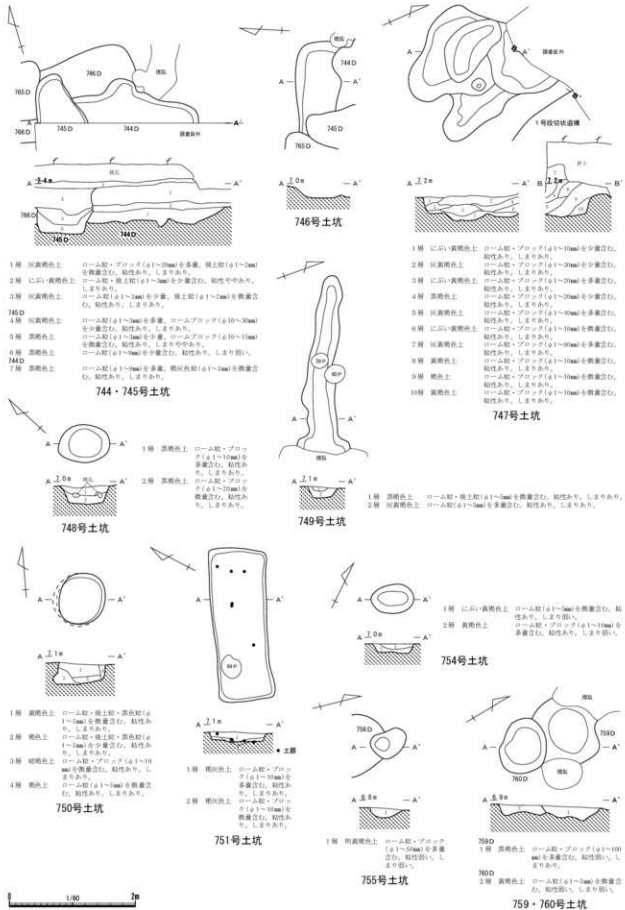
[検出状況] 720Dを切る。

[構造] 平面形：楕円形。断面形：西壁は下端で壁外にハングし、中端から50°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸0.82m/短軸0.72m/深さ32cm。長軸方位：N-37°-E。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。



第19図 中世以降の土坑4 (1/60)

751号土坑

遺 構 (第19図、第6表)

[位 置] (E-5) グリッド

[検出状況] 64Pと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。断面形：北壁・南壁は70°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸2.43m／短軸0.85m／深さ13cm。長軸方位：N-55°-E。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 地点上げ遺物で土器6点、一括遺物で土器4点が出土した。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

754号土坑

遺 構 (第19図、第6表)

[位 置] (D-5) グリッド

[検出状況] 単独。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：西壁・東壁は70°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸0.66m／短軸0.44m／深さ18cm。長軸方位：N-60°-E。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

755号土坑

遺 構 (第19図、第6表)

[位 置] (C-6) グリッド

[検出状況] 756Dを切る。

[構 造] 平面形：不整楕円形。断面形：北壁35°、南壁45°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸0.58m／短軸0.44m／深さ16cm。長軸方位：N-12°-W。

[覆 土] 単層である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

759号土坑

遺 構 (第19図、第6表)

[位 置] (C-5・6) グリッド

[検出状況] 760Dを切り、攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：不整楕円形。断面形：北壁は35°、南壁は60°で緩やかに立ち上がる。底面は凹凸。規模：長軸1.15m／短軸現況0.85m／深さ15cm。長軸方位：N-78°-W。

[覆 土] 単層(1層)である。

[遺 物] 一括遺物で土器1点が出土した。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

760号土坑

遺 構 (第19図、第6表)

[位 置] (C-5・6)グリッド

[検出状況] 759Dに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：北壁は30°、南壁は60°で直線的に立ち上がる。底面は凹凸。

規模：長軸0.90m/短軸現況0.70m/深さ12cm。長軸方位：N-46°-W。

[覆 土] 単層(2層)である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

761号土坑

遺 構 (第20図、第6表)

[位 置] (C・D-5・6)グリッド

[検出状況] 762・763Dを切る。

[構 造] 平面形：隅丸長方形。断面形：西壁は60°、東壁は65°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.96m/短軸0.46m/深さ14cm。長軸方位：N-25°-E。

[覆 土] 単層(1層)である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

762号土坑

遺 構 (第20図、第6表)

[位 置] (C・D-5・6)グリッド

[検出状況] 763D、70Pを切り、761Dに切られる。

[構 造] 平面形：不整楕円形。断面形：西壁はほぼ垂直に、東壁は45°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸0.85m/短軸0.12m/深さ6cm。長軸方位：N-24°-E。

[覆 土] 単層(2層)である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

763号土坑

遺 構 (第20図、第6表)

[位 置] (C・D-5・6)グリッド

[検出状況] 761・762Dに切られる。

[構 造] 平面形：長方形。断面形：東壁は70°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.95m/短軸0.42m/深さ13cm。長軸方位：N-24°-E。

- [覆 土] 単層（3層）である。
 [遺 物] 出土しなかった。
 [時 期] 覆土の観察から、近世以降と思われる。

764号土坑

遺 構 (第20図、第6表)

[位 置] (C-5) グリッド

[検出状況] 単独。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：北壁・南壁は30°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸0.58m/短軸0.45m/深さ5cm。長軸方位：N-20°-W。

- [覆 土] 単層である。
 [遺 物] 出土しなかった。
 [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

765号土坑

遺 構 (第20図、第6表)

[位 置] (E-5) グリッド

[検出状況] 745・746・766・767Dと重複し、攪乱に切られる。

[構 造] 平面形：長方形。断面形：北壁は40°、南壁は55°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況2.85m/短軸0.92m/深さ30cm。長軸方位：N-84°-W。

- [覆 土] 2層に分層される。
 [遺 物] 地点上げ遺物で土器1点、一括遺物で土器2点、磁器3点出土した。
 [時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。



第20図 中世以降の土坑5 (1/60)

766号土坑

遺構 (第20図、第6表)

[位置] (E-5) グリッド

[検出状況] 745Dに切られ、765・767Dと重複する。

[構造] 平面形：不明。断面形：東壁は40°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況0.35m/短軸0.28m/深さ3cm。長軸方位：N-84°-W。

[覆土] 単層(3層)である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

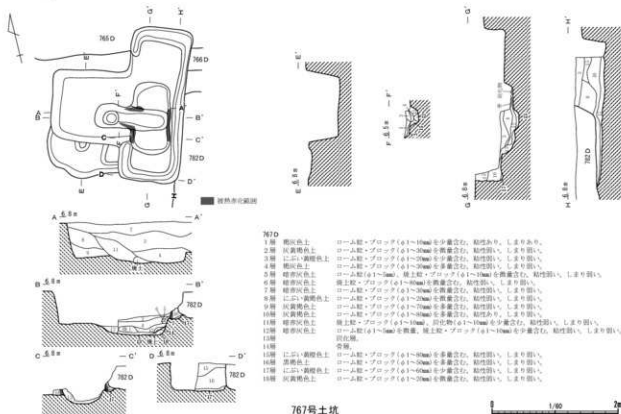
767号土坑(火葬土坑)

遺構 (第21～23図、第6表)

[位置] (E・F-5) グリッド

[検出状況] 782Dに切られ、765・766Dと重複する。大きめのT字形の土坑(以下、外郭部)の内部から火葬土坑が検出された。覆土の観察から同時に埋まったものと考えられる。

[外郭部] 平面形：T字形(長方形部と張出短方形部)。断面形：壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦。長方形部規模：長軸2.45m/短軸0.94m/深さ34cm(確認面から)。張出短方形部規模：長軸1.20m/短軸1.12m/深さ52cm(確認面から)。長方形部長軸方位：N-20°-E。張出短方形部長軸方位：N-70°-W。その他：外郭部張出短方形部南側に隅丸方形を呈する浅いテラス状の掘り込みが検出されている。



第21図 中世以降の土坑6 (1/60)

〔外郭部壁溝〕 平面形：長方形部壁際で検出。断面形：壁は30°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：幅0.14～0.24m。深さ2cm。

〔主 体 部〕 平面形：隅丸長方形。断面形：南壁は30°で緩やかに進み、中端から70°の傾斜で立ち上がり、北壁は60°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.12m／短軸0.92m／深さ12cm（外郭部底面から）。長軸方位：N-20°-E。

〔吸 気 坑〕 平面形：隅丸細長方形。断面形：壁は40°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.14m／短軸0.34m／深さ7cm（主体部底面から）。長軸方位：N-70°-W。その他：主体部に向けて緩やかに傾斜。入り口部に付属ピット検出。主体部内吸気坑底全面に焼土多量検出。

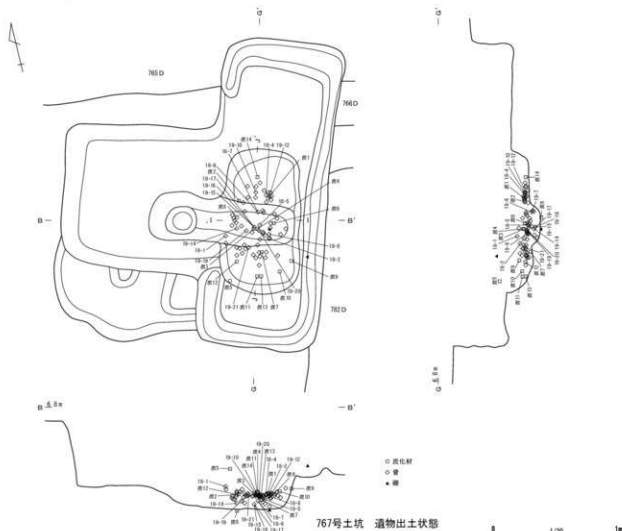
〔炭 化 材〕 主体部の南壁際にある程度の形を保った状態で少量、北壁際では東西軸の丸太状1点、中央吸気坑以外の南側に繊維状や小片・粉状が多量、北側に小片・粉状が少量の状態で見出されている。

〔人 骨〕 主体部中央から部位の判断ができる小片や細片のものが多量に見出された。

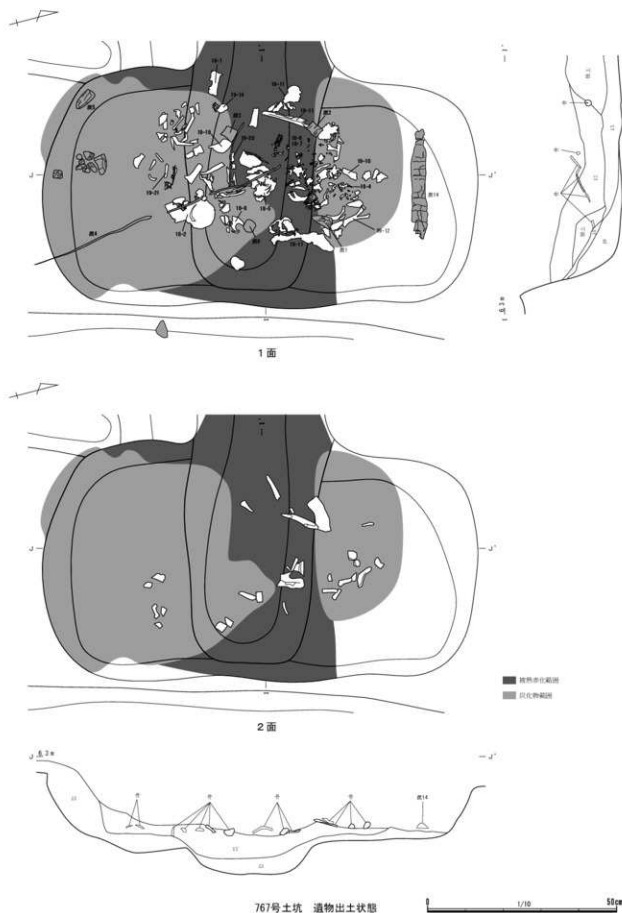
〔覆 土〕 18層に分層される。16層の被熱状況から、外郭部が若干の埋没状態で火葬土坑が形成されたと推定される。覆土中の骨・炭化材については自然科学分析を行った（第4章）。

〔遺 物〕 地点上げ遺物で礫2点、骨、炭化材、一括遺物で土器3点が出土した。

〔時 期〕 炭化材の放射性炭素年代測定の結果から、中世（15世紀前半～中頃）と思われる。



第22図 中世以降の土坑7（1／30）



第23図 中世以降の土坑8 (1/10)

768号土坑

遺構 (第24図、第6表)

位置 (D-4)グリッド

検出状況 776・777D、78Pを切り、79Pに切られる。

構造 平面形：不整楕円形。断面形：北壁は65°、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸。

規模：長軸1.96m/短軸1.62m/深さ19cm。長軸方位：N-29°-E。

覆土 10層に分層される。4層が貼床状の硬化層を呈し、5～10層を掘り方埋土と推定した。

遺物 地点上げ遺物で土器1点、一括遺物で土器3点が出土した。

時期 出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。

769号土坑

遺構 (第24図、第6表)

位置 (C・D-4)グリッド

検出状況 80・82P、攪乱に切られる。

構造 平面形：楕円形。断面形：西壁は20°で緩やかに立ち上がり、東壁は40°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸1.86m/短軸1.68m/深さ34cm。長軸方位：N-38°-E。

覆土 6層に分層される。

遺物 地点上げ遺物で土器11点、陶磁器2点、石器1点、鉄製品5点が出土した。

時期 出土遺物と覆土の観察から、近世と思われる。

遺物 (第26図、図版14-2、第9～11表)

陶磁器 (第26図1、図版14-2-1・3、第9・10表)

1は磁器青磁碗、3は播鉢である。

鉄製品 (第26図2、図版14-2-2、第11表)

2は鉄釘である。

770号土坑

遺構 (第24図、第6表)

位置 (F-5)グリッド

検出状況 単独。

構造 平面形：円形。断面形：壁はほぼ垂直に立ち上がり、南壁はややハングする。底面は平坦。

規模：長軸0.60m/短軸0.60m/深さ90cm。長軸方位：N-68°-W。

覆土 3層に分層される。

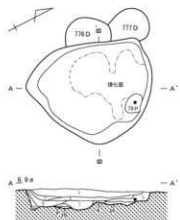
遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

772号土坑

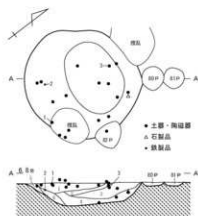
遺構 (第24図、第6表)

位置 (C・D-5)グリッド



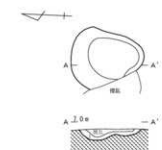
768号土坑

- 1層 褐色土上 コーム粒・破土粒(φ1~3mm)を散見含む。粘性あり。しまりあり。
- 2層 明黄褐色土 コーム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 3層 褐色土上 コーム粒・ブロック(φ1~10mm)・残土粒(φ1~2mm)を散見含む。粘性あり。しまりあり。
- 4層 近い黄褐色土 コーム粒・ブロック(φ1~30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 5層 灰黄褐色土 コーム粒・ブロック(φ1~10mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 6層 灰黄褐色土 コーム粒・ブロック(φ1~10mm)を散見含む。粘性あり。しまりあり。

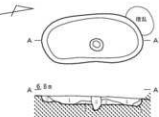


769号土坑

- 1層 褐色土上 コーム粒・ブロック(φ1~30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。



772号土坑



- 1層 褐色土上 コーム粒・ブロック(φ1~30mm)を少量含む。粘性強い。しまりあり。
- 2層 褐色土上 コーム粒・ブロック(φ1~20mm)を多量含む。粘性強い。しまりあり。
- 3層 褐色土上 コーム粒・ブロック(φ1~15mm)を散見含む。粘性強い。しまりあり。

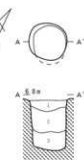
773号土坑



- 1層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3層 褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 4層 褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 5層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 6層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 7層 近い黄褐色土 コーム粒・破土粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。



- 1層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)、炭化粒(φ1~3mm)、赤化粒(φ1~3mm)を散見含む。粘性ややあり。しまりあり。
- 2層 褐色土上 コーム粒(φ1~3mm)、褐色炭粒(φ1~2mm)、炭化粒(φ1~3mm)を散見含む。粘性あり。しまりあり。
- 3層 灰黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性ややあり。しまりあり。
- 4層 灰黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。褐色炭粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性ややあり。しまり強い。
- 5層 近い黄褐色土 コーム粒・ブロック(φ1~30mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 6層 灰黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 7層 近い黄褐色土 コーム粒・ブロック(φ1~10mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 8層 灰黄褐色土 コーム粒・ブロック(φ1~40mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 9層 褐色土上 コーム粒(φ1~2mm)を散見含む。粘性あり。しまりあり。
- 10層 明黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。炭化粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。



770号土坑



774号土坑

- 1層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。残土粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 2層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。残土粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 3層 褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 4層 褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまり強い。
- 5層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。
- 6層 近い黄褐色土 コーム粒(φ1~2mm)を多量含む。炭化粒(φ1~2mm)を少量含む。粘性あり。しまりあり。
- 7層 近い黄褐色土 コーム粒・破土粒(φ1~2mm)を多量含む。粘性あり。しまりあり。

第24図 中世以降の土坑9 (1/60)

[検出状況] 771Dを切り、攪乱に切られる。

[構造] 平面形：楕円形。断面形：北壁は40°、南壁は30°で緩やかに立ち上がる。底面は凹凸。
規模：長軸現況0.83m/短軸現況0.65m/深さ21cm。長軸方位：N-16°-W。

[覆土] 単層である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

773号土坑

[遺構] (第24図、第6表)

[位置] (F-5)グリッド

[検出状況] 攪乱に切られる。

[構造] 平面形：長楕円形。断面形：南壁は30°、北壁は70°で緩やかに立ち上がる。底面は凹凸。
規模：長軸1.60m/短軸0.77m/深さ23cm。長軸方位：N-10°-E。

[覆土] 3層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

774号土坑

[遺構] (第24図、第6表)

[位置] (E-5、F-4・5)グリッド

[検出状況] 1号炭焼窯を切り、攪乱に切られる。

[構造] 平面形：楕円形。断面形：東壁は15°で緩やかに、西壁は10°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸2.40m/短軸現況1.75m/深さ24cm。長軸方位：N-89°-W。

[覆土] 6層(2~7層)に分層される。

[遺物] 地点上げ遺物で土器1点が出土した。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

775号土坑

[遺構] (第25図、第6表)

[位置] (D・E-3・4)グリッド

[検出状況] 一部調査区外。

[構造] 平面形：長楕円形。断面形：北壁は32°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸4.85m/短軸現況1.05m/深さ31cm。長軸方位：N-71°-W。

[覆土] 5層に分層される。

[遺物] 地点上げ遺物で土器1点、一括遺物で土器6点が出土した。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

776号土坑

遺 構 (第25図、第6表)

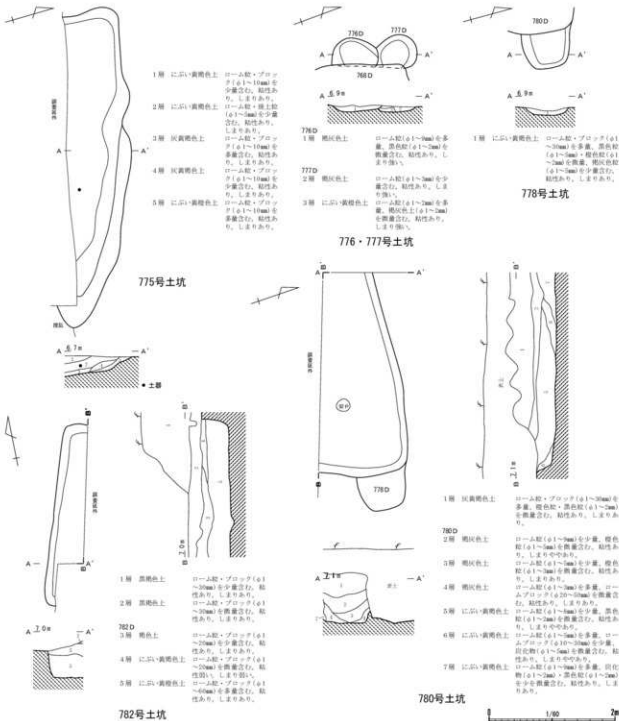
[位 置] (D-4)グリッド

[検出状況] 777Dを切り、768Dに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。断面形：北壁は55°、南壁は45°で直線的に立ち上がる。底面は平坦。

規模：長軸0.72m/短軸現況0.40m/深さ10cm。長軸方位：N-63°-E。

[覆 土] 単層(1層)である。



第25図 中世以降の土坑10(1/60)

- [遺物] 出土しなかった。
[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

777号土坑

- 遺構** (第25図、第6表)
[位置] (C・D-4)グリッド
[検出状況] 768・776Dに切られる。
[構造] 平面形：楕円形。断面形：南壁は55°で直線的、北壁は25°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況0.60m/短軸現況0.47m/深さ8cm。長軸方位：N-9°-E。
[覆土] 2層(2・3層)に分層される。
[遺物] 出土しなかった。
[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

778号土坑

- 遺構** (第25図、第6表)
[位置] (F-5)グリッド
[検出状況] 780Dと重複。
[構造] 平面形：隅丸方形。断面形：北壁は45°、南壁は25°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況0.56m/短軸0.80m/深さ15cm。長軸方位：N-81°-W。
[覆土] 単層である。
[遺物] 出土しなかった。
[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

780号土坑

- 遺構** (第25図、第6表)
[位置] (F-4・5)グリッド
[検出状況] 1号炭坑を切り、778D・92Pと重複。
[構造] 平面形：長方形。断面形：北壁は60°、東壁は55°で緩やかに立ち上がる。底面は平坦。規模：長軸現況3.28m/短軸現況1.45m/深さ27cm。長軸方位：N-75°-W。
[覆土] 6層(2~7層)に分層される。
[遺物] 出土しなかった。
[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

782号土坑

- 遺構** (第25図、第6表)
[位置] (E・F-5)グリッド
[検出状況] 767Dを切る。一部調査区外。
[構造] 平面形：隅丸長方形。断面形：東壁は80°、南壁は65°で直線的に立ち上がる。底面は平

垣。規模：長軸2.90m/短軸現況0.60m/深さ48cm。長軸方位：N-17°-E。

[覆土] 3層(3~5層)に分層される。2層は本遺構を覆う段切状遺構の覆土と考えられる。

[遺物] 出土しなかった。

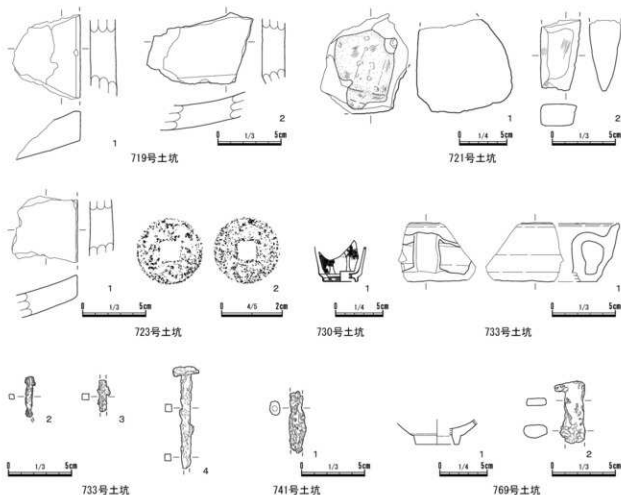
[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

遺構名	位置 グリッド	平面形	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
717D	D-8	円形	1.94	1.83	0.33	N-23°-W	2層/731Dと重覆	遺物なし	中世以降
718D	D-8	楕円形	1.18	1.02	0.22	N-86°-E	3層	遺物なし	中世以降
719D	E-8・9	楕円形	(1.13)	1.02	0.24	N-87°-W	2層/覆瓦に切られる	瓦	近世
721D	E-6・7	楕円形 人口掘坑部: 楕円形 主体部: 楕円形	人口掘坑部: 1.20 主体部: 1.60	人口掘坑部: 0.70 主体部: 1.60	人口掘坑部: 0.70 主体部: 1.34	N-60°-W N-60°-W	8層/覆瓦に切られる	土器、磁石、石臼、鏝	中世
722D	E-8・9・F-9	長方形	(1.63)	(0.78)	0.55	N-81°-E	2層/一部調査区外	遺物なし	中世以降
723D	F-9	楕円形	(0.89)	(0.66)	0.28	N-27°-W	2層/一部調査区外	平杖瓦、銭貨	近世以降
724D	D-7・8	楕円形	(2.60)	1.00	0.26	N-80°-E	2層/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
725D	F-7	長方形	(1.39)	(0.73)	0.41	N-16°-E	3層/726Dと重覆/729Dに切られる/一部調査区外	遺物なし	中世以降
726D	F-7	楕円長方形	(1.58)	(1.18)	0.32	N-75°-W	~/725Dと重覆/729D・3Pと重覆	遺物なし	中世以降
727D	F-6・7	楕円長方形	(1.50)	(1.20)	0.14	N-75°-W	単層/729Dを切る/3Pと重覆	遺物なし	中世以降
728D	E・F-6・7	楕円長方形	(3.48)	(1.48)	0.26	N-70°-W	単層/726D・3P・7Pと重覆	遺物なし	中世以降
729D	F-6・7	—	(3.20)	(0.83)	0.24	—	3層/725Dを切る/727Dに切られる/726D・3Pと重覆	遺物なし	中世以降
730D	D-10	長方形	(3.13)	(0.60)	0.29	N-18°-W	単層/735Dと重覆/覆瓦に切られる	土器、陶磁器、瓦	近世以降
731D	D-8	楕円長方形	3.65	0.80	0.40	N-84°-E	3層/717Dと重覆/732Dと重覆	陶器	近世以降
732D	D-E-8	楕円長方形	2.05	0.68	0.44	N-32°-E	3層/731Dと重覆/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
733D	E-8・9	長方形	3.46	0.77	0.36	N-70°-E	3層/覆瓦に切られる	土器、陶器、石製 鉄製品	近世以降
734D	E-8	不整形方形	(1.85)	0.70	0.28	N-59°-E	~/覆瓦に切られる/一部調査区外	遺物なし	中世以降
735D	D-10	長方形	(2.02)	(0.75)	0.20	N-63°-E	~/730Dと重覆/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
736D	D-8・9	楕円長方形	2.46	0.48	0.11	N-18°-W	2層/43P・覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
737D	C・D-9	円形	1.25	1.13	0.24	N-34°-W	2層/783Dと重覆/35Pを切る/24Pに切られる	陶磁器	近世以降
738D	D-9	楕円長方形	1.04	0.58	0.09	N-89°-E	~/737Dと重覆/覆瓦に切られる	土器、陶器	近世以降
739D	D-E-11	長方形	(3.32)	1.00	0.37	N-20°-W	~/2号段切状遺構を切る/740Dと重覆/一部調査区外	遺物なし	中世以降
740D	D-E-11	長方形	(4.68)	(1.68)	0.16	N-23°-W	~/739Dと重覆/2号段切状遺構に切られる	遺物なし	近世以降
741D	D-E-9	楕円長方形	(4.30)	(2.65)	(0.79)	N-4°-W	8層/一部調査区外/下層は未検出	陶磁器、鉄製品	近世以降 (18c)
742D	C・D-12	楕円形	(2.93)	(0.88)	(0.86)	N-22°-W	9層/3号段切状遺構と重覆/覆瓦に切られる/一部調査区外/下層は未検出	陶磁器	近世以降 (17c-18c初)
743D	D-12	楕円長方形	(1.92)	1.28	0.97	N-57°-W	6層/2・3号段切状遺構と重覆/一部調査区外	陶磁器	中世以降
744D	E-5・6	不整形楕円形	(1.82)	(0.70)	0.10	N-71°-W	単層/745Dに切られる/746Dと重覆/一部調査区外	遺物なし	中世以降
745D	E-5	不整形楕円形	(0.76)	(0.73)	0.18	N-1°-W	3層/744D・746Dを切る/763Dと重覆/一部調査区外	遺物なし	中世以降
746D	E-5・6	楕円形	(1.48)	(0.70)	0.17	N-89°-W	~/744D・745D・765Dと重覆	遺物なし	中世以降
747D	C・D-6	不整形	(2.37)	(1.12)	0.41	N-7°-E	10層/一部調査区外	土器	中世以降
748D	D-6	楕円形	0.80	0.60	0.12	N-60°-W	2層	遺物なし	中世以降
749D	D-5・6	溝状	(2.80)	(0.47)	0.14	N-65°-W	2層/59P・60Pと重覆/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
750D	D-E-5・6	楕円形	0.82	0.72	0.32	N-37°-E	4層/720Dを切る	遺物なし	中世以降
751D	E-5	長方形	2.43	0.85	0.13	N-55°-E	2層/64Pと重覆	土器	中世以降
754D	D-5	楕円形	0.66	0.44	0.18	N-60°-E	2層	遺物なし	中世以降
755D	C-6	不整形楕円形	0.58	0.44	0.16	N-12°-W	単層/756Dを切る	遺物なし	中世以降
759D	C-5・6	不整形楕円形	1.15	(0.85)	0.15	N-78°-W	単層/760Dを切る/覆瓦に切られる	土器	中世以降
760D	C-5・6	楕円形	0.90	(0.70)	0.12	N-46°-W	単層/759Dに切られる	遺物なし	中世以降
761D	C・D-5・6	楕円長方形	1.96	0.46	0.14	N-25°-E	単層/762D・763Dを切る	遺物なし	近世以降
762D	C・D-5・6	不整形楕円形	0.85	0.12	0.06	N-24°-E	単層/763D・76Pを切る/761Dに切られる	遺物なし	中世以降
763D	C・D-5・6	長方形	1.95	0.42	0.13	N-24°-E	単層/761D・762Dに切られる	遺物なし	中世以降
764D	C-5	楕円形	0.58	0.45	0.05	N-20°-W	単層	遺物なし	中世以降
765D	E-5	長方形	(2.85)	0.92	0.30	N-84°-W	2層/745D・746D・766D・767Dと重覆/覆瓦に切られる	土器、磁器	中世以降
766D	E-5	—	(0.35)	0.28	0.03	N-84°-W	単層/745Dに切られる/763D・767Dと重覆	遺物なし	中世以降
767D	E・F-5	T字形	2.45	2.14	0.46	N-70°-E	15層/782Dに切られる/763D・766Dと重覆/主体部から炭化材・人骨片検出	土器	中世 (15-16c)
768D	D-4	不整形楕円形	1.96	1.62	0.19	N-29°-E	10層/774D・777D・78Pを切る/79Pに切られる	土器	中世以降

第6表 中世以降の土坑一覧(1)

遺構名	位置 グリッド	平面形	規模 (m)			長軸方位	層土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
769D	C・D-4	楕円形	1.86	1.68	0.34	N-38°-E	6層 / 80P・82P・亂瓦に切られる	土器、陶磁器、石器、鉄製品	中世以降
770D	F-5	円形	0.60	0.60	0.90	N-68°-W	3層	遺物なし	中世以降
772D	C・D-5	楕円形 (0.83)	(0.65)	0.21	N-16°-W	単層 / 771Dを切る / 亂瓦に切られる	遺物なし	中世以降	
773D	F-5	長楕円形	1.60	0.77	0.23	N-10°-E	3層 / 亂瓦に切られる	遺物なし	中世以降
774D	F-5, F-4・5	楕円形	2.40	(1.75)	0.24	N-89°-W	6層 / 1号炭焼窯を切る / 亂瓦に切られる	土器	中世以降
775D	D・E-3・4	長楕円形	4.85	(1.05)	0.31	N-71°-W	5層 / 一部調査区外	土器	中世以降
776D	D-4	楕円形	0.72	(0.40)	0.10	N-63°-E	単層 / 777Dを切る / 768Dに切られる	遺物なし	中世以降
777D	C・D-4	楕円形 (0.60)	(0.47)	0.08	N-9°-E	2層 / 768D・776Dに切られる	遺物なし	中世以降	
778D	F-5	隅丸方形	(0.56)	0.80	0.15	N-81°-W	単層 / 780Dと重複	遺物なし	中世以降
780D	F-4・5	長方形 (3.28)	(1.45)	0.27	N-75°-W	6層 / 1号炭焼窯を切る / 778D・92Pと重複	遺物なし	中世以降	
782D	E・F-5	隅丸長方形	2.90	(0.60)	0.48	N-17°-E	3層 / 767Dを切る / 一部調査区外	遺物なし	中世以降

第6表 中世以降の土坑一覽(2)



第26図 中世以降の土坑出土遺物(4/5・1/3・1/4)

発掘番号 図版番号	出土遺構	検出 品類	部位 遺存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	製作の特徴等	色調・胎土	時期	出土位置
第26図1 図版14-2-1	719D	瓦 椀瓦	楕円 破片	[6.6]	[5.3]	[2.2]	70.9	凸凹面に彰化キラコ付着 / 凹面 楕円部破片	灰色 / 黒色粒子・白 色粘土	近世	層土
第26図2 図版14-2-2	719D	瓦 平椀瓦	楕円 破片	[5.6]	[7.3]	[1.8]	79.8	凸凹面に彰化キラコ付着 / 凹面 楕円部破片	灰色 / 白色粒子・黒 色粘土	近世	層土
第26図1 図版14-2-1	723D	瓦 平椀瓦	楕円 破片	[5.0]	[5.3]	1.85	88.6	凸凹面に彰化キラコ付着 / 凹面 楕円部破片	黄灰色 / 白色粒子・ 黒色粘土	近世	層土下層

第7表 中世以降の土坑出土瓦一覽

発掘番号 図版番号	出土遺構	材質名	外径 (cm)	方孔一辺 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	製作の特徴等	時期	出土位置
第26回2 図版14-2-2	723D	黄水滲貫	2.2	0.6	0.2	2.0	細孔/宛形/一文銭	近世以降	覆土上

第8表 中世以降の土坑出土銭貨一覧

発掘番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (cm)	製作の特徴等	色調・胎土	推定産地	時期	出土位置
第26回1 図版14-2-1	730D	甕罎 唐二	体部～ 高台部	高 [3.7] 底 [3.2]	ロクロ成形/人工コバルト染付草 文/高台部二重線	灰白色	—	近代 (1870年代～)	覆土上
第26回1 図版14-2-1	733D	切瓶	内耳	高 4.6	胴部は外傾して立ち上がり、口縁 部は外反する/内耳附付	黒色/白色粒子・橙 色粒子	—	近世	覆土上層
第26回1 図版14-2-1	769D	甕罎	体部～ 高台部	高 [2.65] 底 [3.6]	ロクロ成形/青磁釉/高台部無釉	薄緑色	肥前	近世 (18世～19世紀)	覆土上層

第9表 中世以降の土坑出土磁器・土器一覧

発掘番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (cm)	製作の特徴等	色調・胎土	推定産地	時期	出土位置
図版14-2-1	737D	陶器 壺	口縁部 破片	高 [1.5]	ロクロ成形/口縁部は折曲外反す /口縁部～口縁部内面無釉	にぶい黄褐色/白色 粒子・チャート	瀬戸・美濃	近世	覆土上層
図版14-2-2	737D	陶器 丸壺	口縁部～ 体部	高 [3.4]	ロクロ成形/染付牡丹草文	灰白色/黒色粒子	肥前	近世	覆土上
図版14-2-2	741D	陶器 湯鉢	体部 破片	高 [1.5]	ロクロ成形/体部内外面無釉	暗褐色/白色粒子	瀬戸・美濃	近世 (18c～)	覆土上
図版14-2-1	742D	陶器 湯鉢	体部 破片	高 [7.3]	ロクロ成形/外面無釉縁取分け /内面ロクロ目施	灰白色/黒色粒子	瀬戸・美濃	近世	覆土上
図版14-2-2	742D	陶器 湯鉢	口縁部～体部 破片	高 [2.0]	ロクロ成形/外面染付/くろわん か手	灰白色/黒色粒子	肥前・萩佐賀	近世 (18世～19世紀)	覆土上
図版14-2-3	769D	陶器 湯鉢	体部 破片	高 [2.5]	ロクロ成形/体部内外面無釉	暗褐色/白色粒子・ チャート	瀬戸・美濃	近世 (18c～)	覆土上層

第10表 中世以降の土坑出土陶磁器一覧(写真図版)

発掘番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	製作の特徴等	時期	出土位置
第26回1 図版14-2-1	721D	石製品 石臼	破片	[8.6]	[10.0]	11	1144	外面磨減痕4条あり/層状岩	中世以降	覆土下層
第26回2 図版14-2-2	721D	石製品 砥石	破片	[5.7]	[3.0]	[2.45]	45.3	端面は滑いが、中央部にかけて粗らむ/上端欠損/表 と裏の2面が使用面/層状岩	中世以降	覆土下層
第26回2 図版14-2-2	733D	鉄製品 釘	頭～胴	[3.2]	0.75	0.75	1.1	下端部欠損/下端はやや折曲する/断面は方形/頭部 中心に全体が錆に覆われる	中世以降	覆土中層
第26回3 図版14-2-3	733D	鉄製品 釘	胴部	[2.5]	0.95	0.95	2.2	頂部・下端部欠損/断面は方形/中央部を中心に錆に 覆われる	中世以降	覆土中層
第26回4 図版14-2-4	733D	鉄製品 釘	先端部欠損	[8.1]	[2.1]	[1.05]	12.1	T字形/下端部欠損/上部・先端部の断面は方形/全 体的に錆に覆われる	中世以降	覆土中層
第26回1 図版14-2-1	741D	鉄製品 釘	上下部欠損	[4.9]	[1.35]	1.1	9.7	上下部欠損/断面は楕円形で、中に空洞がある/全 体的に錆に覆われる	中世以降	覆土上
第26回2 図版14-2-2	769D	鉄製品 釘	先端部欠損	[4.9]	[2.4]	[1.0]	17.2	逆L字型/上部の断面は長方形で、下部の断面は楕 円形/全体的に錆に覆われる	中世以降	覆土上層

第11表 中世以降の土坑出土鉄・石製品一覧

(4) ピット

該当するピットは97本である。全体の分布は、調査区中央部に偏る傾向がみられる。以下では、遺物が出土した24・42Pについて記述する。その他については第12表にまとめた。

24号ピット

遺 構 (第28図、第12表)

[位 置] (C-10) グリッド

[検出状況] 737Dを切る。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸45cm/短軸39cm/深さ34cm。

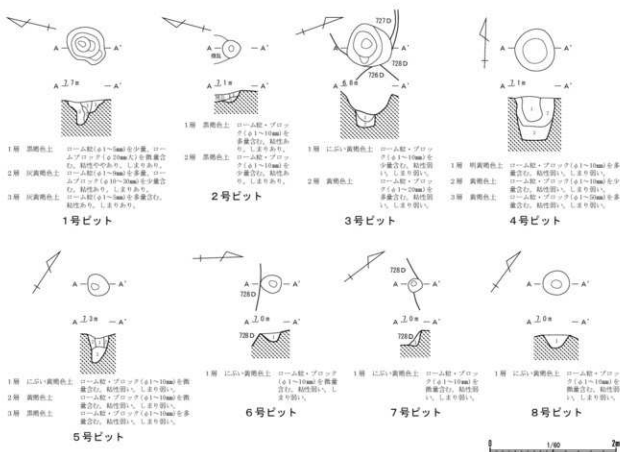
- [覆土] 5層に分層される。
 [遺物] 地点上げ遺物で土器1点が出土した。
 [時期] 出土遺物と覆土観察から、中世以降と思われる。
 [遺物] (図版14-2、第14表)
 [土器] (図版14-2-1、第14表)

1は焙烙である。

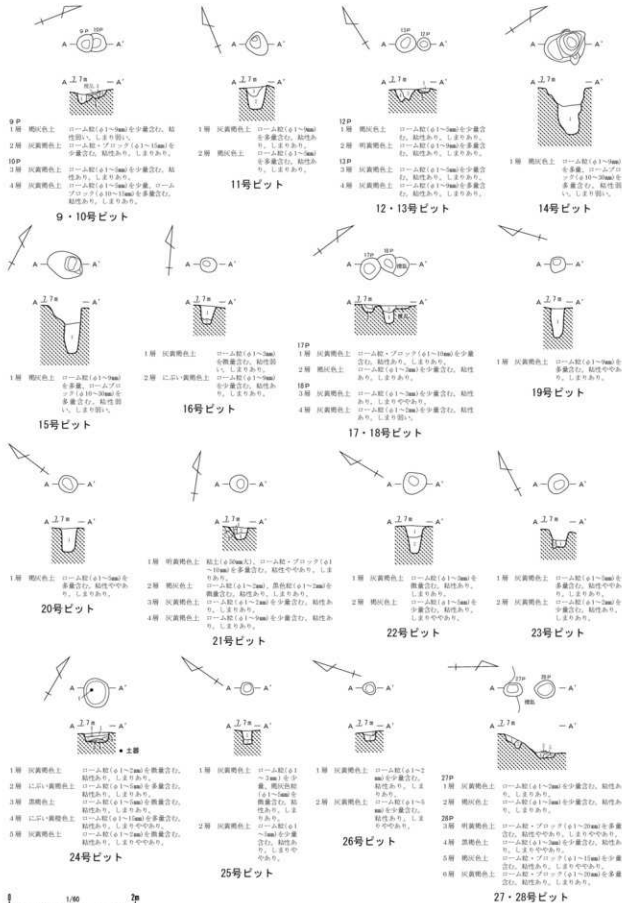
42号ピット

- [遺構] (第29図、第12表)
 [位置] (C-10) グリッド
 [検出状況] 34Pを切る。
 [構造] 平面形：楕円形。規模：長軸42cm/短軸40cm/深さ59cm。
 [覆土] 2層に分層される。
 [遺物] 地点上げ遺物で砥石1点が出土した。
 [時期] 出土遺物と覆土の観察から、中世以降と思われる。
 [遺物] (第33図、図版14-2、第13表)
 [石製品] (第33図1、図版14-2-1、第13表)

1は砥石である。



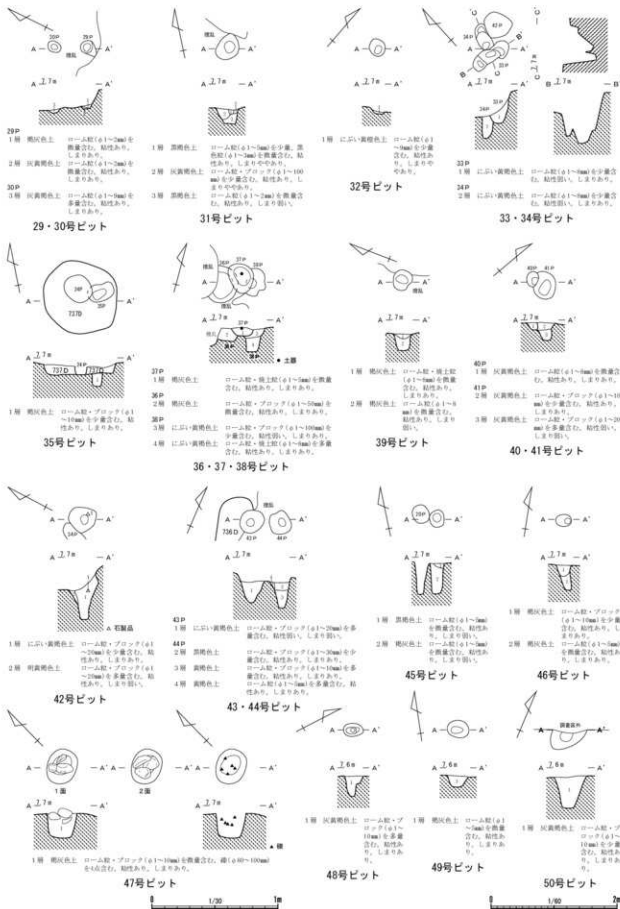
第27図 中世以降のピット1 (1/60)



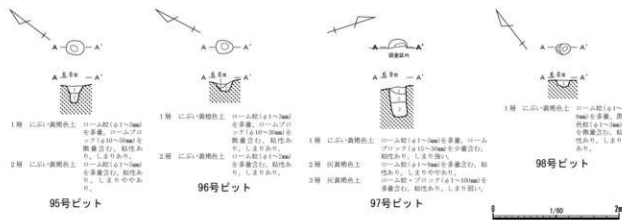
1/60 2m

第28図 中世以降のピット 2 (1/60)

第3章 検出された遺構・遺物



第29図 中世以降のピット3 (1/60・1/30)



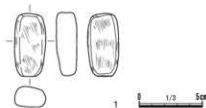
第32図 中世以降のピット6 (1/60)

遺構名	位置グリッド	平面形	形状 (cm)			層土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
1P	E-9	楕円形	65	55	35	3層	遺物なし	近世
2P	E-6	円形	28	27	29	2層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
3P	F-7	楕円形	70	65	64	2層/726D・727D・728Dと重複	遺物なし	近世
4P	E-6	楕円形	64	63	69	3層	遺物なし	近世
5P	D-6	楕円形	36	32	43	3層	土層	近世
6P	E-6	楕円形	33	27	19	単層	遺物なし	中世以降
7P	E-7	円形	22	20	21	単層/728Dに切られる	遺物なし	中世以降
8P	E-7	円形	42	37	23	単層	遺物なし	中世以降
9P	D-8	楕円形	28	25	14	2層/18Pに切られる	鉄	中世以降
10P	D-8	楕円形	(20)	30	10	2層/9Pを切る	遺物なし	中世以降
11P	C-10	楕円形	36	32	44	2層	遺物なし	中世以降
12P	C-10	楕円形	21	20	5	2層	遺物なし	中世以降
13P	C-10	楕円形	32	30	18	2層	遺物なし	中世以降
14P	C・D-10	楕円形	66	58	79	単層	遺物なし	中世以降
15P	D-9・10	楕円形	57	42	65	単層	遺物なし	中世以降
16P	D-9	楕円形	26	23	34	2層	遺物なし	中世以降
17P	D-9	楕円形	34	32	16	2層/18Pを切る	遺物なし	中世以降
18P	D-9	楕円形	32	26	27	2層/17P・履瓦に切られる	珠露	中世以降
19P	D-9	楕円形	26	26	49	単層	遺物なし	中世以降
20P	C・D-9	楕円形	29	25	49	単層	遺物なし	中世以降
21P	C-9	楕円形	28	27	20	4層	遺物なし	中世以降
22P	C-9	楕円形	40	25	44	2層	遺物なし	中世以降
23P	C-9	楕円形	32	32	26	2層	遺物なし	中世以降
24P	C・D-9	楕円形	45	39	17	5層/737Dを切る	土層	中世以降
25P	C-9	楕円形	22	22	22	2層	遺物なし	中世以降
26P	C-9	楕円形	22	20	14	2層	遺物なし	中世以降
27P	C-9	楕円形	30	20	12	2層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
28P	C-9	楕円形	32	28	13	4層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
29P	C-9	楕円形	30	22	15	2層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
30P	C-9	楕円形	22	17	7	単層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
31P	C-9	楕円形	40	34	32	3層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
32P	C-9	楕円形	28	24	7	単層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
33P	C-10	不整楕円形	66	26	59	単層/34Pを切る/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
34P	C-10	不整楕円形	42	22	35	単層/33P・42P・履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
35P	D-9	楕円形	43	28	24	単層/737Dに切られる	遺物なし	中世以降
36P	C-9	楕円形	56	23	24	単層/37P・履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
37P	C-9	楕円形	46	40	16	単層/36P・38Pを切る/履瓦に切られる	土層	中世以降
38P	C-9	楕円形	44	24	41	2層/37Pに切られる	遺物なし	中世以降
39P	D-9	不整楕円形	33	32	33	2層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
40P	D-10	楕円形	24	19	12	単層/41Pを切る	遺物なし	中世以降
41P	D-10	楕円形	44	36	27	2層/40Pに切られる	遺物なし	中世以降
42P	C-10	楕円形	42	40	59	2層/34Pを切る/履瓦に切られる	灰石	中世以降
43P	C・D-9	楕円形	44	36	49	単層/736Dを切る/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降
44P	C・D-9	楕円形	37	37	49	3層/履瓦に切られる	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覽(1)

遺構名	位置 グリッド	平面形	規模 (m)			層上及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
45P	C・D-9・10	楕円形	26	24	48	2層	遺物なし	中世以降
46P	C-10	楕円形	26	19	54	2層	遺物なし	中世以降
47P	C-10	楕円形	28	22	24	単層	土器	中世以降
48P	B-9	楕円形	32	22	30	単層	遺物なし	中世以降
49P	B-9	楕円形	35	26	17	単層	遺物なし	中世以降
50P	B-9・10	(楕円形)	(51)	(29)	51	単層	遺物なし	中世以降
51P	C-8	楕円形	38	34	64	単層/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
52P	C-9	楕円形	35	22	33	2層/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
53P	F-12	円形	31	30	13	単層	遺物なし	中世以降
54P	F-12	楕円形	34	28	21	単層/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
55P	C-9	楕円形	32	26	17	単層/覆瓦に切られる	遺物なし	中世以降
56P	C・D-5	円形	40	38	16	単層	遺物なし	中世以降
57P	D-5	円形	40	39	19	2層	遺物なし	中世以降
58P	C-5	円形	28	26	5	2層	遺物なし	中世以降
59P	D-5	楕円形	28	24	34	2層/7490を切る	遺物なし	中世以降
60P	D-5	楕円形	34	29	12	2層/7490を切る	遺物なし	中世以降
61P	C-5	楕円形	39	36	8	2層	土器	中世以降
62P	C-4・5	円形	44	42	14	2層	遺物なし	中世以降
63P	C-5	楕円形	49	42	14	2層	遺物なし	中世以降
64P	E-5	不整形円形	38	31	9	2層/751Bに切られる	遺物なし	中世以降
65P	D-5	不整形円形	68	50	53	5層	遺物なし	中世以降
66P	C-5	楕円形	38	29	11	2層/67Pに切られる	遺物なし	中世以降
67P	C-5	(楕円形)	(50)	46	12	2層/66Pを切る	遺物なし	中世以降
68P	D-5	円形	48	42	46	4層	遺物なし	中世以降
69P	C-5	円形	52	48	25	2層	遺物なし	中世以降
70P	C・D-6	楕円形	50	43	86	2層/762Dに切られる	土器	中世以降
71P	B・C-5	楕円形	27	21	19	単層	遺物なし	中世以降
72P	C-4	(円形)	(56)	53	36	3層/一部調査区外	遺物なし	中世以降
73P	C-4・5	円形	33	32	77	3層	遺物なし	中世以降
74P	C・D-5	不整形円形	53	42	72	4層/75Pを切る	遺物なし	中世以降
75P	C・D-5	(楕円形)	45	(32)	58	3層/74Pに切られる	遺物なし	中世以降
76P	D-4	円形	66	58	8	単層	土器	中世以降
77P	D-4	楕円形	47	38	12	2層	遺物なし	中世以降
79P	D-4	楕円形	34	26	72	3層/768D・78Pを切る	遺物なし	中世以降
80P	C-4	円形	37	35	10	単層/7690・81Pを切る	遺物なし	中世以降
81P	C-4	(円形)	34	(32)	6	単層/80Pに切られる	遺物なし	中世以降
82P	C-4	不整形円形	44	36	18	2層/7690を切る	遺物なし	中世以降
83P	F-5	円形	24	24	9	単層	遺物なし	中世以降
84P	F-5	楕円形	30	22	13	2層	遺物なし	中世以降
85P	F-5	円形	26	24	19	単層	遺物なし	中世以降
86P	F・G-5	円形	34	31	17	2層	遺物なし	中世以降
87P	F-4	円形	28	26	13	2層	遺物なし	中世以降
88P	F-5	円形	27	23	8	3層	遺物なし	中世以降
89P	F-5	楕円形	26	21	17	2層	遺物なし	中世以降
90P	F-5	(円形)	43	(15)	60	2層/一部調査区外	遺物なし	中世以降
91P	F-5	楕円形	19	15	8	単層	遺物なし	中世以降
92P	F-4	円形	21	19	12	単層/780Dと重畳	遺物なし	中世以降
93P	F-4	円形	32	29	21	2層	遺物なし	中世以降
94P	F-4	円形	25	24	10	2層	遺物なし	中世以降
95P	E・F-5	楕円形	28	25	27	2層	遺物なし	中世以降
96P	F-5	楕円形	27	21	13	2層	遺物なし	中世以降
97P	F-5	(円形)	(29)	(13)	50	3層/一部調査区外	遺物なし	中世以降
98P	F-5	楕円形	24	17	7	単層	遺物なし	中世以降

第12表 中世以降のピット一覧(2)



第33図 中世以降のピット出土遺物(1/3)

発掘番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	製作の特徴等	時期	出土位置
第33回1 図版14-2-1	42P	石製品 鏡石	完形	5.0	2.45	1.6	31.4	隅丸長方形／上端・下端は未使用／残りの4面が使用面／凝灰岩	中世以降	竪土上層

第13表 中世以降のピット出土石製品一覧

発掘番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (cm)	製作の特徴等	色調・胎土	時期	出土位置
図版14-2-1	24P	磁器	底面 破片	高 [0.75]	内面ロクロナデ	黒褐色／白色粒子・ 黒色粒子・雲母	近世	竪土中層

第14表 中世以降のピット出土土器一覧(写真図版)

第4節 遺構外出土遺物

ここでは、確認調査や攪乱及び表土から出土した遺物、また、遺構内ではあるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として報告する。

(1) 旧石器時代の石器

[石 器] (第34図1、図版15-1、第15表)

1は黒曜石製の細石刃である。

(2) 縄文時代の遺物

[石器・石製品] (第34図2～5、図版15-2～5、第15表)

2は黒曜石製の石鏃である。3はチャート製の二次加工のある剥片である。4は片岩製の打製石斧である。5は石英閃緑岩製の石皿である。

[土 器] (第34図6～14、図版15-6～14、第16表)

6～14は前期の土器である。6・7は前期前葉の花積下層式土器で、8・9は前期中葉の黒浜式土器である。10～14は前期後葉の諸磯式土器で、10～12は諸磯a式土器、13・14は諸磯c式土器である。

(3) 近世以降の遺物

[陶磁器・土器] (第34・35図15～28、図版15・16-15～28、第17表)

15は1690年代～1750年代の磁器碗で、高台内中央に二重方形枠内満福が描かれている。16は陶器で、瀬戸・美濃産の鉢である。17は炆器で、明石・堺産の播鉢である。18は陶器で、台付灯明受皿である。19は磁器鉢である。20は磁器で、肥前産の皿である。21～23は陶器で、21は瀬戸・美濃産の灯明受皿、22は瀬戸・美濃産の瓶、23は土釜である。24は瓦質土器の火入れである。25～28は磁器で、25は人工コバルト染付碗、26は銅版絵付碗、27は銅版絵付碗、28は色絵付碗である。

[瓦] (第35図29、図版16-29、第18表)

29は棧瓦である。

[石製品] (第35図30・31、図版16-30・31、第19表)

30は多面体石製品である。31は砥石である。

[銅製品] (第35図32・33、図版16-32・33、第19表)

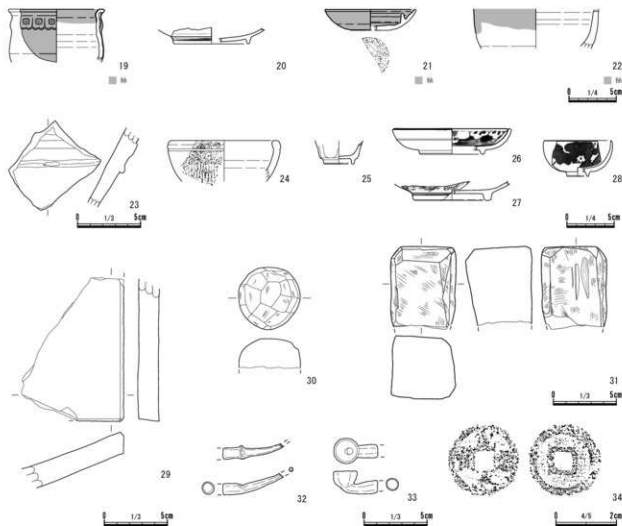
32は煙管の吸口部である。33は煙管の雁首部である。

[銭貨] (第35図34、図版16-34、第20表)

34は完形の一文銭で、寛永通宝と思われる。



第34図 遺構外出土遺物 (1/1・1/3・1/4)



第35図 遺構外出土遺物(4/5・1/3・1/4)

発掘番号 図版番号	種別 器種	石材	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (cm)	重量 (g)	製作の特徴等	時期 型式等	出土位置
第34図1 図版15-1	細石刃	黒曜石	[1.6]	0.57	0.12	0.2	両端部欠損／両側縁と稜線は並行し、表裏の側縁に複雑な刻痕がみられる	旧石器時代	769D
第34図2 図版15-2	石鏃	黒曜石	2.05	1.0	0.65	1.3	平基無茎／表裏面に調整刻痕／表面中央部に厚みをもち側縁は非対称	縄文時代	E6G
第34図3 図版15-3	二次加工の赤石 削片	チャート	[2.3]	2.1	0.6	2.6	側縁に部分的な二次加工／端部欠損	縄文時代	表土
第34図4 図版15-4	打製石斧	片岩	11.4	4.6	1.6	128.8	短楕形／両刃／両端斜打技法後に背縁側調整	縄文時代	733D
第34図5 図版15-5	石鏃	石英閃緑岩	[14.2]	[14.0]	[4.5]	1273	下部縮損／凹状窪み部に磨り面と磨痕跡あり	縄文時代	1号段内遺構

第15表 遺構外出土旧石器・縄文時代石器・石製品一覧

発掘番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法長 (m)	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第34図6 図版15-6	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚[0.95]	口縁部は外縁	口縁部器糸断面土器文	暗灰色／白色粒子	前期縄文 花壇下層式	表土
第34図7 図版15-7	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚[0.7]	胴部は直線の に外縁	胴部外面結実羽状縄文	外：にぶい黄褐色／ 内：褐色／白色粒子 赤色粒子+チャート	前期縄文 花壇下層式	747D

第16表 遺構外出土縄文土器一覧(1)

第3章 検出された遺構・遺物

探検番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (m)	器形・形態	文様・調整等	色調・胎土	時期 型式等	出土位置
第34図8 図版15-8	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 [0.9]	胴部は内径首 み以外無	胴部外面結束羽状縄文	外：黄褐色／内：に ぶい・黄褐色／白色 粒子・黒色粒子・褐色 粒子	前期中葉 黒浜式	表土
第34図9 図版15-9	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚 [1.1]	口縁部は直線的 の外縁	半截竹筒による横位平行比喩の下位に斜位の 平行比喩	にぶい・黄褐色／白色 粒子・黒色粒子・チヤート	前期中葉 黒浜式	77脚
第34図10 図版15-10	縄文土器 深鉢	口縁部 破片	厚 [0.7]	口縁部は直線的 の内縁	外面上部横位平行比喩後縦位連続刻み	赤褐色／白色粒子・ 黒色粒子・チヤート	前期後葉 諸磯a式	表土
第34図11 図版15-11	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 [0.5]	胴部は直線的 の外縁	単節縄文R.L	褐色／白色粒子	前期後葉 諸磯a式	表土
第34図12 図版15-12	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 [0.9]	胴部は直線的 の外縁	外面上部結節縄文／下部単節縄文L.R	にぶい・黄褐色／白色 粒子・黒色粒子・チヤート	前期後葉 諸磯a式	表土
第34図13 図版15-13	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 [0.6]	胴部は内径首 み以外無	胴部外面縦位集合比喩	明赤褐色／白色粒 子・黒色粒子・チヤート	前期後葉 諸磯c式	表土
第34図14 図版15-14	縄文土器 深鉢	胴部 破片	厚 [1.1]	胴部は直線的 の外縁	胴部外面集合比喩	外：にぶい・黄 色／内：にぶい・黄褐色 ／白色粒子・黒色粒子・ 雲母・チヤート	前期後葉 諸磯c式	表土

第16表 遺構外出土縄文土器一覽(2)

探検番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	法量 (m)	製作の特徴等	色調・胎土	推定産地	時期	出土位置
第34図13 図版15-15	磁器 碗	口縁部～ 底部	□ [16.0] 高 3.3 底 4.6	ロクロ成形・体外外面染付藍文／底部内面に部 寿文／高台内中央に二重方形内縁輪	灰白色／白色粒子	—	近世 初期～中期	表土
第34図16 図版15-16	陶器 鉢	体部～底部	高 [3.2] 底 [12.0]	ロクロ成形／体外外面鉄軸	外：浅黄色／内：にぶ い・黄褐色／白色粒子	瀬戸・美濃	近世 (18c～)	表土
第34図17 図版15-17	石器 鉢	体部～底部	高 [4.3] 底 [20.4]	ロクロ成形／体部は緩やかに外縁する／体部内 面に放射状彫目／彫目間は0.3cm／彫目幅は 0.1cm	外：赤色／内：明赤 褐色／白色粒子・チヤート	明石・堺	近世 (18c後半～)	D10G
第34図18 図版15-18	陶器 打灯台受皿	口縁部～ 底部	外径 8.6 内径 4.6 内径 5.5 底 6.4	ロクロ成形／透明釉／胴部から底部にかけて 履広がり／胴体部は浅く外反しつづつ立ち上り 、口縁部から緩やかな内湾で立ち上がる／受 皿口縁は垂直に立ち上がる	浅黄色／白色粒子	京・信楽	近世 (18c末～)	表土
第35図19 図版16-19	磁器 鉢	口縁部～ 体部	□ [9.0] 高 [5.5]	ロクロ成形／外面～口縁部内面青磁軸／体外外 面土器硝子刺付蓋付文	緑褐色／白色粒子	—	近世以降	表土
第35図20 図版16-20	磁器 皿	体部～底部	高 [1.7] 底 [7.8]	ロクロ成形／内面染付二重扇線草花文／体外下 端～高台部上端外面三重扇線	灰白色／白色粒子	堺前	近世以降	表土
第35図21 図版16-21	陶器 打灯台受皿	口縁部～ 底部	内径 [6.5] 外径 [9.4] 高 [2.25] 底 [4.2]	ロクロ成形／内外面鉄軸	赤褐色／白色粒子	瀬戸・美濃	近世以降	表土
第35図22 図版16-22	陶器 瓶	体部 破片	高 [4.2]	ロクロ成形／鉄軸透明釉掛分け／内面透明釉	にぶい・黄褐色／白色 粒子	瀬戸・美濃	近世以降	表土
第35図23 図版16-23	陶器 土釜	体部 破片	高 [6.3]	ロクロ成形／器形は直線的に外縁する／体外外 面幅0.5cmの横位凸帯1条	外：黄褐色／内：暗 オリーブ色／白色粒 子・黒色粒子	—	近世以降	表土
第35図24 図版16-24	瓦質土器 火入れ	口縁部～ 体部	□ [10.8] 高 [4.3]	ロクロ成形／体部内湾状に外縁しながら、口縁 部で器内内縁、口縁部より4cm、口縁部外面横位 比喩1条／体外外面型押文(縦色)	黄褐色／黒色粒子	—	近世以降	表土
第35図25 図版16-25	磁器 碗	体部～底部	高 [2.5] 底 2.8	体外外面ロクロ打付／人工コハルト染付／透明 釉／底部外面青磁に二重扇線／高台内中央に数	灰白色／白色粒子	—	近代以降 (1870年代～)	表土
第35図26 図版16-26	磁器 碗	口縁部～ 底部	□ [12.0] 高 2.7 底 (6.4)	ロクロ成形／口縁部3紅／内面染付亀甲輪竹文 ／透明釉／銅板絵付	灰白色／白色粒子	—	近代以降 (1890年代～)	表土
第35図27 図版16-27	磁器 碗	体部～底部	高 [2.05] 底 (7.2)	ロクロ成形／外面四脚文／銅板絵付 (赤)	灰白色／白色粒子	—	近代以降 (1890年代～)	表土
第35図28 図版16-28	磁器 碗	口縁部～ 底部	□ [7.0] 高 3.8 底 (2.1)	ロクロ成形／外面色絵付松風草文	灰白色／白色粒子	—	近代以降	表土

第17表 遺構外出土陶磁器・土器一覽

探検番号 図版番号	種別 器種	部位 遺存状態	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (m)	重量 (g)	製作の特徴等	色調・胎土	時期	出土位置
第35図29 図版16-29	瓦	破片	[11.3]	[8.1]	1.65	176.4	凸凹面に製成セラコ付着／凹面端部取	黄灰色	近世以降	表土

第18表 遺構外出土瓦一覽

発掘番号 図版番号	種別 副種	部位 遺存状態	長さ (m)	幅 (m)	厚さ (mm)	重量 (g)	製作の特徴等	時期	出土位置
第35図30 図版16-30	石製品 多面体石製品	半球部	4.95	4.85	[2.3]	60.8	砂岩/半球状/全面に1~2cm四方の面が作出されており、各面に浅い凹跡が観察される/用途不明	近世以降	表土
第35図31 図版16-31	石製品 砥石	板片	[6.55]	[5.2]	[5.25]	297.8	下部にかけてやや疎くなる/下部欠損/表面両端部面取り/上端面を除く4面が使用面	近世以降	表土
第35図32 図版16-32	銅製品 煙管	噴口	[4.8]	0.35~ 1.0	0.1	2.8	噴口部/両端部欠損/中央部凹曲	近世以降 (18c後半以降)	D7G
第35図33 図版16-33	銅製品 煙管	煙首	3.5	1.0	0.1	8.4	煙首部/火皿幅2.0cm/火皿内部に炭化材質存/煙首端部で青銅色露出	近世以降 (19c以降)	表土

第19表 遺構外出土石製品・銅製品一覧

発掘番号 図版番号	銭貨名	外径 (mm)	方孔一辺 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	製作の特徴等	時期	出土位置
第35図34 図版16-34	寛永通寶	2.3	0.6	0.2	3.0	銅銭/完形/一文銭	近世以降	表土

第20表 遺構外出土銭貨一覧

第4章 自然科学分析

第1節 炭化材の樹種同定

黒沼保子（バレオ・ラボ）

1. はじめに

志本市の中野遺跡第122地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、1号炭焼窯と767D（火葬土坑）から出土した炭化材24試料である。なお、試料内に複数の分類群が含まれている試料があり、分析総数は35点となった。年代測定の結果、1号炭焼窯の試料2点は飛鳥時代～平安時代前期、767D（火葬土坑）の試料2点は室町時代の暦年代を示した。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、広葉樹のエノキ属とコナラ属クヌギ節、分類群不明の広葉樹、樹皮a、樹皮b、単子葉類のタケ亜科の、計6分類群が確認された。遺構別の樹種同定結果を第21表、結果の一覧を第22・23表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

- (1) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版17 1a-1c
(767D分析No.6)、2a (767D分析No.14)

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は3～8列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において、放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯から温帯に分布する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

- (2) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版17 3a-3c (1号炭焼窯分析No.3-1)、4a (1号炭焼窯分析No.4-1)

樹種/遺構	1号炭焼窯	767D(火葬土坑)	合計
エノキ属		14	14
コナラ属クヌギ節	6		6
広葉樹	1		1
樹皮a	4		4
樹皮b		2	2
タケ亜科		8	8
合計	11	24	35

第21表 遺構別の樹種同定結果

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強韌で、加工困難である。

(3) 広葉樹 **Broadleaf tree** 図版17 5a (1号炭焼窯分析No.6)

道管を有する広葉樹である。1年輪未満の枝材で木材組織が未成熟であり、同定には至らなかった。

(4) 樹皮 a **Bark a** 図版17 6a (1号炭焼窯分析No.5)

篩細胞および篩部放射組織からなる二次細胞および周皮で構成される樹皮である。試料は厚みがあり、放射組織は太い。

(5) 樹皮 b **Bark b** 図版17 7a (767D分析No.3)

篩細胞および篩部放射組織からなる二次細胞および周皮で構成される樹皮である。試料の厚みは薄い。

(6) タケ亜科 **Subfam. Bambusoideae** イネ科 図版17 8a (767D分析No.8)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は一对の道管とそれと直行する原生木部間隙と篩部で形成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘が取り囲む。

タケ・ササの仲間では日本では12属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。割裂性が非常に大きい。

4. 考察

1号炭焼窯ではクヌギ節が多く、ほかに分類群不明の広葉樹と樹皮が確認された。関東地方で出土する古代の燃料材では、クヌギ節やコナラ節が多く確認されており(伊東・山田編 2012)、今回の分析結果も傾向は類似している。

767Dの火葬土坑ではエノキ属が多く、ほかにタケ亜科と樹皮が確認された。関東地方で出土する中世の火葬土坑の炭化材では、コナラ属やクワ属、エノキ属が多く確認されている(伊東・山田編 2012)。志木市では中野遺跡の過去の調査や城山遺跡で、中世の火葬土坑の炭化材でエノキ属が多くみられ、今回の分析も同様の傾向を示した。

[引用・参考文献]

- 平井信二 1996 木の百科, 394p, 朝倉書店。
 伊東隆夫・山田昌久編 2012 木の考古学—出土木製品用材データベース—, 449p, 海青社。
 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和徳 2011 日本有用樹木誌, 238p, 海青社。

第4章 自然科学分析

分析No.	出土位置	樹種	形状(部位)	残存径	残存年輪数	年代測定番号
1	a区一括	コナラ属クヌギ節	不明(節)	2.0×0.8cm	1	—
2	b区一括	コナラ属クヌギ節	不明	0.2×0.5cm	1	—
3-1	c区一括	コナラ属クヌギ節	丸木	直径0.8cm	3	—
3-2	c区一括	樹皮a	—	—	—	—
4-1	d区一括	コナラ属クヌギ節	丸木、不明	直径1.5cm、1.5cm角	10以下	—
4-2	d区一括	樹皮a	—	—	—	—
5	セクションA-A' 4層	樹皮a	—	—	—	PLD-49671
6	セクションA-A' 7層	広葉樹	丸木	直径0.3cm	1	—
7	セクションA-A' 9層	コナラ属クヌギ節	不明	0.3×0.4cm	3	—
8-1	セクションA-A' 11層	樹皮a	—	—	—	PLD-49672
8-2	セクションA-A' 11層	コナラ属クヌギ節	不明	0.1×0.2cm	1	—

第22表 樹種同定結果一覧(1号炭焼窯)

分析No.	出土位置	樹種	形状(部位)	残存径	残存年輪数	年代測定番号
1	No1	エノキ属	不明	0.8×0.8cm	2	—
2	No2	エノキ属	不明	2.0×1.0cm	3	—
3	No3	樹皮b	—	—	—	—
4-1	No4	エノキ属	不明	1.0×0.5cm	2	—
4-2	No4	樹皮b	—	—	—	—
5	No5	エノキ属	丸木?	直径2.0cm	4	—
6	No28	エノキ属	丸木?	直径3.0cm	5	—
7-1	No68	タケ亜科	稈	直径0.8~2.0cm	—	—
7-2	No68	エノキ属	丸木	直径0.6cm	4	—
8	No69	タケ亜科	稈	直径0.8cm	—	—
9-1	No71	エノキ属	不明	1.0×0.8cm	1	—
9-2	No71	タケ亜科	稈	不明	—	—
10-1	No72	エノキ属	丸木?	2.0×1.5cm	4	PLD-49673
10-2	No72	タケ亜科	稈	不明	—	—
11-1	No73	エノキ属	丸木?	半径2.5cm	4	—
11-2	No73	タケ亜科	稈	不明	—	—
12	No74	エノキ属	丸木	直径2.5cm	5	—
13-1	No75	エノキ属	丸木	直径0.5~2.0cm	5	—
13-2	No75	タケ亜科	稈	不明	—	—
14	No78	エノキ属	半割?	直径3.5cm	5	PLD-49674
15-1	炭一括	エノキ属	丸木	直径0.5cm~半径1.0cm	4	—
15-2	炭一括	タケ亜科	稈	不明	—	—
16-1	一括	エノキ属	半径	2.0cm	5	—
16-2	一括	タケ亜科	稈	不明	—	—

第23表 樹種同定結果一覧(767D)

第2節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadze・黒沼保子

1. はじめに

志木市の中野遺跡第122地点から出土した炭化材について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、セクションA-A'の4層と11層から採取された1号炭焼窯の炭化材が各1点と、767D(火葬土坑)の遺物No.72とNo.78の炭化材で、合計4点である。セクションA-A'出土の炭化材は、どちらも樹皮であった。767D(火葬土坑)出土の炭化材2点は、どちらも最終形成年輪が残存していた。

測定試料の情報、調製データは第24表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-49671	遺構：1号炭焼窯 位置：セクションA-A'4層	種類：炭化材(樹皮a) 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-49672	遺構：1号炭焼窯 位置：セクションA-A'11層	種類：炭化材(樹皮a) 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-49673	遺構：767D(火葬土坑) 遺物No. 72	種類：炭化材(エノキ属) 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
PLD-49674	遺構：767D(火葬土坑) 遺物No. 78	種類：炭化材(エノキ属) 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)

第24表 測定試料および処理

3. 結果

第25表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代、第36図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差(±1σ)は、測定の統

計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正にはOxCal4.4(較正曲線データ: IntCal20)を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-49671	-25.27 \pm 0.16	1215 \pm 19	1215 \pm 20	774-775 cal AD (0.93%) 786-830 cal AD (47.84%) 853-874 cal AD (19.49%)	708-714 cal AD (1.68%) 716-721 cal AD (1.32%) 773-776 cal AD (1.89%) 780-883 cal AD (90.56%)
PLD-49672	-28.08 \pm 0.16	1243 \pm 20	1245 \pm 20	705-739 cal AD (37.57%) 773-775 cal AD (1.78%) 790-821 cal AD (28.93%)	681-744 cal AD (48.99%) 760-766 cal AD (1.49%) 772-776 cal AD (2.58%) 786-835 cal AD (35.16%) 849-877 cal AD (7.23%)
PLD-49673	-26.14 \pm 0.19	492 \pm 21	490 \pm 20	1421-1439 cal AD (68.27%)	1410-1444 cal AD (95.45%)
PLD-49674	-23.05 \pm 0.20	447 \pm 19	445 \pm 20	1437-1452 cal AD (68.27%)	1426-1459 cal AD (95.45%)

第25表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年較正を行った。

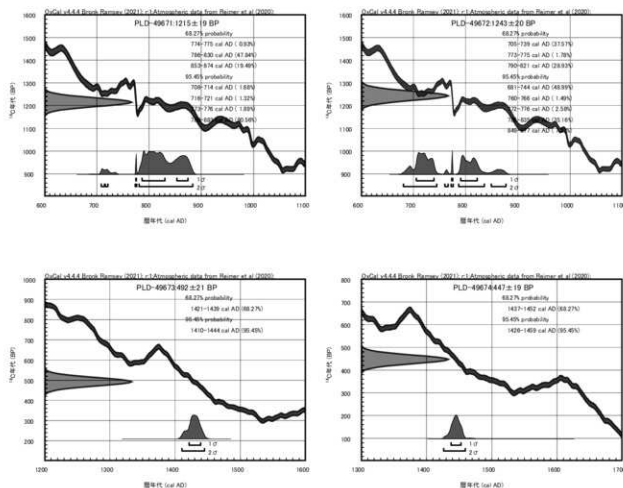
セクションA-A'の4層出土の1号炭焼窯の炭化材(PLD-49671)は、708-714 cal AD (1.68%)、716-721 cal AD (1.32%)、773-776 cal AD (1.89%)、780-883 cal AD (90.56%)で、8世紀初頭～9世紀後半の暦年代範囲を示した。また、11層出土の1号炭焼窯の炭化材(PLD-49672)は、681-744 cal AD (48.99%)、760-766 cal AD (1.49%)、772-776 cal AD (2.58%)、786-835 cal AD (35.16%)、849-877 cal AD (7.23%)で、7世紀後半～9世紀後半の暦年代範囲を示した。どちらも飛鳥時代～平安時代前期に相当する。

767D(火葬土坑)の遺物No.72(PLD-49673)は1410-1444 cal AD (95.45%)、遺物No.78(PLD-49674)は1426-1459 cal AD (95.45%)の暦年代範囲を示した。どちらも15世紀前半～中頃で、室町時代に相当する。

なお、木材試料は最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。767D(火葬土坑)出土の遺物No.72(PLD-49673)と遺物No.78(PLD-49674)は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示している。一方、セクションA-A'4層と11層から採取された1号炭焼窯の試料(PLD-49671、49672)は樹皮であり、枯死もしくは伐採された年代に近い年代を示していると考えられる。

[参考文献]

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫 2000 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の¹⁴C年代編集委員会編「日本先史時代の¹⁴C年代」: 3-20. 日本第四紀学会.Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757. doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

第36図 暦年較正結果

第3節 埼玉県志木市中野遺跡第122地点から出土した焼人骨の人類学的報告

新潟医療福祉大学 自然人類学研究所
辰巳晃司・佐伯史子・奈良貴史

1. はじめに

埼玉県志木市中野遺跡第122地点の2022年発掘調査において、中世以降に相当する767号土坑（火葬土坑）より人骨片が多数出土した。本稿はそれらの人類学的報告である。

2. 方法

年齢は、頭蓋縫合の閉塞状況（瀬田・吉野 1990；White et al, 2012）、四肢骨骨端部の癒合状況（瀬田・吉野 1990；Scheuer and Black, 2000）などを総合的に判断して推定した。年齢段階は、乳児（0～1歳）、幼児（1～6歳）、小児（6～14歳）、若年（15～19歳）、壮年（20～39歳）、熟年（40～59歳）、老年（60歳以上）と区分した。性別は、主に頭骨の形態（Buikstra and Ubelaker, 1994）に基づいて推定した。頭蓋形態小変異の観察項目はDodo（1974）とDodo and Ishida（1990）に準じた。

3. 人骨所見（第26表、図版18・19）

（1）出土状態

人骨は長軸120cm、短軸100cm、深さ20cmのT字状を呈する土坑より出土した。土坑の長軸は概ね南北方向、短軸は東西方向を示し、西側に焚き口とみられる張り出し部が確認される。土坑の南側から多量の炭化物が検出され、さらに張り出し部の側壁に焼土が確認されていることから、本土坑は火葬遺構と考えられている。人骨は全体的に白色の色調を呈するため、被熱したものとされた。骨は土坑の中央部を中心に出土しており、解剖学的位置関係は保たれていなかった。

（2）遺存状況

細片化が著しい頭骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨が多数遺存する。骨の総重量は1440.3g、内訳は頭骨183.2g（12.7%）、体幹骨152.1g（10.6%）、上肢骨101.2g（7.0%）、下肢骨56.1g（3.9%）、上肢・下肢の区別が困難な四肢骨片284.6g（19.8%）、部位同定の困難な不明骨片663.1g（46.0%）である。骨は全体的に白色の色調を呈しており、捻転や収縮等を生じているものが多く存在する。また、四肢長骨の随所には輪状に走る亀裂が多数みられる（図版19-23～25）。これらの所見から、人骨はすべて焼成されたものと考えられる。

部位が確認できた頭骨は、前頭骨の左眼窩上縁部、左側頭骨の錐体片、右側頭骨の鼓室部、後頭骨の外後頭隆起部、右頬骨、下顎骨の歯槽部片および左右下顎枝片などである。歯は14本認められたが、すべてエナメル質が剥離し歯根部分のみ残る。体幹・四肢骨で部位が同定できたのは、椎体・椎弓片59点、肋骨片39点、左鎖骨の肩峰端、左肩甲骨の肩甲棘および関節窩片、左右不明の肩甲骨外側縁部、左右不明の上腕骨頭片および上腕骨骨幹部、左右不明の橈骨頭片および橈骨骨幹部、左尺骨の鈎状突起部、右尺骨の近位骨幹部、右舟状骨、右月状骨、左右不明の豆状骨、左右鈎骨、右第2・3中手骨、左右不明の中手骨2点および基節骨2点・中節骨3点、左寛骨片、左恥骨上肢、左大腿骨の大転子部およ

び近位骨幹部、左右不明の膝蓋骨片などである。確認された範囲では重複する部位は認められず、1個体である可能性が高い。

(3) 年齢

左大腿骨大転子部の骨端癒合が完了していることから、成人段階には達していた。また観察できた頭骨片の縫合は、外板は閉じていないが内板はすべて閉じていることから、壮年期の可能性は低いものと思われる。さらに椎体に加齢性の骨増殖が顕著には認められないことなどから、本個体の年齢は熟年程度と考えられる。

(4) 性別

左側頭骨の乳様突起は比較的大きく、外後頭隆起の発達も明瞭である。また眼窩上縁部は鋭角ではなく丸みを帯びている。以上より、男性の可能性が高いと思われる。

(5) 形態学的特徴

変形・破損が著しいため、形態学的特徴の観察は困難である。頭蓋形態小変異については、眼窩上孔、フシケ孔、上矢状洞溝左折の有無の観察が可能であった。眼窩上孔は前頭骨の左眼窩上縁部に認められたが(図版18-1)、フシケ孔と上矢状洞溝左折はいずれも認められなかった。

4. 焼人骨について

焼成温度と骨の変化については、これまで様々な検討がなされている。一般に骨の色調は、低温では暗赤色・褐色であるが、高温になるにつれて黒色に変化し、最終的には白色を帯びることが知られている。白色を呈するようになる温度については、650℃以上(Shipman et al, 1984)、700～800℃以上(Nicholson, 1993)、800～1000℃(平野 1935)などが報告されている。また600℃までは骨自体に変化はないが、800℃付近で著しく捻転・収縮等の変化が生じ、900℃以上になるとほとんど変化しなくなるとされている(馬場ほか 1986)。さらに軟部組織の付着した状態で骨が焼けた場合、著しく変形し細かい亀裂が多数生じるが、晒した骨は焼けてもほとんど変形せず、大きく割れるだけであるという(池田 1981)。歯のエナメル質については500℃の被熱で完全に剥離するとされ(池田 1981)、指骨など手足の先端部分の焼成が不十分な場合にはその部分の脂肪が少ないことによる影響が指摘されている(Mays, 1998)。本遺跡出土の焼人骨は、全体的に白色の色調を呈しており、捻転や収縮等を生じているものが多くみられる。さらに四肢長骨では輪状に走る亀裂も多数観察できる。検出された歯もすべてエナメル質が剥離し、歯根のみの状態である。これらの所見から、本焼人骨は死後、軟部組織がまだ骨に付着している状態で、少なくとも800℃以上の高温で焼かれたものと考えられる。確認された範囲において重複する部位は認められないことから、1個体で焼成されたものと思われる。

本焼人骨の総重量は1440.3gであった。一般に焼けた後の骨は細片化し破損する傾向にあるが、土中においては物理的に強度を保ち、分解されにくいことが知られている。これは高温により融解した無機質が再結晶化する際に水と反応してより強固な構造に変化すること、よく焼成された骨は有機物を含むしないため微生物の侵食を受けないこと、焼成による無機質の変成のため酸性土壌による溶解作用に対し耐性が強いことなどが挙げられる(Mays, 1998)。実際焼骨が土中でどの程度遺存するかについて、山口(1983)は成人焼骨の総重量は男性で約2,000g、女性で約1,300gとしている。本焼人骨は総重量1440.3gで成人男性約2,000gを下回り、その割合は約72.0%である。この遺存量はあくまで個体差の範囲内で元々1個体分の全身の骨が存在するのか、または葬送儀礼の一つとして遺体を茶毘に付し

た後、一部の骨を拾う拾骨などの影響によるものなのかは明らかではない。

拾骨については、民俗例において東北日本ではほぼすべてを拾骨する「全体拾骨」、西南日本では第2頸椎や頭骨など一部の骨を拾う「一部拾骨」がみられることが報告されている(日本葬送文化学会 2007)。また群馬県内の中世火葬人骨を集成した榑崎によれば、拾骨方法は糸魚川-静岡ライン近辺を境として全部拾骨する「東日本タイプ」と一部拾骨する「西日本タイプ」に分けられ、東日本に位置する群馬県内では全部拾骨する「東日本タイプ」が多いとしている(榑崎 2007・2008)。実際、東日本に位置する青森県十三湊遺跡中世墓および新潟県砂田遺跡中世墓のそれぞれ火葬遺構では、検出されたすべての個体において骨の遺存量が各々1個体分としては極端に少ないことから、ほぼすべての骨が拾骨された可能性が指摘されている(奈良 2007、奈良・佐伯 2021)。また、西日本に位置する山口県吉浜遺跡中世墓の火葬遺構においては、検出された個体のすべてに第2頸椎が認められないことから、選択的な第2頸椎の一部拾骨が行われた可能性が報告されている(田中 1985)。ただし、東日本においても宮城県松木遺跡中世墓における歯の拾骨(高橋・佐々木 1986)、東京都増上寺寺院群近世墓における歯と第2頸椎の拾骨(奈良 1988)、新潟県細池寺道上遺跡近世墓における頭骨・歯・第2頸椎の拾骨(奈良ほか 2021)などのように一部拾骨に相当する事例もみられ、遺跡によって拾骨方法は異なっている。本遺跡出土の焼人骨の遺存量がやや少ない要因については、同じ埼玉県内の他遺跡の事例と合わせて、中世以降の葬送儀礼の観点を含め、今後十分に検討していく必要がある。

5. まとめ

埼玉県志木市中野遺跡第122地点の2022年発掘調査において、中世以降に相当する767D(火葬土坑)より1個体と考えられる焼人骨が出土した。本焼人骨は熟年程度で男性の可能性が高く、死後軟部組織がまだ残った状態で焼成されたものと考えられる。焼成温度は少なくとも800℃以上の高温と推定される。焼人骨の総重量は1440.3gで成人男性約2,000gを下回るが、これは個体差の範囲内なのか、あるいは拾骨などの影響によるものなのかは、今後検討を要する課題である。

[引用文献]

- 馬場悠男・茂原信生・阿部修二・江藤盛治 1986 根古屋遺跡出土の人骨・動物骨。梅高茂・大竹憲治編、霊山根古屋遺跡の研究、霊山根古屋遺跡調査団、霊山町、pp.93-113。
- Baukstra J.E. and Ubelaker D.H. 1994 Standards for data collection from human skeletal remains. *Arkansas Archaeological Survey Research Series*, 44, Fayetteville, Arkansas.
- Dodo Y. 1974 Non-metrical cranial traits in the Hokkaido Ainu and the northern Japanese of recent times. *Journal of the Anthropological Society of Nippon*, 82: 31-51.
- Dodo Y. and Ishida H. 1990 Population history of Japan as viewed from cranial nonmetric variation. *Journal of the Anthropological Society of Nippon*, 98: 269-287.
- 平野賢二 1935 歯牙の熱処理に対する研究(第一編) 人類歯牙の熱処理について。口腔病学会雑誌, 9: 375-393。
- 池田次郎 1981 出土火葬骨について。奈良県立橿原考古学研究所編、太安萬侶墓、奈良県教育委員会。奈良、pp.79-88。
- Mays S. 1998 *The Archaeology of Human Bones*. Routledge, London.
- 榑崎修一郎 2007 火葬人骨と考古学。狭川真一編、墓と葬送の中世、高志書院、東京、pp.107-126。
- 榑崎修一郎 2008 群馬県中世火葬遺構出土火葬人骨。群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要, 26: 91-118。
- 奈良貴史 1988 墓制について。港区芝公園1丁目遺跡調査団編、増上寺院群 光学院・貞松院跡・源興院跡、東京都港区教育委員会、東京、pp.504-517。
- 奈良貴史 2007 十三湊遺跡第157次調査出土人骨。中央大学文学部日本史学研究室編、津輕十三湊遺跡、中央大学文学部日本史学研究室、八王子、pp.140-148。
- 奈良貴史・小林鷹・波田野悠夏・佐伯史子・澤田純明・辰巳晃司 2021 新潟県新潟市細池寺道上遺跡出土人骨の人類学的調査報告。新潟市文化財センター編、細池寺道上遺跡X 第29・31次調査、新潟市教育委員会、新潟、pp.138-143。

奈良貴史・佐伯史子 2021 骨の分析 平成28年度の分析, 阿賀野市教育委員会編, 砂田遺跡・山本遺跡, 阿賀野市教育委員会, 阿賀野, pp. 57-61.

Nicholson R.A. 1993 A morphological investigation of burnt animal bone and an evaluation of its utility in archaeology. *Journal of Archaeological Science*, 20: 411-428.

日本葬送文化学会編 2007 火葬後拾骨の東と西, 日本経済評論社, 東京.

Scheuer L. and Black S. 2000 *Developmental Juvenile Osteology*. Academic Press, San Diego.

瀬田季茂・吉野峰生 1990 白骨死体の鑑定, 令文社, 東京.

Shipman P., Foster G., Schoeninger, M. 1984 Burnt bones and teeth: an experimental study of color, morphology, crystal structure and shrinkage. *Journal of Archaeological Science*, 11: 307-325.

高橋理・佐々木務 1986 柳生・松木遺跡出土動物遺存体・人骨, 仙台市教育委員会, 柳生, 仙台市教育委員会, 仙台, pp. 249-251.

田中良之 1985 中世の遺構, 下関市教育委員会, 吉母浜遺跡, 下関市教育委員会, 下関, pp. 31-100.

White T.D., Black M.T., and Folkens P.A. 2012 *Human Osteology*, 3rd edition. Academic Press, San Diego.

山口敏 1983 出土人骨についての分析, 小千谷市教育委員会編, 電ヶ池観音堂塚群発掘調査報告書Ⅱ, 小千谷市教育委員会, 小千谷, pp. 41-43.

取付上げNo	部 位	重量 (g)	取付上げNo	部 位	重量 (g)	取付上げNo	部 位	重量 (g)	
№6	不明骨片	1.3	№33	肋骨片1点	1.5	№51	四肢骨片	25.9	
№7	不明骨片	0.7	№34	肋骨片	2.0	№52	胸骨2本	0.4	
№8	不明骨片	1.0	№35	左胸肋骨片	21.1		椎骨片4点	10.1	
№9	不明骨片	0.7	№36	不明骨片	4.6		肋骨片3点	2.3	
№10	不明骨片	2.0	№37	肋骨片1点	2.0		左胸中骨関節部片	7.0	
№11	不明骨片	0.2	№38	下顎骨左下顎骨片	8.9		左尺骨腕状突起部	2.3	
№12	不明骨片	0.6		胸骨1本	0.1		右舟状骨1点	0.6	
№13	四肢骨片	1.4	№39	右尺骨近位骨幹部	12.7		左右肋骨1点	0.6	
№14	頭骨片	4.1	№40	左胸中骨中腕	6.5		中手骨1点	1.7	
№15	肩甲骨外側縁部	3.1	№41	四肢骨片	4.4		手の指骨1点	0.3	
№16	頭骨片	10.6	№42	四肢骨片	12.7		四肢骨片	32.1	
	肋骨片1点	0.9	№43	不明骨片	3.5		不明骨片	54.1	
	椎骨頭片	0.8	№44	左腕上腕	2.5	№53	肋骨片1点	2.1	
	四肢骨骨幹部片	6.6		不明骨片	5.9	№54	手の中指骨1点	0.6	
№17	不明骨片	11.1	№45	四肢骨片	6.4		四肢骨骨幹部片	9.6	
	右側頭骨後部	1.6	№46	四肢骨片	23.2		不明骨片	3.9	
	頭骨片	3.9	№47	四肢骨片	9.4	№55	不明骨片	0.9	
	手の中指骨1点	0.4		不明骨片	4.6	№56	不明骨片	0.7	
	不明骨片	7.4	№48	左側頭骨後部片	3.6	№57	下顎骨右下顎枝片	3.3	
№18	四肢骨片	11.5		右脛骨	3.6		頭骨片	2.3	
№19	前頭骨左側縁上縁部	4.9		頭骨片	16.3		四肢骨片	5.2	
№20	頭骨片	3.2		胸骨1本	0.5	№58	椎骨片1点	0.9	
№21	下顎骨歯槽部片	0.9		椎骨片11点	14.1		不明骨片	3.4	
	肋骨片1点	2.4		肋骨片8点	8.1	№59	椎骨片3点	6.4	
	不明骨片	3.2		左鎖骨肩峰端	2.9		肋骨片2点	2.9	
	不明骨片	2.2		椎骨骨幹部片	9.9		手の基礎骨1点	0.7	
№22	左大腿骨近位骨幹部	22.7		手の基礎骨1点, 肋骨2点	2.0		四肢骨片	9.8	
№23	左大腿骨大転子部	6.9		不明骨片	79.9		不明骨片	16.7	
№24	四肢骨片	3.6	№49	胸骨2本	0.8	№60	不明骨片	1.8	
№25	頭骨片	34.4			不明骨片	34.3	№61	肋骨片1点	0.6
	不明骨片	10.2			肋骨片3点	4.2	№62	胸骨2本	0.3
№26	上脛骨頭片	2.6		裏骨片	7.6		不明骨片	1.1	
	四肢骨片	11.5		四肢骨片	34.5	№63	四肢骨片	2.6	
№27	頭骨片	17.5		不明骨片	108.3	№64	不明骨片	2.3	
	上脛骨頭片	1.5	№50	椎骨片16点	26.9	№65	四肢骨片	5.2	
	四肢骨片	5.3			肋骨片14点	21.3	№66	四肢骨片	4.3
肋骨片2点	3.8			椎骨頭片	1.0	№67	四肢骨片	2.2	
№30	上下顎不明歯槽部	0.2		右第2・3中手骨, 中手骨1点	5.3		不明骨片	4.5	
	肋骨片1点	0.7		手の中指骨1点	0.8	№70	不明骨片	0.4	
	上脛骨頭片	3.1		右月状骨1点	1.1	骨一括	胸骨4本	1.2	
四肢骨片	21.7		豆状骨1点	0.3			椎骨片9点	6.6	
№31	後頭骨外後頭隆起部	24.7		左裏骨片, 裏骨片	14.7			手の指骨3点	1.1
	頭骨片	12.6		四肢骨片	37.0			四肢骨片	6.6
	上脛骨骨幹部	16.1		不明骨片	167.2		不明骨片	159.4	
	四肢骨片	8.1	№51	膝蓋骨片	1.7	土嚢袋一括	胸骨2本	0.2	
№32	不明骨片	1.5					計	1440.3	

第26表 出土人骨一覧表

第5章 調査のまとめ

第1節 旧石器・縄文時代について

本調査区で検出された当該期の遺構は、縄文時代の土坑10基(720・752・753・756～758・771・779・781・783D)・ピット1本(78P)である。以下では、主な事項について遺物を中心に時代に追って述べたい。

後期旧石器時代後葉の細石刃1点が遺構外から検出された。周辺遺跡では三芳町南止遺跡(大久保・中村 2006)、藤久保東遺跡(松本・柳井・大久保 2009)、新座市池田遺跡(佐々木・斯波 1976)、富士見市打越遺跡(富士見市教育委員会 1994)から細石刃の出土が認められる。これまで中野遺跡では、細石刃の出土がなかったが、今回の出土例より、今後、細石刃の石器集中地点が検出される可能性が考えられ、注視する必要がある。

縄文時代早期については、752号土坑から条痕文系土器が1点検出されている。次に前期は、遺構外から前葉の花植下層式、753号土坑、遺構外から中葉の黒浜式、783号土坑、78号ピット、遺構外から後葉の諸磯a・b・c式、752・771・781・783号土坑から末葉の十三菩提式が多く検出され、中期については720・756・758号土坑から前葉の五領ヶ台式が僅かに検出するのみで、以降の縄文時代後期・晩期の土器は検出されなかった。

縄文土器検出土坑の範囲をみていると調査区東部・中央部では783号土坑の1基以外は未検出で、西部の東から西にかけての緩やかな傾斜始点範囲に集中している。その状況は、時期による分布の偏り、もしくは、調査区東部・中央部の段切造成による縄文土坑削平の可能性も考えられる。

第2節 奈良・平安時代について

本調査区で検出された当該期の遺構は、奈良・平安時代の炭焼窯1基が検出された。以下では、本調査区検出炭焼窯の主な事項について触れ、周辺遺跡検出の古代炭焼窯を参考に挙げ述べたい。

(1) 1号炭焼窯について

炭焼窯は調査区西部南側の西向き斜面に位置し、斜面の等高線と直行するように検出された。形状は登り窯状で検出状況から地下式かは不明であった。

炭焼窯の平面形状は羽子板状で、斜面下方から焼成室・煙道部の順で検出され、前底部は検出されず、調査区外にのびていると考えられる。規模は残存全長2.50mでその内、焼成室が1.60m、煙道部が0.90mを測り、焼成室幅は1.70～1.75m、深さ20～40cm、煙道部幅は0.38m、深さ18cmを測る。底面の傾斜は焼成室下方から煙道部に向かって傾斜角度10°で直線的に立ち上がり、煙道部から平坦に進み、同部奥壁で傾斜角度30°で立ち上がる。

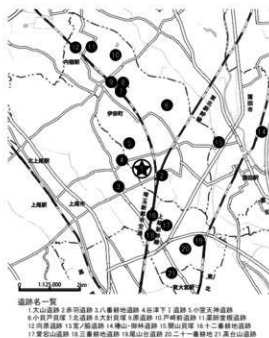
炭焼窯の時期を特定できる遺物は出土されず、炭焼窯出土炭化物の放射性炭素年代測定の結果によ

り、奈良・平安時代(8~9世紀)として位置付けた。

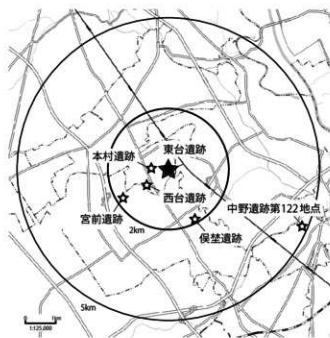
(2) 周辺遺跡の古代炭焼窯について

中野遺跡第122地点から北西側の近隣市町の遺跡からは奈良・平安時代の炭焼窯が多数検出されている。以下、記していくと、本調査地点から西西北へ約5km地点に製鉄関連遺跡のふじみ野市東台遺跡では、横口付木炭窯(15地点)1基、登窯状木炭窯(18地点)9基が検出されている(高崎 2005)。その東台遺跡を中心にして西へ約500m先のふじみ野市本村遺跡で半地下式木炭窯2基(高崎・越村ほか 2009)、南西へ約1km先のふじみ野市西台遺跡で登窯状木炭窯1基(今井・高崎 2005)、さらに南西約2kmの三芳町宮前A遺跡で登窯状木炭窯1基、南東約2kmの三芳町俣埜遺跡で登窯状木炭窯5基、横口付木炭窯1基(大久保・中村 2006)が検出されている。それぞれの木炭窯からは出土遺物が無く、本村遺跡86地点と西台遺跡の木炭窯では放射性炭素年代測定で10世紀代の結果を得ており、宮前A遺跡と俣埜遺跡でも同測定で奈良・平安時代としている。

埼玉県内における古代の代表的な製鉄関連遺跡は、櫛引台地上の神川町梶原遺跡(赤熊 2015)・本庄市大久保山遺跡(赤熊 2015)、大宮台地上の伊奈町大山遺跡(赤熊 2015)、武蔵野台地上の東台遺跡(高崎 2005)が挙げられる。それらの製鉄関連遺跡周辺の遺跡からも多数の炭焼窯が検出されている。大山遺跡を例として、炭焼窯検出遺跡との位置関係をみてみると、大山遺跡を中心に半径5km圏内に収まる状況がうかがえる(第37図)。その状況を今回の中野遺跡第122地点検出の炭焼窯と製鉄関連遺跡の東台遺跡との位置関係で照らし合わせてみると、大山遺跡同様の5km圏内の末端に位置している(第38図)。従来の東台遺跡と炭焼窯検出遺跡の位置関係は、東台遺跡を中心に半径2km圏内に収まる状況であったが、大山遺跡の事例を参照すれば、本調査区検出の炭焼窯が東台遺跡を木炭供給先とする遺構として捉えられよう。現状で中野遺跡やその周辺遺跡での製鉄関連遺構や炭焼窯の検出報告事例が無い点からも製鉄関連遺跡の東台遺跡への木炭供給を目的とした炭焼窯としての可能性がある。



第37図 大山遺跡周辺の炭焼窯検出遺跡



第38図 東台遺跡周辺の炭焼窯検出遺跡

第3節 中世以降について

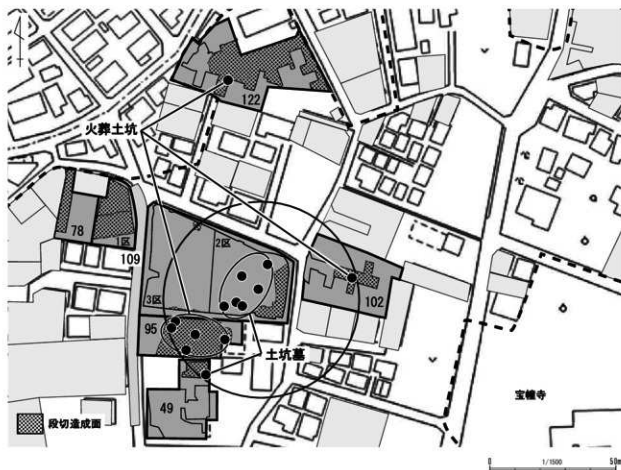
本調査区で検出された遺構の大半が当該期に帰属するものと推定され、その中で段切状遺構・767号土坑(火葬土坑)・地下式坑に着目し、以下主な事項について触れ述べていく。

(1) 段切状遺構について

本地点は調査区のほぼ全域に及ぶ段切造成面と、その造成面内に3か所の段切状遺構が検出された。中野遺跡において、段切状遺構が検出されている調査地点は第49・78・95・102・109地点である(第39図)。以下、他地点の段切状遺構に触れ、それらを踏まえて本地点の段切状遺構を概観し、述べていきたい。

① 中野遺跡における段切状遺構の様相

中野遺跡第49地点(尾形・深井・青木 2004)では、調査区北部で段切状遺構が検出された。ローム面は標高8.15mで検出され、調査区中央部の試掘坑基本層序において、第IV層に相当する深さまで掘り込んでいたものと考えられ、後述する同地点北側に位置する中野遺跡第95地点の段切状遺構の南限に当たると考えられている。遺構内からは土坑が5基確認されており、その内の67号土坑は土坑墓



第39図 中野遺跡段切造成面範囲分布図

であった。

中野遺跡第78地点(大久保・尾形・青木 2014)は、①現在の斜面地形に対して緩やかになった平場が存在すること、②平場の表面がやや硬化していたこと、③立川ローム層第Ⅲ層が検出されず、覆土直下が第Ⅳ層であったことから、調査区全域が段切造成面と考えられている。標高は南端が7.8m、北端が6.5mで、南側にかけて傾斜が高く、約25.7mの距離で標高差約1.3mの平場が形成されている。

中野遺跡第95地点(徳留・尾形・青木 2017)は、同遺跡第49地点で検出された段切状遺構と同一の遺構として考えられ、南北方向12.5m、東西方向21～33mの範囲で平場が形成されている。その平場からピット、土坑、井戸跡が多数検出されており、その内、T字型の火葬土坑が5基検出されたことが特筆すべき点として挙げられている。出土した炭化材の放射性炭素年代測定により、火葬土坑はすべて13世紀末～15世紀前半の年代幅に収まっているため、段切状遺構に関しても同時期に造成されたものと考えられている。

中野遺跡第102地点(尾形・大久保・深井・青木 2019)は、調査区中央から西端までの、東西方向17m、南北方向14mの平場が形成されている。平場から、T字型の火葬土坑が1基検出されており、出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行ったところ、室町時代(15世紀前半～中頃)という年代結果が出たため、段切状遺構に関しても同時期に造成されたものと考えられている。

中野遺跡第109地点(尾形・徳留・大久保・市川・梶山・植月 2021)では、段切状遺構が1区に2か所、2区に1か所、3区に2か所検出されている。

1区の標高は北端6.4m、南端7.9mの標高差約1.5mで、南側にかけて4°ほど傾斜が高くなる。平場を確保するために上下2段階で切土による造成工事が行われており、最初に下段、次いで上段の順に造成されたものと考えられている。ローム面については上段が第Ⅳ層まで、下段が第Ⅲ層下部まで削平されており、下段に至っては自然地形を利用して平場を形成している。

3区の南端部には、68°で直線的に立ち上がる段差が検出された。中野遺跡第49・95地点で検出された段切状遺構の北限にあたる段差部と考えられている。

また、2区の南東部にも段切状遺構が確認されたが、ここで特筆されるのは段切状遺構の外側に土坑墓が6基検出されたことである。時期については一番北側に位置する土坑墓のみ、出土した遺物から近世の所産と考えられ、他の5基は中世所産の土坑墓と考えられている。

②第122地点の段切状遺構

本地点は、試掘坑基本層序においてT P 3・4は立川ローム層第Ⅲ層まで、T P 1・2は第Ⅳ層まで、T P 5は第Ⅴ層までが削平されていたことがわかり、(C・D・E-4)グリッドから東側にかけての全域が段切造成面と考えられる。標高は西端が6.5m、東端が7.5mで、東側にかけて傾斜が高く、約50mの距離で標高差約1mの平場が形成されている。

また、中野遺跡第95・102地点と同様に段切造成面内に火葬土坑が検出された。調査区中央部南西側の(E-5)グリッドで、T字型の火葬土坑が1基検出され、出土した炭化材の放射性炭素年代測定から、室町時代(15世紀前半～中頃)という年代結果が示された。調査区全域に及ぶ段切造成面に関しても同時期に造成されたものと考えられる。

調査区全域に及ぶ段切造成面の内、調査区中央部北壁側に1号段切状遺構(以下1段)、東部南側に2号段切状遺構(以下2段)、東部中央に3号段切状遺構(以下3段)の3基がそれぞれ検出された。2・

3段は、調査範囲も狭小で、全容を掘むことは難しかったが、調査区全域に及ぶ段切造成面をさらに一段深く掘りこんで造成された遺構と考えられる。2段においては、(D-11・12)グリッドに北限、(E-12)グリッドに南限と考えられる段差があるため、部分的に段切面を造成していたことがわかる。

段切造成面内からは、地下式坑が1基検出されている。地下式坑は、調査区全域に及ぶ段切造成後の遺構として捉えられる。

③ 1号段切状遺構

今回検出された1段は、現地調査時においては平場の性格をもつ段切状遺構として扱っていたが、形状や規模などから平場の性格ではない異なる性格を持つ遺構として捉え、その性格を構造や史料から求めたことで、中世以降の馬小屋ではないかと推察した。

まず、構造の点から見てみると、馬小屋遺構を論じている篠崎謙治氏の遺構判断基準（篠崎 2010）によると、①カマド・炉はない。②竪穴が設けられている。③床面は傾斜している。④尿溜めがある。⑤張り出しが付くものがある。⑥スロープが設けられているものがある。この6点を馬小屋と判断できる基準としている。

その判断基準を1段と照らし合わせると、まず①・②であるが、カマド・炉は検出されず、東西方向に9.65m、南北方向に現存値で4.38m、深さ76cmの竪穴状の様相を持つ。③について床面は、わずかな傾斜だが中央部に位置する隅丸長方形の掘り込みに向かって下がっている。そして、その隅丸長方形の掘り込みは20cmの深さをもっているため、④の尿溜めとしての機能があったのではないかと考えられる。おおむね、必須とされている①～④の判断基準を満たしている状況が窺える。

次に、史料の点を見ていくと、17世紀後半の農書『百姓伝記』（古島校注 岩波文庫版 1977）巻六不浄集には、馬小屋についての記述が見られる。「一、百姓の馬屋は、1頭飼う場合でも9尺四方か2間四方にすること」とあり、記述内の尺間を現代の長さに直してみると、9尺が約2.7m、2間が3.6mで東西方向に9.65m（約5.3間）の規模を持つ1段は、2頭もしくは3頭の馬を収容できる馬小屋であったと考えられる。

また、1段南東側近傍にはピット群が検出されている。遺構の性格は不明だが、ピットによる柵列などの区画施設を想定するならば、その区画内における馬洗い場や馬の繋ぎ場などの施設だった可能性が考えられる。

④ 火葬土坑と段切状遺構

本地点及び中野遺跡第95・102地点の火葬土坑は、段切造成面内あるいは段切状遺構内に位置している。対して、同遺跡第109地点の土坑墓は段切状遺構外に位置している。同遺跡第49地点の土坑墓は、段切状遺構内に位置していたため例外として扱うが、火葬土坑は段切内、土坑墓は段切外、という一種の区分がある程度されていたと考えられる。

18世紀はじめに書かれた『館村旧記』には、「宝幢寺の門外の西の方の畑は、前々より村中の墓場」という記述が残されている（志木市総務部 1981）。中野遺跡第49・95・102・109地点の火葬土坑・土坑墓は、宝幢寺門外から西側へ約100mの位置で、そこを中心に直径76.5mの円内に収まる範囲に分布しており、「村中の墓場」に該当するものと考えられているが、本地点の火葬土坑はその範囲より約50m北側に離れた場所から検出されている。本地点の火葬土坑が「村中の墓場」の北限にあたる遺構な

のか、それとも別の土地利用によって離れた位置に作られた遺構なのか、判断材料が少ないため、今後の調査によるデータの蓄積を待ちたい。

(2) 火葬土坑について

今回の調査では調査区中央部南西側で検出された767号土坑は、平面形がT字形を呈し、遺構内から炭化物・焼土・人骨片の出土がみとめられたため、火葬土坑と考えられる。志木市内での火葬土坑検出状況は、市で初の検出となった中野遺跡第95地点から5基、続いて同遺跡第102地点から1基、城山遺跡第96地点(尾形・大久保・徳留・遠竹・坂下・宅間 2021)からは2基、それらに次ぐ検出事例となる。中野遺跡第95地点の調査成果(尾形 2017)では、埼玉県熊谷市(旧大里郡大郷町)下田町遺跡Ⅱの調査報告書(亦熊・岡本・松岡 2005)で述べられた火葬土坑のまとめとの比較が行われ、また、城山遺跡第96地点の調査成果についても同様に両遺跡との比較検討が行われている。ここでも同様にそれらの調査成果を参考に比較検討していく。

① 時期

中野遺跡第95地点、同遺跡第102地点、城山遺跡第96地点ではそれぞれの火葬土坑からの出土遺物による時期の推定はできず、遺構内から検出された炭化材の放射性炭素年代測定によって時期推定がおこなわれた。今回の中野遺跡第122地点の火葬土坑からも出土遺物の検出はなく、同様の測定方法で時期推定をおこなった。上記3遺跡と当遺跡の測定結果をあわせて、以下に記す。

中野遺跡第95地点	274 D	14世紀前半～中頃・14世紀末～15世紀前半／鎌倉～室町時代
	284 D	13世紀末～15世紀初頭／鎌倉～室町時代
	311 D	15世紀初頭～前半／室町時代
	316 D	14世紀前半・14世紀末～15世紀前半／鎌倉～室町時代
	318 D	15世紀初頭～前半／室町時代
中野遺跡第102地点	268 D	15世紀前半～中頃／室町時代
城山遺跡第96地点	1073 D	13世紀末～14世紀末／鎌倉～室町時代
中野遺跡第122地点	767 D	15世紀前半～中頃／室町時代

② 火葬土坑の外郭部

本地点検出の火葬土坑は、形状が長軸2.45mを測るT字形土坑の中に呼応する位置で、さらに主体部としてのT字形土坑が入り子状態で検出された。土層観察から切り合い関係は見られず、同一遺構として考えられる。火葬機能を呈する主体部を取り囲む形は外郭土坑の様相を示している。その外郭土坑の南西壁上端際に沿う形で浅い平場状の掘り込みが検出されており、昇降口として機能が推定される。外郭土坑の性格は不明ではある。

③ 火葬土坑の主体部規模

火葬土坑の主体部規模をみてみると下田町遺跡Ⅱでは、長軸0.80～1.30m、短軸0.30～0.55mの範囲のなかに入るとされ、中野遺跡第95地点では、長軸0.98～1.42m、短軸0.52～0.61mと、下

田町遺跡より若干大きい傾向がある。中野遺跡第102地点では、長軸1.23m、短軸0.53mと同様な傾向で、城山遺跡第96地点では、2基のみではあるが、長軸1.10～1.14m、短軸0.51～0.55mと、中野遺跡第95地点とは逆に下回る傾向となっている。本調査地点の767号土坑は主体部の規模でみても長軸1.12m、短軸0.54mと上記3遺跡の範囲の中に収まる状況がうかがえる。

④火葬土坑の主体部長軸方向

周辺遺跡から検出された火葬土坑の主体部長軸方向を見てみると火葬土坑は南北軸方向の検出例が多数を占める傾向があり、このことから北枕の可能性が示唆されている。埼玉県さいたま市大古里遺跡(小倉・柳田ほか 2001)から検出された第21号火葬土坑の人骨出土状況からも北枕での安置の状況がうかがえる。そのような状況をふまえ、中野遺跡、城山遺跡から検出された火葬土坑の主体部長軸方向をみてみると中野遺跡第95地点では検出された5基、同遺跡第102地点での1基がほぼ南北軸方向をとり、城山遺跡第96地点でも2基とも南北軸方向をとることから本調査地点検出の火葬土坑長軸方向をみてみるとN-20°-Eを測り、若干東側に傾くがほぼ南北軸方位をとる。3地点での長軸方向はある一定の共通性がみられる。また、焚口である突出部の設置方向をみてみると中野遺跡第95地点では5基中2基が西側、3基が東側に設置されており、同遺跡第102地点の1基、城山遺跡第96地点での2基とも西側に設置されている。本調査地点検出の火葬土坑をみてみると西側の設置であった。東側、西側と共通性はみられなかったが、中野遺跡第95地点の東側への設置については地理的制約が起因している可能性を示唆しており、本来は西側設置が主体だった可能性がうかがえる。

⑤火葬土坑検出人骨

下田町遺跡Ⅱでは、火葬土坑29基の内20基で人骨が検出されている。人骨の分析結果によると、火葬土坑1基から検出される人骨は1体分。頭蓋骨や主要四肢骨などの大きな骨の未検出による、拾骨行為の推定。人骨推定年齢は40代以下の成人が大半を占め、一部小児や10代が見受けられ、性別は男性、女性とそれぞれ判別されている。

中野遺跡第95地点では、火葬土坑5基の全てで人骨が検出されている。人骨の分析結果によると、焼却後の遺構外持ち出しを示唆しており、拾骨行為の推定がなされている。性別・年齢については、特定はされなかったが、唯一374号土坑から検出された人骨の頭蓋骨は未縫合である点から、高齢の老人ではないとされている。

中野遺跡第102地点では、火葬土坑1基から人骨が検出されている。人骨の分析結果によると、同遺跡第95地点と同様に焼却後の遺構外持ち出しによる拾骨行為の推定がなされ、性別・年齢については不明であった。

城山遺跡第96地点では、火葬土坑2基全てで人骨が検出されているが、遺存状態が悪く、形を留めない小片が大部分であった。中野遺跡第95地点と同様な状況から拾骨行為が推定されている。

上記、4遺跡の検出状況をふまえ、本調査地点の人骨の分析結果を検出状況とあわせて見てみると、まず、検出範囲は主体部中央部を中心に炭化物層より上層でみとめられた。人骨の遺存状況は、細片化が著しい頭骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨が多数検出されている。検出された範囲では重複する部位がないことから1体分の可能性が示唆され、性別は男性、年齢は頭蓋骨の縫合などの観察から成人から熟年程度の範囲で壮年段階の可能性は低いとされている。

以上、4遺跡と中野遺跡第122地点の火葬土坑検出人骨の分析結果をみてみると、いくつかの共通点が見いだせる。まず、火葬土坑から検出される人骨は1体分。次に遺存状況から拾骨行為の推定。そして、火葬対象年齢については高齢の老人はみとめられないという点では、共通性がみとめられるが、それ以外は幼年～熟年段階が幅広くみとめられる。

⑥炭化材の検出状況

中野遺跡第95・102地点と城山遺跡第96地点の火葬土坑から確認された炭化材の検出状況をみてみると、両地点とも主体部長軸方向と同じ方向に並べられており、中野遺跡第95・102地点では坑底面に2本の横木状の丸木を短軸方向に向けて設置する状況があり、城山遺跡第96地点では、確認されなかった。本調査地点の検出状況は、まず方向は同様で、横木状の丸木についても、片側のみでの検出ではあったが、同様な状況がうかがえた。炭化材と人骨との検出層位についてであるが両地点とも人骨片が炭化材の上部層から検出されており、本調査地点も同様な状況であった。それらの状況は、遺体の下部に2本の丸木を配置し、長軸方向に燃料材を渡して敷いていたものと推定される。本調査地点の炭化材樹種同定の分析結果をみてみると、エノキ属とタケ亜科が多く確認され、中野遺跡第95・102地点、城山遺跡第96地点の分析結果も、ほぼ同様な結果が得られており、タケ亜科は着火剤、エノキ属は燃料材として利用されていたと推定されている。

(3) 地下式坑について

地下式坑は調査区中央部から1竪坑1主体部の721号土坑が検出された。また、未完掘の為、形状などからの推定ではあるが、中央部東側に741号土坑、東壁際に742号土坑がそれぞれ検出された。主軸方位は721号土坑が東へ34°、741号土坑が南北方向、742号土坑が西へ22°に振れ、共通性はみられなかったが、3基の土坑を東西軸上で見てみると同一軸上に並び、等間隔の距離感で検出されている点は興味深い。規模は、直径で概観してみると、721号土坑は2.35m、741号土坑は4.30m、742号土坑は2.93mを測り、721号土坑と742号土坑は2・3m範囲の同一規模で収まり、741号土坑についてはそれらの規模より約1.5倍の大きさであった。深さは721号土坑が134cm、741号土坑と742号土坑については調査区壁際であったため、安全性を考慮して、各々、約80cmの深度掘削でとどめた。形状は概ね、竪坑が長方形、主体部が正方形を呈する。741号土坑の竪坑については、他の2基における竪坑直径規模より約2倍の大きさを呈し、作り替えの可能性がうかがえる。

出土遺物は、721号土坑からは石臼と砥石が検出され、当遺構の帰属時期に伴うものとして捉えることができる。741・742号土坑からは、瀬戸・美濃焼や肥前・波佐見焼の陶磁器が検出され、同一焼の陶磁器検出状況などから両遺構の帰属時期が近い可能性が窺える。また、当調査区から同一台地上の東側に所在する中野遺跡第116地点からも同様な地下式坑が2基検出されている。

[引用・参考文献]

- 赤石光資 1987『谷津下1遺跡』上尾市教育委員会
- 赤石光資 1988『愛宕山遺跡』上尾市教育委員会
- 赤熊浩一・岡本健一・松岡有希子 2005『下田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業報告書第301集 国土交通省 関東地方整備局 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 赤熊浩一 2015「大山遺跡を中心とした古代武蔵国の鉄関連遺跡調査の動向」第29回「鉄の技術と歴史」研究フォーラム講演会

第5章 調査のまとめ

- 今井 堯・高崎直成 2005『文化財調査報告第36集 町内遺跡群Ⅱ』埼玉県大井町教育委員会
- 大久保淳・中村 愛 2006『町内遺跡発掘調査報告書Ⅵ』三芳町埋蔵文化財報告32 埼玉県人間部三芳町教育委員会
- 大久保聡・尾形剛敏・青木 修 2014『中野遺跡第78地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第57集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・佐々木保俊・深井恵子・佐々木潤 2002『埋蔵文化財調査報告書3(城山遺跡第15地点 城山遺跡第16地点)』志木市の文化財第34集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・深井恵子・青木 修 2004『中野遺跡第49地点—東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告—』志木市遺跡調査会調査報告第7集 志木市遺跡調査会
- 尾形剛敏・深井恵子・青木 修 2009『埋蔵文化財調査報告書4(城山遺跡第18地点 城山遺跡第19地点 城山遺跡第21地点 城山遺跡第22地点)』志木市の文化財第40集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・深井恵子 2018『埋蔵文化財調査報告書8(田子山遺跡第51地点 中野遺跡第55地点 中野遺跡第57地点)』志木市の文化財第71集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・深井恵子・青木 修 2019『西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第72集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・徳留彰紀・速竹陽一郎・坂下貞則・宅間清公 2021『城山遺跡第96地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第78集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・市川康弘・堀山真理・植月 学 2021『中野遺跡第109地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第82集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・木村結香・石川安司・小林陽子 2022『中野遺跡第116地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第87集 埼玉県志木市教育委員会
- 小倉 均・柳田博之ほか 2001『大古里遺跡発掘調査報告書(第20地点)浦和市遺跡調査会報告書第300集 浦和市遺跡調査会
- 小倉 均・柳田博之ほか 2001『大古里遺跡発掘調査報告書(第24地点)浦和市遺跡調査会報告書第301集 浦和市遺跡調査会
- 栗岡 潤 2005『大古里遺跡 第10・11次—埼玉県立精神医療センター施設整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告—』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第299集 埼玉県病院局 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 佐々木保俊・斯波 治 1976『池田遺跡発掘調査報告書』新座市埋蔵文化財報告書第Ⅱ集 埼玉県新座市教育委員会
- 志木市総務部市史編纂室 1981『志木市史調査報告書 志木風土記(第二集)』
- 篠崎謙治 2010『馬小屋の考古学』高志書院
- 高崎直成 2005『東台製鉄遺跡—東台遺跡Ⅳ(第15・18地点)—』文化財調査報告書第35集 埼玉県大井町教育委員会・埼玉県大井町遺跡調査会
- 高崎直成・越村 寛・梶原 勝・伊藤末子・桜井聖悟・前山由美子 2009『中沢前遺跡Ⅰ・本村遺跡Ⅴ・大井宿遺跡Ⅰ』大井町遺跡調査会報告21 埼玉県大井町遺跡調査会
- 徳留彰紀・尾形剛敏・青木 修 2017『市場裏遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集 埼玉県志木市教育委員会
- 古島敏雄 1977『百姓伝記(上)』岩波書店
- 富士見市教育委員会 1994『富士見市史 通史編 上巻』
- 松本富雄・柳井章宏・大久保淳 2009『藤久保遺跡Ⅱ』三芳町埋蔵文化財報告34 埼玉県三芳町教育委員会
- 水口由紀子 2002『発掘された埼玉県内の炭焼窯—古代の事例を中心として—』埼玉県立歴史資料館研究紀要 第24号埼玉県立歴史資料館

版 图



1. 調査区遠景



2. 調査区全景



1. 調査前現況（北東から）



2. 調査前現況（北西から）



3. 調査区東・中央部表土剥ぎ（北から）



4. 調査区西部表土剥ぎ（東から）



5. 東・中央部プラン確認精査（北から）



6. 西部プラン確認精査（東から）



7. 調査区東・中央部プラン確認（北西から）



8. 調査区西部プラン確認（北東から）



1. 作業風景（北東から）



2. 旧石器試掘坑TP1（北から）



3. 旧石器試掘坑TP2（南から）



4. 旧石器試掘坑TP3（東から）



5. 旧石器試掘坑TP4（西から）



6. 旧石器試掘坑TP5（西から）



7. 旧石器試掘坑TP6（西から）



8. 旧石器試掘坑TP7（南から）



1. 720号土坑遺物出土状況（北から）



2. 720号土坑完掘（北から）



3. 752号土坑遺物出土状況（西から）



4. 753号土坑遺物出土状況（西から）



5. 756号土坑遺物出土状況（西から）



6. 757・758号土坑遺物出土状況（西から）



7. 771号土坑完掘（西から）



8. 779号土坑完掘（東から）



1. 781号土坑土層断面（南から）



2. 781号土坑完掘（南から）



3. 783号土坑土層断面（東から）



4. 783号土坑土層断面（南から）



5. 783号土坑焼土検出状況（東から）



6. 783号土坑遺物出土状況（南から）



7. 78号ピット土層断面（西から）



8. 78号ピット完掘（北から）



1. 1号炭焼窯検出状況（西から）



2. 1号炭焼窯検出状況（東から）



3. 1号炭焼窯土層断面D-D'（北から）



4. 1号炭焼窯土層断面B-B'、C-C'（西から）



5. 1号炭焼窯土層断面A-A'（東から）



6. 1号炭焼窯土層断面A-A'（東から）



7. 1号炭焼窯土層断面A-A'（ベルト除去後）（東から）



8. 1号炭焼窯完掘（西から）



1. 1号段切状遺構土層断面F-F' (北から)



2. 1号段切状遺構土層断面F-F' (北東から)



3. 1号段切状遺構土層断面E-E' (南から)



4. 1号段切状遺構完掘 (南から)



5. 2号段切状遺構遺物出土状況 (北から)



6. 2号段切状遺構土層断面C-C' (北から)



7. 2号段切状遺構完掘 (北東から)



8. 3号段切状遺構完掘 (北東から)



1. 717号土坑完掘（南から）



2. 718号土坑完掘（南から）



3. 719号土坑完掘（東から）



4. 721号土坑土層断面（東から）



5. 721号土坑完掘（東から）



6. 721号土坑完掘（南から）



7. 722号土坑完掘（北から）



8. 723号土坑完掘（北から）



1. 724号土坑完掘（西から）



2. 725～729号土坑完掘（西から）



3. 730・735号土坑完掘（北から）



4. 731・732号土坑完掘（西から）



5. 733・734号土坑完掘（西から）



6. 736号土坑完掘（南から）



7. 737号土坑完掘（北から）



8. 738号土坑完掘（西から）



1. 739号土坑完掘（北から）



2. 741号土坑完掘（北西から）



3. 742号土坑完掘（西から）



4. 743号土坑完掘（北西から）



5. 748号土坑完掘（西から）



6. 749号土坑完掘（東から）



7. 754号土坑完掘（南から）



8. 759・760号土坑完掘（西から）



1. 767号土坑土層断面H-H' (北から)



2. 767号土坑土層断面H-H' 近景 (北から)



3. 767号土坑炭化物・骨検出状況1 (北から)



4. 767号土坑炭化物・骨検出状況2 (北から)



5. 767号土坑炭化物・骨検出状況3 (東から)



6. 767号土坑炭化物 (骨除去後) (北から)



7. 767号土坑完掘1 (西から)



8. 767号土坑完掘2 (西から)



1. 768号土坑完掘（西から）



2. 769号土坑完掘（南から）



3. 770号土坑完掘（南から）



4. 773号土坑完掘（東から）



5. 774号土坑完掘（東から）



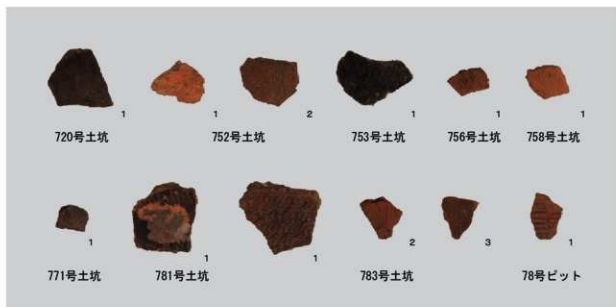
6. 775号土坑完掘（北から）



7. 776・777号土坑完掘（東から）



8. 782号土坑完掘（北から）



1. 縄文時代の土坑・ピット出土遺物



2. 1号段切状遺構出土遺物



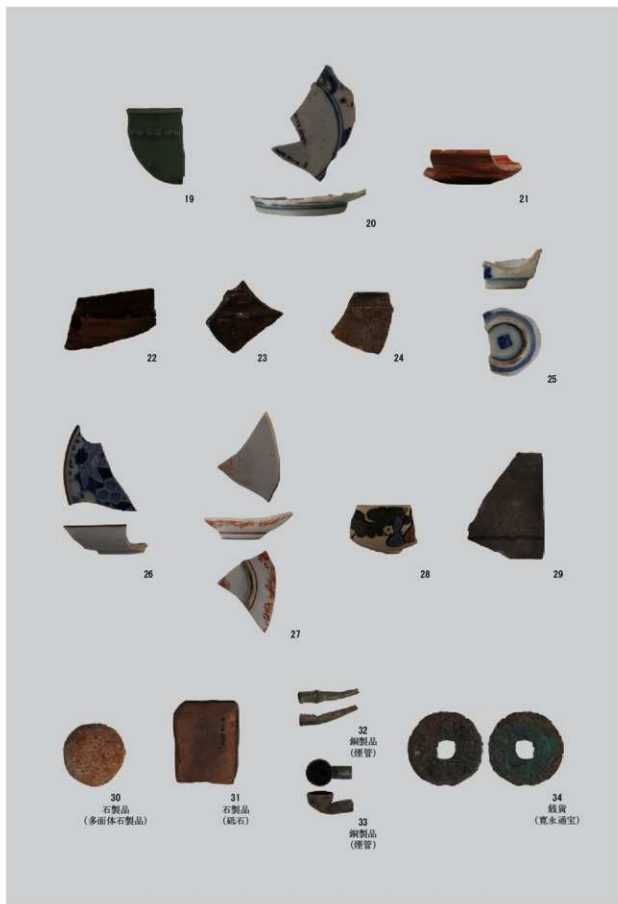
1. 2号段切状遺構出土遺物



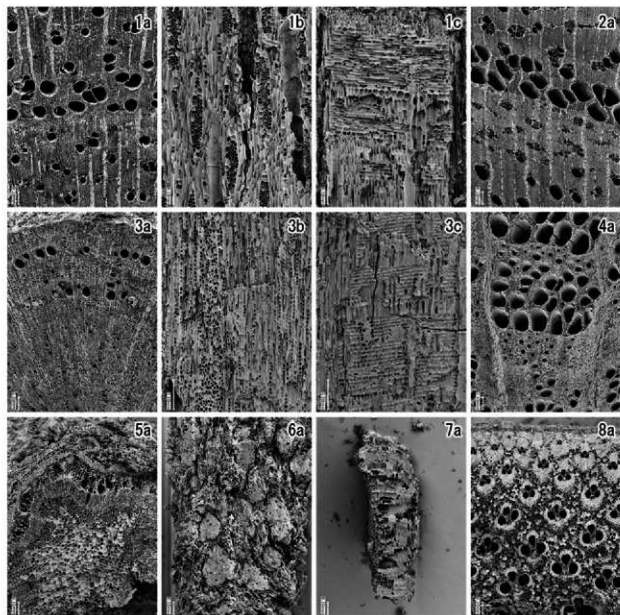
2. 中世以降の土坑・ピット出土遺物



遺構外出土遺物 1

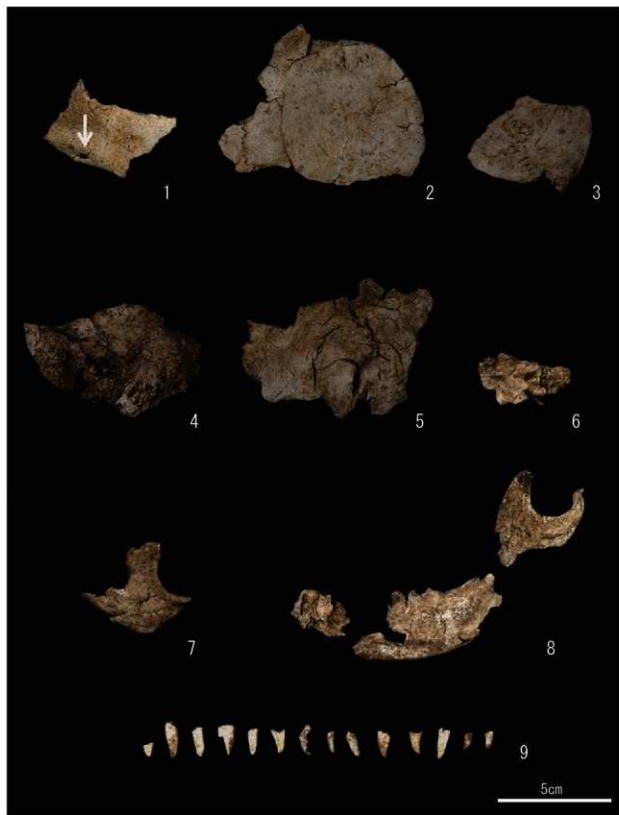


遺構外出土遺物 2



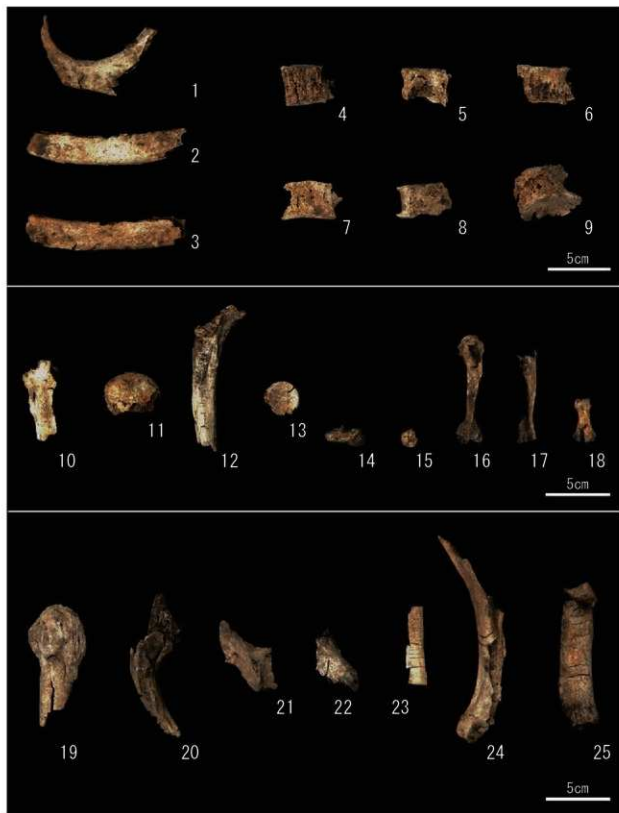
炭化材の走査型電子顕微鏡写真

- 1 a - 1 c. エノキ属 (767D分析No.6)
 - 2 a. エノキ属 (767D分析No.14)
 - 3 a - 3 c. コナラ属クスギ節 (1号炭化窯分析No.3-1)
 - 4 a. コナラ属クスギ節 (1号炭化窯分析No.4-1)
 - 5 a. 広葉樹 (1号炭化窯分析No.6)
 - 6 a. 樹皮 a (1号炭化窯分析No.5)
 - 7 a. 樹皮 b (767D分析No.3)
 - 8 a. タケ亜科 (767D分析No.8)
- a: 横断面, b: 接線断面, c: 放射断面



767号土坑（火葬土坑）出土人骨1

頭骨・歯 1：前頭骨左眼窩上緣部（矢印：眼窩上孔）。2・3：頭骨片。4：左側頭骨片。5：後頭骨外後頭隆起部。
6：左側頭骨離体片。7：右顳骨。8：下顎骨左半分。9：歯根



767号土坑（火葬土坑）出土人骨2

- 上段：体幹骨 1～3：肋骨片，4～9：椎骨片
 中段：上肢骨 10：肩甲骨外側縁部，11：上腕骨頭片，12：右尺骨近位骨幹部，13：橈骨頭片，
 14：右舟状骨，15：豆状骨，16：右第2中手骨，17：右第3中手骨，18：中趾骨
 下段：下肢骨 19：左大腿骨大転子部，20：左大腿骨近位骨幹部，21：左恥骨上肢，
 22：寛骨片，23～25：輪状に走る亀裂のみられる四肢長骨

報告書抄録

ふりがな	なかのいせきだい122ちてん まいぞうぶんかざいはっかつちょうさほうこくしょ							
書名	中野遺跡第122地点 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第94集							
編著者名	大久保聡 尾形則敏 木村結香 (志木市教育委員会) 原野真祐 石橋佳奈 (株式会社 中野技術) 黒沼保子 伊藤 茂 加藤和浩 廣田正史 佐藤正教 山形秀樹 Zaur Lomtadze (株式会社 バレオ・ラボ) 辰巳晃司 佐伯史子 奈良貴史 (新潟医療福祉大学 自然人類学研究所)							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL 048 (473) 1111							
発行年月日	令和5 (2023) 年10月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡ (全体面積)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中野遺跡 (第122地点)	志木市 柏町1丁目 1483-13	11228	09-002	35° 50' 05"	139° 34' 25"	20220829~ 20221209	709.04 (1,274.04)	分譲住宅建設 及び道路新設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中野遺跡 (第122地点)	集落跡・ 墓跡	縄文時代 前・平安時代 中世以降	土坑 ピット 炭焼窯 段切状遺構 土坑 ピット	10基 1本 1基 3か所 57基 97本	縄文土器 陶磁器・瓦製品・ガラス製品 陶磁器・瓦製品・鉄製品・銭貨		市内初の炭焼窯(1号炭焼窯)を検出した。炭化物の自然科学分析の結果から奈良・平安時代と推定される。 767号土坑(767D)からは多量の炭化材・人骨片が検出され、炭化材の自然科学分析の結果から15世紀の火葬土坑と認められた。	
要約		<p>中野遺跡は、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡である。</p> <p>今回の第122地点では、縄文時代の土坑・ピット、奈良・平安時代の炭焼窯、中世以降の段切状遺構・土坑・ピットが検出された。特に炭焼窯(1号炭焼窯)の検出は市内初となり、製鉄関連遺跡への木炭供給が行われていたことをうかがわせるものである。また、767号土坑(767D)は火葬土坑であるが、大小2基のT字形土坑が入り子状態で検出され、通常の火葬土坑とは異なる構造であった。</p>						

志木市の文化財 第94集

中野遺跡第122地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日 令和5(2023)年10月31日
印刷 有限会社平電子印刷所